

第一項第一號、第三號、第四號及第七號ニ掲グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ地方長官又ハ市長ハ之ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ第一項第二號、第五號及第六號ニ掲グル事項ニ付變更ヲ命ズルコトアルベシ

第四條ノ二 地方長官又ハ市長ハ地方生絲検査所ノ前年度ノ業務功程ヲ毎年五月三十一日迄ニ農林大臣ニ報告スベシ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ地方長官又ハ市長ニ對シ地方生絲検査所ノ業務ニ關シ報告ヲ命ズルコトアルベシ

第五條 地方生絲検査所又ハ其ノ支所ヲ廢止セムトスルトキハ地方長官又ハ市長ハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第四條ノ事業ヲ行フ爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ常置シタル生絲検査所ハ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

地方長官ハ前項ノ生絲検査所ニ付第四條各號ニ掲グル事項

七 重要物産同業組合法關係法規

重要物産同業組合法

明治三十三年三月六日法律第三五號
改正 大正五年三月法律第一五號

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ

重要物産同業組合法

本令施行後一月以内ニ農商務大臣ニ届出ツヘシ

附 則 (昭和三年九月農林省令第十二號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第三條ノ業務ヲ行フ爲市費ヲ以テ設立シタル生絲検査所ハ之ヲ本規程ニ依リ設立シタルモノト看做ス

依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組 長	一 名
一 副 組 長	若干名
一 評 議 員	若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス
副組長ハ組長ノ事務ヲ輔佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及業務施行ノ狀況ヲ監督スルモノトス
副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條 同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十條ノ二 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ
検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得

第十五條 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二 役員ノ解職
三 決議ノ取消

第十六條 同業組合若ハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員分三ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ従事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證券若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲

シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前項第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲グル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則
第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ

第一條 同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用フヘシ

同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第二條 組合ノ地區ハ一郡市以上一府縣以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル地方長官ニ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類

二 組合ノ地區

三 組合ノ目的及業務ノ概目

四 組合設置ノ事由

五 組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ

六 組合ノ創立費及收支ノ概算

第四條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意

重要物産同業組合法施行規則

一八九

規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

大正五年法律第十五號改正附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間満了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

検査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 削除

重要物産同業組合法施行規則

大正五年五月二十九日農商務省令第八號
改正 大正七年七月農商務省令第二四號
改正 大正九年八月農商務省令第二五號

ヲ求ムヘシ
第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り

遲滞ナク創立總會ヲ召集スヘシ
創立總會ヲ召集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意ハ種類毎ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

第七條 創立總會ニ於テハ役員ヲ選舉シ最初ノ事業年度ノ經費ノ豫算及徴收法ヲ議決スヘシ

第八條 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條 第十九條第一項、第二十條、第二十二條第二項第三項及第二十七條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第十條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

重要物産同業組合法施行規則

一八九

前項ノ認可アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十一條 發起人ノ發起ノ認可アリタル後一年内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條 農商務大臣組合ノ設置ヲ命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ
創立委員ハ定款ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ

第五條第二項、第七條、第八條、第十九條第一項、第二十條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項總會ニ之ヲ準用ス

第十三條 組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 業務
- 三 名稱
- 四 地區及組合員ノ營業ノ種類
- 五 主タル事務所及從タル事務所ノ所在地
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

モ一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ招集スヘシ
組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ招集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週内ニ組合會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條 組合會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

組合會ニ於テハ前項ノ規定ニヨリ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セサルトキハ出席シタ

七 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

八 役員ノ定數、權限及任免ニ關スル規定

九 業務ノ執行ニ關スル規定

十 會議ニ關スル規定

十一 會計ニ關スル規定

仲裁判斷又ハ調停ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定ヲ定款ニ記載スヘシ

聯合會ヲ組織スル組合ノ定款ニハ代表員ノ選舉ニ關スル規定ヲ記載スヘシ代表員事故アルトキ之ニ代ルヘキ豫備代表員ヲ設ケル場合其ノ選舉ニ關スル規定ニ付亦同シ

第十四條 定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサル組合ニ在リテハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條 組合ニ組合會ヲ置ク
組合會ハ組合員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織ス

代議員ノ定數、任期及選舉ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度少クトモ代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月内ニ第二回ノ組合會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ組合會ニ於テハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第二十條 組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 組合會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナル事項ニ付テハ組長ハ書面ニ依リ代議員ノ表決ヲ以テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第二十二條 定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ増減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域或ハ營業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議録ノ謄本並第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第二十二條 組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總

重要物産同業組合法關係法規

會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得
總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス
總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス
前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得
評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト
 - 二 組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト
 - 三 組長ノ諮詢ニ應スルコト
 - 四 其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項
- 第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ招集ス
評議員ノ三分ノ一以上方會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ

組合ノ検査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及検査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徴收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス清算人ハ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十七條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第三十八條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト重要物産同業組合法施行規則

之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條 第十九條乃至第二十條ノ二ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條 組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

- 一 開會ノ日時及場所
- 二 代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數
- 三 出席者ノ員數
- 四 議事ノ要領
- 五 議決シタル事項
- 六 贊否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及検査員選任ノ認可申請書ニハ履歴書ヲ添附スヘシ

第二十九條 組合ハ検査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ヲ設クヘシ

認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 清算ヲ了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四十條 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 聯合會ヲ設置セムトスルトキハ各組合ニ於テ選定シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定款、其ノ他議定シタル事項、各組合ノ組合會ニ於ケル聯合會設置ニ關スル決議録ノ謄本及創立委員ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ農商務大臣ニ設置ノ認可ヲ申請スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號、第五號、第八號乃至第十一號ニ掲ケル事項並所屬組合ノ名稱、加入脱退、權利義務、代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條及第八條ノ規定ハ創立委員會ニ之ヲ準用ス
第四十二條 聯合會ニ總會ヲ置ク

重要物産同業組合法關係法規

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條 第一條、第十二條、第十三條第二項、第十四條、第十六條乃至第二十條ノ二、第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 地方長官ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十五條 組合ニ關シ左ニ掲ケル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

- 一 定款變更ノ認可
- 二 役員ノ選任並検査員ノ選任及解任ノ認可
- 三 重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任
- 四 重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可
- 五 検査員ノ服務ニ關スル規定ノ認可
- 六 經費ノ豫算及徵收法ノ認可
- 七 經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命スルコト
- 八 地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト

スヘシ

附 則

第五十一條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 本則施行前ニ爲シタル發起ノ認可ハ第十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十三條 本則施行前組合又ハ聯合會設置認可ノ申請アリタル場合ニ於テハ本則施行後六月間仍從前ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第五十四條 組合又ハ聯合會ノ定款ニシテ本則ノ施行ニ依リ變更ヲ要スルモノニ付テハ本則施行後一年內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十五條 明治三十四年農商務省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

重要物産同業組合法第十條ノ四 第三項ノ規定ニ依ル重要輸出品ノ種類

- 大正五年五月二十九日告示第九〇號
- 追加 大正六年三月告示第四八號
- 追加 大正七年七月告示第二四號
- 追加 大正七年十月告示第三三三號

重要物産同業組合法第十條ノ四第三項ノ規定ニ依ル重要輸出品ノ種類

一九五

九 重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分

前項ノ規定ハ一府縣内ヲ區域トスル聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リテ處理シタルトキハ第一項第五號ノ場合ヲ除クノ外農商務大臣ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第二號乃至第四號ノ報告ハ組長及副組長ニ限ル

第四十七條 本則中地方長官トアルハ主タル事務所所在地ノ地方長官トス

第四十八條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ互ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

組合又ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ互ル場合ニ於テハ關係地方長官ニ於テモ組合又ハ聯合會ニ對シ其ノ管内ニ於ケル業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十九條 本則中府縣、郡市トアルハ府縣制、郡制、市制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ該當ス第五十條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由

琥珀及甲斐絹	縮	縮	羽二重、薄絹及絳絹
白木綿	廣幅綿布	綿	縮
浴巾	帶	子	絹製品
刺繡絲拔又ハ絳リタル布帛製品			メリヤス製品
眞田	花	莖	燐寸
木蠟	賣	藥	帽
貝鈕	陶	磁器	硝子製品
金屬製品	椅	材	箱板
傘柄	竹	製品	漆器
時計	洋	傘	甌
紙	ブラツシユ		石鹼
椎茸	柑	橘	華果
豌豆	落花生	豆	薄
魚介罐詰	昆	布	鰯
貝柱	寒	天	
菜豆	澱	粉	除蟲菊及殺蟲粉
百合根	(大正六年三月六日告示第四八號追加)		
鉛筆	カタシ	絲	(大正七年七月十五日告示第二四號追加)
「セルロイド」製品	(大正七年十月十六日告示第三三三號追加)		

重要物産同業組合及同聯合會ノ

取扱ニ關スル件

大正五年六月二十九日商第八九九九號次官通牒
追加大正六年二月商第二二〇二號次官通牒
追加大正七年八月商第一六九七七號次官通牒
追加大正九年八月工第四九八四號次官通牒

今般重要物産同業組合法及同施行規則改正相成候ニ付テハ
自今左ノ各項ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也
追テ從前重要物産同業組合及同聯合會ニ關シ發シタル内訓
及通牒ハ總テ之ヲ廢止ス

第一 設置發起認可ニ關スル事項

同業組合設置ノ發起ヲ認可セムトスルトキハ左記事項ヲ詳
具シ豫メ本省ニ打合ヲ爲スコト但シ重要物産同業組合法第
十條ノ四第三項ノ規定ニ依リ指定セラレタル重要輸出品ノ
ミニ關スルモノ及其ノ他ノ蠶絲業組合ニ付テハ打合ヲ要セ
ス此ノ場合ニ於テハ設置認可申請書進達ノ際左記事項ヲ報
告スルコト

特別ノ事情アルモノヲ除クノ外組合地區内ニ於ケル各品種
一年ノ生産、製造又ハ販賣額三十萬圓ニ滿タサル場合ハ發
起認可ヲ爲ササルコト

示シタル者ノ數ニ付テハ行政廳ノ證明ヲ要セサルコト

第三 定款ニ關スル事項

同業組法定款ノ規定ニ付テハ左記事項ニ注意スルコト

一 組合員ハ地區内ニ於テ營業ヲ爲ス限リハ脱退スルコ
トヲ得ヘキモノニアラサルヲ以テ組合員カ單ニ住所ヲ
地區外ニ移轉シタルノ事實ヲ以テ脱退ノ理由トナスヲ
得ス故ニ住所ノ如何ニ依リテ組合員タルノ資格ヲ定ム
ル規定ヲ爲ササルコト

二 新加入者カ組合ノ從來ノ施設ニ付利益ヲ受クル場合
ニ於テ加入金等ノ名義ヲ以テ特別ノ負擔ニ任セシムル
ハ不可ナク又組合カ組合員ノ行爲ニ依リ責任ヲ負フヘ
キ規定ヲ有スル場合ニ於テ信認金ヲ納入セシムルハ不
可ナシト雖加入ノ要件トシテ加重ノ負擔ニ任セシムル
カ如キハ法律ニ於テ加入義務ヲ負ハシメタル趣旨ニ對
シ妥當ナラサルニ依リ其ノ金額及其ノ納期等ニ付慎重
ノ注意ヲ爲スコト

三 外國貿易上ニ於ケル賣崩ノ弊ヲ防クタメ必要ナル場
合ノ外商品ノ價格ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメ
サルコト

四 極メテ特別ノ事情アル場合ノ外口錢、手数料又ハ賃

重要物産同業組合及同聯合會ノ取扱ニ關スル件

(一) 組合ノ豫定地區

(二) 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類

(三) 同業者ノ員數但シ營業毎ニ區別スルコト

(四) 豫定地區内ニ於ケル物産ノ最近三年間ニ於ケル毎
年ノ生産、製造又ハ販賣ノ數量價額並主ナル販路及
其ノ各地ヘ仕向ケタル數量價額

(五) 豫定地區内ニ於ケル地方經濟上重要ノ程度

(六) 組合ノ設置ヲ必要トスル理由現ニ營業上ノ弊害ア
ルモノニ在リテハ其ノ事實及之ヲ矯正スヘキ方法

(七) 業務ノ概目

(八) 營業品ノ検査ヲ行ハムトスルモノニ在リテハ其ノ
検査ノ方法、検査員ノ數及之ニ要スル費用ノ概算

(九) 創立費及經費ノ概算並收入ノ財源

(十) 發起人タルヘキ者ノ員數、營業ノ種類及其ノ主ナ
ル者ノ同業者間ニ於ケル地位、經歷並性行ノ概要

第二 設置認可申請ニ關スル事項

一 設置認可申請書ニ添附スヘキ書類中法定ノ同意アリ
タルコトヲ證スル書類ニハ組合員タルヘキ者ノ總數並
同意ヲ表示シタル者ノ數ヲ記載シ當該行政廳ノ證明ヲ
得タルモノヲ添附スルコト

二 同意表示書ノ正本ヲ添附スル場合ニ於テハ同意ヲ表
金等ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメサルコト

五 違約者ニ對シテ爲ス商取引ノ停止ハ其ノ事由ヲ具體
的ニ規定セシメ且其ノ停止ノ最長期間ヲ規定セシムル
ヲ要ス若シ期間ヲ定メ難キモノニ在リテハ事故ノ止ミ
タルトキ又ハ評議員會又ハ役員會ニ於テ改悛ノ情アリ
ト認ムルトキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコ
ト

六 組合員ノ使用スル職工又ハ雇人ヲシテ直接ニ組合ニ
對スル義務ヲ負ハシムル規定ヲ設ケルハ定款ヲ以テ組
合員外ノ者ヲ羈束セムトスルモノナルニ依リ不可ナル
コト

七 既ニ解雇セラレタル職工又ハ雇人ト雖前雇主ノ承諾
ヲ經ルニ非サレハ他ノ組合員ハ之ヲ使用スルコトヲ得
サル旨ヲ規定シ之ニ違背シタル者ヲ違約處分ニ付セム
トスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルコト

八 組合員ニ對シ職工又ハ雇人ノ使用ヲ停止セシムムト
スルトキハ其ノ事由ヲ具體的ニ規定シ且相當ノ停止期
間ヲ定メシムルヲ要ス若シ其ノ期間ヲ定メ難キ場合ニ
於テハ事項ノ止ミタルトキ又ハ改悛ノ狀アリト認ムル
トキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコト

九 副組長又ハ評議員ヲシテ組長ノ擔任スル事務ノ一部

重要物産同業組合法關係法規

ヲ分掌セシメトスル組合ニ對シテハ分掌セシムヘキ事務ノ種類ヲ定款中ニ明記セシムルコト

九ノ二 會計役ヲ置ク組合ニ於テハ其ノ會計役ハ評議員ヲ兼ヌルコトヲ得サル旨ノ規定ヲ設ケシムルコト (大正六年二月二十日商第二〇二號次官通牒追加)

九ノ三 組長及副組長ト代議員ヲ兼ネシムル規定ヲ設ケシメサルコト (大正七年八月二十八日商第一〇九七號次官通牒追加)

一〇 仲裁判斷ニ付テハ當事者雙方ノ請求ニ依リ評議員會若ハ役員會ノ決議又ハ評議員會若ハ役員會ニ於テ選定シタル委員之ヲ行フヘキ旨ノ規定ヲ設ケシムルコト

一一 組合ニ對シテ不正ノ行爲アル役員ノ解任ヲ總會又ハ組合會ニ於テ決議セムトスル場合ニ在リテハ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスル等其ノ決議ヲ慎重ナラシムル規定ヲ設ケシムルコト

一二 役員ノ職務懈怠等ニ對シ違約處分ヲ爲サントスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルヲ可トスルコト

一二ノ二 組合會ヲ置ク組合ニ於テハ總會ノ制ヲ設ケサルコト (大正六年六月八日商第八三六四號局長通牒) 一三 單一會議ノ議長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ決議ハ過半

一六 組合ニ於テ検査ヲ爲シ合格又ハ不合格ヲ示ス證明書ヲ捺印スル場合ニ於テハ官立又ハ公立ノ検査所ニ於テ使用スル證明書ト判然區別シ得ル證明書ヲ使用セシムルコト

一六ノ二 検査規定 (但シ施行細則ヲ除ク) ハ定款中ニ規定ヲ設ケシムルコト (大正六年二月二十日商第一二〇二號次官通牒追加)

一七 違約處分トシテ徴收スヘキ過怠金ノ額ニ付テハ最高限度ヲ定メシムルコト

一八 加入金又ハ信認金ヲ納付セサル者若ハ過怠金ヲ納付セサル者ヲ更ニ違約處分ニ付シ過怠金ヲ徴スルノ規定ヲ設ケルハ不可ナリ故ニ斯ル場合ニハ督促手数料ヲ徴スル等相當ノ徴收方法ノ規定ヲ設ケシムルコト

一九 違約處分ニ關スル費用ヲ被處分者ニ負擔セシメムトスル規定ヲ設ケル場合ニ於テハ其ノ費用ノ範圍ヲ明記セシムルコト

二〇 組合解散ノ場合ニ於テ殘餘財産アリタルトキ又ハ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤノ規定ヲ設ケシムヘク若シ解散當時組合員タリシ者ニ分配若ハ分賦セムトスル場合ニ於テハ分配若ハ分賦ノ方法ヲ合併セ規定セシムルコト

重要物産同業組合及同聯合會ノ取扱ニ關スル件

數ノ同意ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ストノ規定ヲナシ何等例外規定ヲ設ケサルトキハ業務成績及經費決算報告ノ認定等自ラ執行シタル事項ノ認否ヲ自ラ決スル場合アル可ク不條理ニ陷ルヲ以テ相當例外規定ヲ設ケシムルコト

一三ノ二 評議員會ノ議長ハ評議員中ヨリ互選セシムル旨ノ規定ヲ設ケシムルコト (大正六年二月二十日商第二〇二號次官通牒追加)

一四 不正行爲、信用ヲ害スル行爲、組合ノ目的ヲ妨クル行爲又ハ定款、諸規則若ハ組合會又ハ總會ノ決議ニ反スル行爲等ノ如キ漠然タル規定ノ違反ニ對シ違約處分ヲ爲サントスルハ不可ナルヲ以テ違約事項ハ具體的ニ之ヲ規定セシムルコト但シ之ヲ具體的ニ規定スルコトノ困難ナル事項ニ付テハ抽象的ニ規定シ之ニ違反シタル者ヲ違約處分ニ附スル場合ハ評議員會ニ於テ議決スル旨ノ規定ヲ設ケルハ差支ナシ (大正七年八月二十七日商第一六九七號次官通牒追加)

一五 營業品ノ検査ヲ行ヒ検査證ヲ付スヘキ規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ如何ナルモノヲ合格品トナシ如何ナルモノヲ不合格品ト爲スヘキヤノ標準ハ明確ニ之ヲ規定セシムルコト

二一 定款ノ變更ヲ認可シタルトキハ新舊條文ヲ別紙ト爲スカ又ハ之ヲ交互ニ記載シ一見新舊ノ區別ヲ明瞭ニシ併セテ其ノ理由ヲ報告スルコト

第四 役員認可ニ關スル事項

役員ノ氏名、住所、職業、就任事由、年月日並前任者退任事由及其ノ年月日ヲ記載スルコト

第五 經費ノ豫算並徴收法ニ關スル事項

一 歳出豫算中各費目 (豫備費ヲ除ク) ノ金額ヲ彼此流用スルハ當初豫算ヲ設ケルノ趣旨ニ反スルヲ以テ之ヲ流用スルコトヲ得サラシムヘシ但シ不得止必要アルトキハ評議員會 (評議員會ナキトキハ評議員) ノ諮詢ヲ經同款内項目ノ金額ノミ流用スルコトヲ得

二 定額豫算内支出ニ充ツル爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其ノ年度内ノ收入ヲ以テ償還スルモノノ外往々經費ニ屬スル歳出ヲ借入金ヲ以テ支辨スルノ豫算アリト雖特別ノ場合ヲ除キ經常費ハ經常收入ヲ以テ之ヲ支辨セシムルコト

三 借入金ヲ爲ストキハ一時借入金ヲ除クノ外豫算ト共ニ借入ノ方法、利息ノ定率及償還ノ年度財源、其ノ他ノ方法ヲ合併セテ之ヲ議定セシムルコト

四 經費徴收法中ニハ其ノ賦課ノ種目、賦課標準、課率

重要物産同業組合法關係法規

- 第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置
- 第三項 目的及方法
- 第四項 役員ノ選舉法及權限
- 第五項 會議ニ關スル規程
- 第六項 加入者及退去者ニ關スル規定
- 第七項 費用ノ徵收及賦課法
- 第八項 違約者處分ノ方法
- 右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第四條 (三十年農商省令)
(第六號ヲ以テ削除)
- 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ
- 第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フ可シ
- 第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ
- 第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ
但其ノ聯合ニ府縣以上ニ涉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

八 主要關係團體定款並諸規程

蠶絲業同業組合中央會定款

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ蠶絲業同業組合中央會ト稱シ蠶絲業法ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 本會ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
- 第三條 本定款ニ於テ組織組合ト稱スルハ本會ヲ組織スル同業組合聯合會及同業組合ヲ謂フ
- 第二章 目的及業務
- 第四條 本會ハ組織組合相互ノ氣脈ヲ通シ及蠶絲類ノ海外貿易ノ發展其ノ他蠶絲業ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第五條 前條ノ目的ヲ達スル爲施行スヘキ業務ノ概目左ノ如シ
 - 一 蠶絲業上ノ弊害ヲ矯正スルコト
 - 二 蠶絲業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査シ之ヲ遂行ヲ期スルコト
 - 三 蠶絲業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關スル調

蠶絲業同業組合中央會定款

查チ爲シ其ノ意見ヲ表示スルコト

- 四 蠶絲業ニ關スル事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應スルコト
- 五 内外蠶絲業ノ狀況及統計ヲ調査發表スルコト
- 六 蠶絲業生産物ノ海外ニ於ケル販路ノ擴張ヲ圖ルコト
- 七 諸外國ノ蠶絲業ニ關スル團體ト氣脈ヲ通スルコト
- 八 下級組合ヲ指導シ其ノ發達ヲ期スルコト
- 九 仲裁判斷又ハ調停ヲ爲スコト
- 十 蠶絲業ノ改良發達上特ニ必要ナル事項ヲ行フコト
- 第六條 本會ノ事業年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月末日ニ終ル
- 第七條 業務執行ニ關スル規定ハ定款ニ定ムルモノヲ除クノ外總會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三章 加入及脱退
- 第八條 蠶絲業同業組合聯合會、一府縣以上ヲ地區トスル同業組合又ハ蠶絲業法第二十九條第二項ニ依リ指定セラレタル同業組合ハ組長ヨリ定款ヲ添ヘ加入ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 組織組合ニシテ解散シタルトキハ清算人ヨリ其事由ヲ具シ届出ツヘシ

第十條 組織組合ハ本會ヲ脱退シタル場合ニ於テ本會ノ財産ニ付分配ヲ要求スルコトヲ得ス

第四章 權利義務

第十一條 組織組合ハ本會ニ對シ左ノ權利ヲ有ス

- 一 議員ニ依リ總會ニ於テ表決ヲ爲スコト
- 二 本會ノ利害得失ニ係ル事項ニ付意見ヲ陳述スルコト
- 三 本會ノ業務施行上ニ付説明ヲ求メ又ハ事務ニ支障ナキ退リ諸帳簿等ノ閱覽ヲ爲スコト
- 四 本會解散ノ場合ニ於テ殘餘財産ノ分配ヲ受クルコト

第十二條 組織組合ハ本會ニ對シ左ノ義務ヲ有ス

- 一 本會ノ定款、會議ノ決議ハ之ヲ組織組合ノ組合員チシテ遵守セシムルコト
- 二 本會ノ經費ヲ負擔スルコト
- 三 本會解散ノ場合ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ本會ノ債務ヲ分擔スルコト
- 四 仲裁判斷ニ服従スルコト
- 五 本會ノ諮問ニ應ヘ及組織組合ノ組合員又ハ組織組合カ聯合會ナルトキハ之ヲ組織スル組合ノ組合員チシテ召喚ニ應セシムルコト

六 役員ノ選任、解任、經費ノ決算及業務ノ成績ヲ報告スルコト

第五章 役員及職員

第十三條 本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

- 一 役員
 - 會長 一名
 - 副會長 三名以内
 - 評議員 三十名
- 二 職員
 - 主事 一名
 - 參事 若干名
 - 參事補 若干名
 - 書記 若干名

第十四條 役員ハ總會ノ名譽職トス但シ總會ノ決議ニ依リ報酬ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 蠶絲業法施行規則第八十八條ノ選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ但シ議決ニ依リ他ノ方法ヲ以テ投票ニ代フルコトヲ得

前項但書ノ議決ハ出席セル議員及特別議員全部ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

選舉ヲ投票ニ依リ行ヒタル場合ニ於テハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トス得票同數ナルトキハ年長者ヲ採リ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

參事補及書記ノ任免ハ會長之ヲ專行ス

第十二條 職員ハ左ノ區別ニ依リ會務ヲ擔任ス

- 一 主事ハ上司ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理ス
- 二 參事ハ上司ノ命ヲ承ケ會務ヲ分擔ス
- 三 參事補ハ上司ノ命ヲ承ケ會務ニ從事ス
- 四 書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第二十三條 職員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ總會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ定ム

第二十四條 職員ノ服務規律ニ關スル規定及處務ニ關スル規定ハ評議員會ニ諮詢シ會長之ヲ定ム

第二十五條 本會ノ業務施行上ニ關スル諮詢ヲ爲ス爲顧問及相談役ヲ置キ又ハ蠶絲業ニ關スル調査及講究ヲ爲ス爲委員ヲ置クコトヲ得

顧問ハ評議員會ニ諮詢シ會長之ヲ囑託シ相談役及委員ハ必要アルトキ會長臨時之ヲ囑託ス

第十六條 役員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三年トス但シ再選スルコトヲ得

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職ニ至ル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十七條 役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉ヲ行フ補缺ノ爲選舉セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十八條 役員ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ當選ヲ辭シ又ハ任期中其ノ職ヲ退クコトヲ得ス

- 一 疾病ニ依リ其ノ職ニ堪ヘサルトキ
- 二 滿五年以上役員ノ職ニ在リ爾後二年以上ヲ經過スルニ非サレハ任期滿了セザルトキ
- 三 評議員會ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキ

第十九條 役員ニシテ其ノ職務ヲ曠廢シ又ハ本會ノ體面ヲ汚辱シ若ハ信用ヲ害スル行爲アリタルトキ又ハ其ノ職ニ堪ヘスト認メタルトキハ總會ニ於テ出席シタル議員及特別議員三分ノ二以上ノ同意アル決議ヲ以テ解任スルコトヲ得

第二十條 會長ハ副會長ノ一人ニ對シ金錢物件ノ貸借其ノ他ニ關スル契約及報告發刊ニ關スル事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十一條 主事及參事ハ評議員會ニ諮詢シ會長之ヲ任免ス

第二十六條 會議ヲ分チテ總會、評議員會及部會ノ三種トス

第二十七條 總會ハ蠶絲業法第三十二條ニ依リ議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織シ通常會、臨時會ノ二種トス

第二十八條 通常會ハ毎年十一月ヨリ翌年一月ノ間ニ於テ

主要關係團體定款並諸規程

之ヲ開キ臨時會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ議員、特別議員各五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及理由ヲ示シ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第二十九條 總會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 經費豫算並徵收方法ニ關スル件
- 二 經費決算並業務成績認定ノ件
- 三 豫算以外特ニ義務ノ負擔及權利ノ拋棄ヲ爲ス件
- 四 基本財産並積立金ノ管理及之カ得喪ニ關スル件
- 五 定款變更ニ關スル件
- 六 役員選任解任ニ關スル件
- 七 業務施行其ノ他重要事項ニ關スル規定制定ノ件
- 八 解散ニ關スル件
- 九 其ノ他重要事項ニ關スル件

總會ニ於テ議決スヘキ事項中第三十六條ノ二ニ掲ケタルモノ及事ノ重要ナラサルモノハ之ヲ評議員會ニ委任スルコトヲ得但シ評議員會ハ其ノ決議ノ要領ヲ次期ノ總會ニ報告スルモノトス

第三十條 議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ其ノ議員ヲ選出シタル組織組合ノ補缺議員ヲ補缺ス

補缺議員二名以上アル場合ニ於ケル補缺ノ順位ハ年長順ニ依リ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

ヲ得

一 絲價維持ニ關スル件

二 操業ノ開閉期日ニ關スル件

第三十七條 部會ハ之ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部 養蠶部

第二部 蠶種部

第三部 生絲部

第三十八條 部會ハ議員、特別議員ヲ分割シテ之ヲ組織シ

會長必要アリト認メタルトキ又ハ各部ニ付部會議員三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及理由ヲ示シ請求アリタルトキ會長之ヲ開ク

第三十六條ノ二ノ各號ノ一ニ該當スル決議ヲ爲サムトス

ルトキハ部會ニ協議員ヲ參加セシムルコトヲ得

協議員ノ定數、配當、部會所屬、任期及選舉ノ方法ハ總會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ定ム

協議員ハ所屬部會ニ對シ其ノ議員ト同一ノ議決權ヲ有ス

協議員ハ其ノ所屬組合ノ組合員タル製絲業者又ハ貿易業者ヲ代理人ト爲シ議決權ヲ行フコトヲ得

第三十九條 部會議員ノ定數及議員、特別議員ノ部會所屬

ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム但シ補缺議員ノ就任シタル

蠶絲業同業組合中央會定款

第三十一條 議員ハ所屬組織組合ノ役員タルコトヲ得ヘキ資格アル者ノ中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第三十二條 議員特別議員ハ名譽職トス但シ勤務ニ相當スル報酬又ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

前項ノ報酬ハ總會ノ決議ニ依ル

第三十三條 議員ハ再選スルコトヲ得

第三十四條 議員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ當選ヲ辭シ又ハ任期中其ノ職ヲ退クコトヲ得ス

前項ノ事由正當ナルヤ否ヤハ會長ニ於テ之ヲ決ス

第三十五條 評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織シ會長必要

アリト認ムルトキ又ハ評議員七名以上ヨリ會議ノ目的及理由ヲ示シ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第三十六條 評議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 業務施行ニ關スル監査ノ件
- 二 總會ニ附スヘキ議案調査ノ件
- 三 本定款ノ規定又ハ總會ノ委任ニ依リ評議員會ノ權限ニ屬スル件
- 四 會長ノ諮問事項ノ件

第三十六條ノ二 評議員會ハ總會ノ委任ニ依リ總會召集ノ

暇ナキ場合ニ於テ總會ニ代リテ左ノ事項ヲ議決スルコト

場合ニ於ケル部會ノ所屬ハ會長ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 部會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 各部ニ屬スル本會業務執行方法ノ件

二 總會ノ決議ニ依リ附議セラレタル件

三 業務上ノ利害ニ關シ總會又ハ會長ニ建議ノ件

四 會長諮問事項ノ件

第四十條ノ二 部會ニ於テ第三十六條ノ二ノ各號ノ一ニ該

當スル決議ヲ爲サムトスルトキハ部會議員及部會協議員

定數ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四十一條 第五條ニ定メタル業務ノ概目中専ラ各部ニ屬

スル事項ニシテ之カ執行ヲ必要ナリト認メタルトキハ各

部ニ於テ其ノ事項ヲ決議シ會長ニ請求ヲ爲スヘシ但シ其

ノ決議事項ニシテ經費ヲ要スルモノナルトキハ各部限リ

之ヲ負擔スヘキヤ否ヤナ同時ニ決議スヘシ

第四十二條 前條ノ請求アリタルトキハ會長ハ三週間以内

ニ總會ヲ召集スヘシ但シ他ノ部ニ關係ナク又ハ特ニ經費

ヲ要セサルモノニ付テハ直ニ之ヲ執行シ次期ノ總會ニ於

テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十三條 會議ハ總會ニ在リテハ開會ノ日ヨリ十四日前

ニ、評議員會及部會ニ在リテハ開會ノ日ヨリ七日前ニ會

議ノ目的及日時場所ヲ示シ會長之ヲ召集ス但シ急施ヲ要

スル場合及部會ニ在リテハ開會前ノ期日ヲ短縮スルコトヲ得

第四十四條 會議ハ特ニ定メタル場合ヲ除クノ外半數以上ノ出席員アルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

總會ニ在リテハ前項ニ定メタル員數ノ出席ナキトキハ出席員ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各議員及特別議員ニ對シ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月内ニ第二回ノ總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二回ノ總會ニ於テハ出席員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第四十五條 會長ハ評議員會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ重要ノ事項ニアラサルモノニ付書面ヲ以テ評議員ノ意見ヲ徵シ評議員會ノ表決ニ代ヘ又ハ急施ヲ要スル事項ヲ專決處分ヲ爲シ次ノ評議員會ニ之ヲ報告スルコトヲ得

第四十六條 會議ノ議長ハ會長之ニ當ル會長故障アルトキハ副會長之ニ代ル

會長副會長共ニ故障アルトキハ出席員中ヨリ互選ス但シ業務執行ノ監査ニ關スル事項ヲ議スル場合ニ在リテハ會長副會長以外ノ出席員中ヨリ互選ス

第四十七條 會議ノ議事ハ特ニ定メタルモノヲ除クノ外出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可ク同數ナルトキハ議長ノ

出ニ充ツル爲豫備費ヲ設ク

豫備費ハ總會ニ於テ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五十四條

經費豫算ノ款内流用支出ハ評議員會ノ決議ヲ經ヘシ

第五十五條

經費ノ決算ハ會計年度後三箇月以内ニ完了シ決算報告書ヲ作り業務成績ト共ニ之ヲ組織組合ニ公示ス

第八章 仲裁判斷

第五十六條 本會ハ評議員會ヲシテ組織組合相互間又ハ組織組合ノ組合員相互間ニ於テ生シタル蠶絲業上ニ關スル紛議ノ仲裁判斷ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十七條 仲裁判斷ハ當事者雙方ヨリ請求アリタルトキ之ヲ爲ス

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ係爭事實ノ陳述及證據書類ヲ提出スヘシ

第五十八條

評議員會ハ仲裁判斷ヲ爲ス場合ニ於テ評議員中ヨリ委員三名ヲ選定シテ特ニ其ノ任ニ當ラシムルコトヲ得

第五十九條

仲裁判斷ニ關シ評議員會若ハ前條ニ依リ委員ニ選定セラレタル評議員ハ當事者ヲ召喚シ其ノ辯明ヲ聞クコトヲ得

第六十條 仲裁判斷ヲ決定シタルトキハ其ノ理由ヲ附シテ

決スル所ニ依ル

議長、議員及特別議員自己、自己ノ關スル法人又ハ親族ニ關係アル事件ニ付テハ會議ノ同意ヲ得ルニ非サレハ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ會議ノ同意ヲ得テ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十八條 會議ニ於ケル議決事項ハ議事録ニ登載シ議長及出席員二名以上之ニ署名捺印ス

第四十九條 議事ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 會計

第五十條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月末日ニ終ル

第五十一條 本會ノ經費ハ特別ノ歳入ヲ控除シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ組織組合ニ賦課ス

一 經費ノ百分ノ三十八ハ組織組合ニ對シ平等ニ之ヲ賦課ス
二 經費ノ百分ノ五十五ヲ生絲ニ關スル組織組合ニ、百分ノ十五ヲ蠶種ニ關スル組織組合ニ對シ其ノ産額ニ應シ之ヲ賦課ス

第五十二條 經費ノ豫算並徵收方法ハ每會計年度前ニ總會ニ於テ之ヲ議定ス

第五十三條 經費豫算ニハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支

ル判斷書ヲ當事者雙方ニ交付ス

第九章 違約處分

第六十一條 第十二條第二號乃至第四號ニ違背シタル者ハ二百圓以下ノ過怠金ニ處ス但シ第二號及第三號ノ違背ニ付テハ督促再回ニ及フモ仍納付セサル場合ニ限ル

前項第二號及第三號ノ場合ニ於ケル過怠金ハ其ノ負擔額ノ倍額ヲ超過スルコトヲ得ス

第六十二條 違約處分ハ評議員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ行ヒ其ノ事實ヲ明記シタル處分書ヲ作成シ違約者ニ送付ス

第六十三條 違約者ハ處分書ノ送付ヲ受ケタルトキヨリ七日以内ニ過怠金ヲ納付スヘシ若シ其ノ處分ニ對シ不服アルトキハ納付期間内ニ書面ヲ以テ再審ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 前條ニ依リ再審ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求ト同時ニ過怠金ニ相當スル金額ヲ會長ニ供託スヘシ

第六十五條 再審ハ總會ニ於テ決議ス此ノ決議ニ對シテハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六十六條 再審ニ依リ決議シタル過怠金ハ第六十四條ノ供託金ヲ以テ之ニ充ツ

主要關係團體定款並諸規程

第十章 定款變更並解散

第六十七條 本定款ヲ變更セムトスルトキハ總會ニ於テ議
員及特別議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決議
シ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十八條 本會ヲ解散セムトスルトキハ總會ニ於テ議員
特別議員半數以上出席シ出席員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ
以テ決議シ組織組合三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ主務官廳
ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十九條 本會解散シタルトキハ評議員中ヨリ五名ノ清
算人ヲ互選シ清算ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第七十條 清算ノ結果殘餘財産アルトキハ解散當時ノ組織
組合ニ分配シ若シ債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ其ノ
組合ニ分賦ス

分配及分賦ノ歩合ハ解散當時ニ於ケル經費負擔率ヲ以テ
標準トス

第七十一條 清算終了シタルトキハ清算人其ノ結果ヲ主務
官廳ニ届出ツルト同時ニ組織組合ニ之ヲ公示ス

附 則

第七十二條 本會設置ノ認可アリタル後役員ノ就職ニ至ル
迄ノ間ニ於ケル事務ハ發起人ノ行フ但シ發起人ハ其ノ
五選ヲ以テ一人又ハ數人ノ委員ヲ選任シ其ノ事務ヲ委任

愛知縣蠶絲同業組合聯合會	十六人
靜岡縣蠶絲同業組合聯合會	一人
靜岡縣製絲同業組合	四人
山梨縣生絲同業組合	六人
滋賀縣輸出蠶絲同業組合	三人
岐阜縣製絲同業組合	六人
長野縣生絲同業組合聯合會	二十六人
宮城縣機械製絲同業組合	四人
福島縣製絲同業組合	五人
岩手縣製絲同業組合	三人
山形縣製絲同業組合	四人
福井縣蠶絲同業組合聯合會	三人
石川縣蠶絲同業組合聯合會	二人
富山縣機械製絲同業組合	三人
鳥取縣蠶絲同業組合聯合會	四人
島根縣蠶絲同業組合聯合會	三人
岡山縣製絲同業組合	三人
山口縣製絲同業組合	三人
廣島縣機械製絲同業組合	三人
和歌山縣機械製絲同業組合	三人
德島縣繭絲同業組合	三人

蠶絲業同業組合中央會協議員定數、配當、部會所屬、任期及選舉規程

スルコトヲ得

蠶絲業同業組合中央會協議員定數、配當、部會所屬、任期及選舉規程

第一條 協議員ノ定數ハ二百十六人トス	
第二條 協議員ノ配當左ノ如シ	
東京府蠶絲同業組合	四人
京都府蠶絲同業組合聯合會	五人
神奈川縣製絲同業組合	四人
橫濱蠶絲貿易商同業組合	十六人
兵庫縣器械製絲同業組合	四人
神戸蠶絲貿易同業組合	八人
長崎縣生絲同業組合	三人
新潟縣製絲同業組合	四人
埼玉縣製絲同業組合	九人
群馬縣製絲同業組合聯合會	八人
千葉縣製絲同業組合	三人
茨城縣生絲同業組合	四人
三重縣製絲同業組合	五人
香川縣蠶絲業同業組合聯合會	三人
愛媛縣製絲同業組合	五人
高知縣蠶絲同業組合	四人
福岡縣製絲同業組合	四人
大分縣蠶絲同業組合	三人
佐賀縣蠶絲同業組合	三人
熊本縣輸出生絲同業組合	三人
宮崎縣器械製絲同業組合	三人
鹿児島縣生絲同業組合	三人
第三條 協議員ノ部會所屬ハ第三部トス	
第四條 協議員ハ組織組合ノ役員タルコトヲ得ヘキ資格アル製絲業者又ハ貿易業者中ヨリ組織組合ノ總會若ハ組合ニ於テ其ノ役員選舉ノ例ニ準シ之ヲ選舉スヘシ	
第五條 協議員ハ第三部ニ屬スル蠶絲業同業組合中央會議員ト相兼マルコトヲ得ス	
第六條 協議員ノ任期ハ蠶絲業同業組合中央會議員ノ任期ニ從フ	
補缺ノ爲選舉セラレタル協議員及協議員定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選出セラレタル協議員ハ他ノ協議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス	
第七條 協議員ノ當選確定シタルトキハ組織組合ハ直チニ其ノ住所氏名ヲ蠶絲業同業組合中央會ニ報告スヘシ	

附 則

第一回選舉ニ當選シタル協議員ハ蠶絲業同業組合中央會現議員任期滿了ノ日迄在任ス

蠶絲業同業組合中央會議事細則

第一條 會議ハ議長之ヲ開閉ス

會長ハ會議ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二條 議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三條 會議ハ評議員會ヲ除キ之ヲ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 會長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員若ハ特別議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員、特別議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決ス

第四條 議員及特別議員ノ席次ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ議題ノ順序ヲ定メ豫メ會議ニ報告ス

議長ハ前項ニ依リ定メタル順序ヲ變更スルコトヲ得

第六條 議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決ス但シ議長ノ意見又ハ決議ニ依リ讀會ヲ省略スルコトヲ得

各讀會ニ於ケル審議方法ハ普通議事法ニ依ル

委員ノ互選ヲ以テ委員長一人ヲ設ク

委員長ハ委員會ヲ整理シ會議ノ結果ヲ報告スヘシ

定款第四十四條第一項、第四十七條及本則ノ規定ハ之ヲ委員會ニ準用ス

第十四條 會長ハ職員ヲシテ會議又ハ委員會ニ出席シ議事ニ參與セシムルコトヲ得但シ決議ノ數ニ加フルコトヲ得

第十五條 議事整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ又ハ一時議事ヲ中止スルコトヲ得

第十六條 議員又ハ特別議員病氣其ノ他ノ事故ニ依リ會議ニ列席スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ議長ニ届出ツヘシ

基本財産管理規則

第一條 本會ハ寄附金ヲ以テ基本財産ヲ造成ス

第二條 基本財産ハ會長之ヲ管理ス

會長ハ副會長ノ一人ニ基本財産ノ管理ヲ委任スルコトヲ得

第三條 基本財産ハ確實ナル銀行ニ預入若クハ信託シ又ハ之ヲ以テ國債道府縣債若クハ市債ヲ購入スルモノトス

第四條 基本財産ヨリ生スル利益金ハ之ヲ毎年度歲入ニ

基本財産管理規則 別途積立金規則 蠶絲業同業組合中央會旅費規則

第七條 發言セムトスル者ハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

發言ハ議席ニ於テ起立シテ之ヲ爲スヘシ

會長及副會長ハ會議又ハ委員會ニ於テ何時ニテモ發言スルコトヲ得

第八條 議員及特別議員ハ書面ヲ以テ議題ニ對スル意見ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第九條 議員及特別議員ハ三人以上ノ同意ヲ以テ建議案ヲ提出スルコトヲ得

第十條 動議ハ贊成者アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得

第十一條 採決ハ起立ニ依ルモノトス但シ時宜ニ依リ他ノ方法ヲ以テスルコトヲ得

第十二條 修正案提出セラレタルトキハ議長先ツ修正案ニ付之ヲ採決スヘシ

修正案數箇アルトキハ其趣旨原案ニ最モ異ナルモノヨリ順次採決スヘシ

第十三條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ付採決スヘシ

員中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

委員ノ選定方法ハ會議ノ決スル所ニ依リ議長ノ指名又ハ議員及特別議員ノ互選トス

線入ルルモノトス

第五條 基本財産ノ編入及處分ハ總會ノ決議ニ依ル

第六條 本會經費支出ノ爲必要アルトキハ毎年度金貳萬圓以內ニ限リ基本財産中ヨリ一時流用支出スルコトヲ得

前項流用金額ハ毎年度内ニ基本財産ニ返還スルコトヲ要ス

第七條 基本財産ハ毎年度財産目錄及決算報告書ヲ作り總會ニ報告スルコトヲ要ス

別途積立金規則

第一條 對外關係事項其ノ他蠶絲業上重要問題起リタル場合ニ處スル爲メ經費ノ次年度ニ繰越サルヘキ剩餘金ノ全部若クハ一部ヲ別途積立金トシテ總會ノ決議ヲ經テ積立ツルコトヲ得

第二條 別途積立金ハ特別會計歲入ニ繰入レ其ノ處分ハ總會ノ決議ヲ經ルモノトス

蠶絲業同業組合中央會旅費規則

第一條 會長、副會長、議員、特別議員、顧問、相談役、委員及職員本會ノ用務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給ス

則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給ス

主要關係團體定款並諸規程

官吏ニシテ特別議員、相談役、顧問又ハ委員タル者ニハ明治四十三年勅令第二百七十四號内國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ五種トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 前條各種ノ旅費ハ經過シタル行程及日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路ノ旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第三條ノ二 東京市内ノ出張ニシテ長時間又ハ遠距離ニ涉リタルトキハ定額ノ半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

第四條 陸路六里未滿、鐵路四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ用務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス
一旅行ニシテ陸路鐵路又ハ水路ニ互ルトキハ鐵路ハ八哩水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第五條 私事ノ爲メ居住地以外ニ滞在スル者本會ノ用務ニ依リ滞在地ヨリ旅行スル場合ニ於テハ滞在在地ヨリ用務地ニ至ル旅費額カ居住地ヨリ用務地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ居住地ヨリ用務地ニ至ル旅費額ヲ支給ス

其ノ遺族ニ支給ス

第九條 朝鮮、臺灣、樺太及海外ノ旅行ニ要スル旅費額ハ會長之ヲ定ム

別表

會長	一等實費	一五〇圓	十二圓	十八圓	
副會長	一等實費	一二〇圓	八圓	十二圓	
特別議員	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
議員	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
顧問	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
相談役	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
主事	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
書記	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
參事	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
參事補	二等實費	九〇圓	五圓	八圓	
職員	三等實費	七五圓	二圓	四圓	
雇員	三等實費	七五圓	二圓	四圓	

一、鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)及

急行料金ヲ計算ス

イ、運賃ノ等級ナニ階級ニ區別スルモノニアリテハ上級運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車ニ要スル運賃

ロ、連續シテ片道百哩以上乗車スルトキハ普通急行料同三百哩以上ハ特別急行料但シ急行料金ヲ徴セサル

社團法人大日本蠶絲會定款

第六條 新ニ職員ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ本則ノ規定ニ依リ職員相當ノ旅費ヲ支給スルノ外別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス移轉料ハ別表所定ノ範圍ニ於テ會長之ヲ定ム

家族移轉料ハ家族一人毎ニ本人ノ居住地ヨリ就任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當宿泊料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ相當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依リ給額ノ半額トス

第七條 第一條ノ規定ニ據リ難キ理由アル場合又ハ定額ノ旅費ヲ以テ實費ヲ支辨シ難キトキハ一部若ハ全部實費額ノ支給ヲナスコトヲ得

第七條ノ二 會長ハ職員ノ近距離出張ニ對シ日額旅費ヲ定ムルコトヲ得

第八條 旅行中役員、議員、特別議員ニシテ其ノ資格ヲ失シタル者ニハ居住地ニ至ル旅費ヲ、職員ニシテ其ノ職ヲ免セラレタル者ニハ事務所所在地ニ至ル旅費ヲ前職ノ定額ニ依リ支給ス

旅行中死亡シタルトキハ前項ノ旅費額ニ相當スル金額ヲ

線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

ハ、特別ノ必要ニ依リ普通又ハ特別急行列車ニ乗車スルトキハ前號ノ制限ニ拘ラス其ノ乗車ニ要スル急行料

二、船賃ハ鐵道賃ノ例ニ準シ其ノ乗船ニ要スル一切ノ旅客運賃ヲ計算ス

社團法人大日本蠶絲會定款

第一條 總則

第一條 本會ハ民法ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ許可ヲ得テ社團法人ト爲ス

第二條 本會ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第三條 本定款ハ總會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條 本會ハ法定ノ解散事由アルニ非サレハ解散スルコトナシ

解散ノ決議ハ總會員四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 目的及事業

第五條 本會ハ本邦蠶絲業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

主要關係團體定款並諸規程

第六條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 蠶絲業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲スコト
- 二 本邦生絲ノ海外販路擴張ヲ圖ルコト
- 三 内外ニ於ケル蠶絲業ノ團體ト氣脈ヲ通スルコト
- 四 蠶絲業ニ關スル品評會講習會講話會及其ノ他ノ集會ヲ開設スルコト

- 五 蠶絲業ニ關係アル者ノ功勞ヲ調査シ及表彰スルコト
- 六 蠶絲業ニ關スル共同事業ノ發達ヲ圖ルコト
- 七 蠶絲業ニ關スル圖書及雜誌ヲ發行スルコト
- 八 前各號ノ外蠶絲業ノ改良發達上必要ト認ムル事項

第七條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三款 名稱及事務所

第八條 本會ハ大日本蠶絲會ト稱ス

第九條 本會ハ事務所ヲ東京市赤坂區溜池町一番地ニ設置ス但シ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四款 資 産

第十條 本會ノ資産ハ左ノ如シ

- 一 本會ノ所有ニ屬スル動産及不動産
- 二 會員ノ疎出金有志者ノ寄附又ハ遺贈ニ係ル金錢及物品

ヘシ

第十八條 會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損スルトキハ之ヲ除名シ徽章ヲ返納セシムルモノトス

第六款 理事監事及顧問

第十九條 本會ニ理事五名理事中ニ會頭一名副會頭一名ヲ置ク

第二十條 理事ハ特別會員中ヨリ會頭副會頭ハ理事中ヨリ評議員會ニ於テ之ヲ選舉ス

第二十一條 會頭ハ本會一切ノ會務ヲ處理シ總會及評議員會ノ議長トナル

第二十二條 副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第二十三條 本會ニ監事二名ヲ置キ評議員會ニ於テ特別會員中ヨリ之ヲ選舉ス

第二十四條 會頭副會頭理事及監事ハ名譽職トシ其ノ任期ヲ三箇年トス

第二十五條 會頭副會頭理事及監事中闕員ヲ生シタル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ補闕選舉ヲ行フ但シ補闕員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十六條 本會ニ顧問ヲ置クコトアルヘシ

第七款 協議員及委員

社団法人大日本蠶絲會定款

三 本會ノ事業又ハ所有財産ヨリ生スル收入金

第十一條 資産ノ管理及處分ニ關スル規則ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五款 會 員

第十二條 本會員ハ左ノ三種トス

名譽會員 特別會員 通常會員

第十三條 名譽會員ニハ皇族ヲ推戴ス

第十四條 特別會員ハ本會ノ主旨ヲ賛成シテ入會シ一時ニ金貳拾五圓以上ヲ出スモノトス但シ五年以内ニ分納スルコトヲ得

左ノ各號ノ一二該當スル者ハ特ニ本會ヨリ特別會員ニ推舉ス

一 本會ニ對シテ功勞アル者

二 蠶絲業ニ關スル學術技藝ニ達シタル者

第十五條 通常會員ハ本會ノ主旨ヲ賛成シテ入會シ一時ニ金參圓ヲ出スモノトス

第十六條 本會ハ前三條ノ會員ニ對シテ徽章ヲ交付ス

本會ノ爲特殊ノ功勞アル者及巨額ノ金員ヲ寄附シタル者ニハ有功章ヲ授與ス

第十七條 會員退會セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ本人ヨリ死亡シタルトキハ相續者ヨリ徽章ヲ添へ本會へ届出

第二十七條 本會ニ協議員及左ノ委員ヲ置ク

學藝委員 通信委員 獎勵委員

第二十八條 協議員及委員ニ關スル規程ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第八款 評議員會

第二十九條 本會ハ經費ノ豫算會頭副會頭理事及監事ノ選舉其ノ他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事件ヲ評議スル爲評議員會ヲ置ク

第三十條 評議員ハ二十五名トシ總會ニ於テ特別會員中ヨリ選舉シ其ノ任期ハ三箇年トス

第三十一條 評議員會ハ必要ト認ムルトキ會頭之ヲ招集ス

第三十二條 評議員會ハ評議員三分ノ一以上出席スルニ非レハ議決スルコトヲ得ス但シ同一事件ニ付再招集ノ場合ニ於テハ出席員ノ數ニ拘ハラズ議決スルコトヲ得

議事ハ過半数ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十三條 會頭ハ輕易ナル事項ニ付テハ場合ニ依リ書面ヲ以テ評議員ノ意見ヲ徵シ評議員會ノ招集ニ代ユルコトヲ得

第三十四條 本會ハ業務ノ成績及收支ノ決算ヲ報告シ評議

第九款 總 會

員ヲ選舉シ蠶絲業ニ關スル要件ヲ議決スル爲總會ヲ召集ス

第三十五條 總會ハ每年春季ニ於テ之ヲ召集ス但シ會頭ニ於テ必要ト認ムルカ又ハ十分ノ一以上ノ會員ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シ請求シタルトキハ臨時召集スルコトヲ得

第三十六條 總會ノ召集及會議ノ目的タル案件其ノ他決議事項ノ通知ハ會報及特ニ指定シタル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第三十七條 總會ニ於テ表決ヲ爲スハ出席會員ニ限ル總會ニ出席セサル會員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得ス

第三十八條 總會ノ決議ニ付テハ第三十二條第二項ヲ準用ス

第十款 支 會

第三十九條 支會ニ關スル規則ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

社團法人帝國蠶絲組合定款

第一章 總 則

第一條 本組合ハ備荒貯蓄ノ趣旨ヲ以テ組合員ノ出資金ヲ

第十條 制 除

第十一條 社員ノ出資ハ通常出資及ヒ特別出資ノ二種トス

通常出資ハ左ノ區別ニ從ヒ組合ノ存續期間中之ヲ爲スモノトス

一、生絲賣込問屋若クハ之ニ準スヘキ業務ヲ爲ス者ニ生絲ノ販賣ヲ委託シ又ハ輸出商ニ生絲ヲ販賣シ(生絲賣込問屋若クハ之ニ準スヘキ業務ヲ爲ス者ノ委託賣込ノ場合ヲ除ク)若クハ販賣ノ委託(生絲賣込問屋ニ準スヘキ業務ヲ爲ス者ノ爲ス販賣委託ノ場合ヲ除ク)ヲ爲ス者又ハ製絲業者ニシテ直接生絲ノ輸出ヲ爲ス者ニ在リテハ其橫濱港又ハ神戸港ニ出荷シタル生絲壹捆(九貫匁)又ハ之ニ相當スル數量毎ニ壹圓

二、生絲賣込問屋若クハ之ニ準スヘキ業務ヲ爲ス者ニ在リテハ其取扱ヒタル生絲壹捆(九貫匁)又ハ之ニ相當スル數量毎ニ拾錢

三、生絲ノ輸出ヲ爲スモノニ在リテハ直接荷主ヨリ買入レ若クハ委託ヲ受ケタル生絲壹捆(九貫匁)又ハ之ニ相當スル數量毎ニ拾錢

製絲業者カ生絲輸出港ニ設クル生絲販賣部ノ業務ハ前項第二號ノ適用ニ付テハ之ヲ生絲賣込問屋ニ準スヘキ業務

社團法人帝國蠶絲組合定款

蓄積シ新業界ニ於ケル非常時ニ際シ擁護救済ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ社團法人帝國蠶絲組合ト稱ス

第三條 本組合ノ事務所ハ之ヲ橫濱市ニ置キ神戸市ニ出張所ヲ置ク

第四條 本組合ノ社員ハ製絲業者生絲輸出業者其他生絲ノ販賣若クハ販賣ノ委託ヲ爲ス者及ヒ其關係業者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 本組合ノ存立時期ハ設立ノ日ヨリ滿三十箇年トス但總會ノ決議ヲ以テ之ヲ延長スル事ヲ得

第六條 本組合ノ財産ニ對スル社員ノ持分ハ其通常出資額及ヒ特別出資額ニ應スルモノトス

社員ノ責任ハ其出資シタル金額ヲ限度トスルモノトス

第七章 本組合ノ資産ハ左ノ如シ

一、社員ノ出資

二、寄附金又ハ補助金

三、本會ノ事業又ハ所有財産ヨリ生スル收益

四、其他ノ收入

第八章 制 除

第九條 制 除

ト看做ス

特別出資ハ第二項第一號ノ出資ヲ爲ス社員地元ニ於テ直接生絲ヲ買入レ輸出ヲ爲ス者及ヒ取引所ニ於テ生絲ノ封印ヲ受ケタル者ハ昭和四年一月一日ヨリ其總額元利合計金參千萬圓ニ達スル迄正量検査ヲ受ケタル生絲千斤ニ付金貳拾五圓ノ割合ヲ以テ之ヲ爲スモノトス但此割合ハ總會ノ決議ヲ以テ増額スルコトヲ得

特別出資ニ關シテハ本定款ノ外本定款ノ一部トシテ定ムル特別出資規程ノ規定ニ據ル

第十二條 特別出資金及ヒ之ヨリ生スル利息ハ前條第四項ノ金額ニ達スル迄理事會ノ決議ニヨリ確實ナル銀行預金、信託預金及ヒ産業組合中央金庫預金又ハ國債市債ノ買入其他確實ナル方法ヲ以テ保管スルモノトス但主務官廳ノ承認ヲ得テ之ヲ運用スルコトヲ得

第十三條 社員ハ出資ニ對シ出資證券ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

出資證券ノ交付ニ關シテハ理事會ノ定ムル所ニ依ル

第三章 組合ノ機關

第十四條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 十五名以内
監事 五名以内

理事ハ專務理事名ヲ互選ス

專務理事ハ本組合ヲ代表ス

第十五條 理事及ヒ監事ハ社員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

第十六條 理事及ヒ監事ノ任期ハ二箇年トス但再選ナ妨ケ

補闕選舉ニ依リ就任シタル理事及ヒ監事ハ前任者ノ任期

ヲ繼承ス
定員ノ増加ニ因リ新ニ選任セラレタル役員ノ任期ハ從來

ノ役員ノ任期ト共ニ終了スルモノトス
理事及ヒ監事ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就職スル迄其

職務ヲ行フ
第十七條 辭任其他ノ事由ニ因リ理事又ハ監事ニ闕員ヲ生

シタルトキハ通常總會ヲ待ツコト能ハサル場合ニ限り臨

時總會ニ於テ補闕選舉ヲ爲スモノトス
總會ニ於テ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時

ニ其補闕選舉ヲ爲スコトヲ要ス
第十八條 總會ハ通常總會及ヒ臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回四月之ヲ開ク
臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一、理事カ必要ト認メタルトキ
テ之ニ充ツルコトヲ得ス

第二十四條 總會ノ議長ハ第十八條第三項第二號ノ場合ヲ

除クノ外專務理事之ニ當ル專務理事事故アルトキハ他ノ

理事中ヨリ之ヲ互選ス
第十八條第三項第二號ノ場合ニ於テハ總會ヲ召集シタル

監事之ニ當ル其二名以上ナル場合ニ於テハ其互選ニ依ル

但總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席組合員中ヨリ之

ヲ互選スルコトヲ得
第二十五條 總會ノ決議録ハ議長之ヲ作り決議ノ事項會議

ノ顛末及ヒ出席者ノ員數ヲ記載スルコトヲ要ス
前項決議録ニハ議長及ヒ議長ノ指名シタル出席者二名以

上之ニ記名捺印スル事ヲ要ス
第二十六條 總會ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條 業務上必要アルトキハ總會ノ決議ニ依リ顧問

又ハ相談役若干名ヲ置クコトヲ得
顧問及ヒ相談役ハ本組合ノ樞要事項ニ關シ理事ノ諮問ニ

答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルモノトス
第二十八條 理事、監事、顧問及ヒ相談役ハ名譽職トス但

必要アルトキハ實費ノ辨償ヲ爲スコトアルヘシ
理事、監事、顧問又ハ相談役ハ正當ノ事由ナクシテ辭任

スルコトヲ得ス

二、監事カ民法第五十九條第四號ノ規定ニ依リ必要ト認

メタルトキ
三、社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及ヒ招集ノ理由

ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキ
第十九條 總會ノ招集ハ少ナクモ七日前ニ會議ノ目的

ル事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ社員ニ通知スル事ヲ

要ス
前項ノ通知書ニハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十條 社員ノ議決權ハ出資金五拾圓又ハ五拾圓未滿ノ

金額ヲ壹箇トス
第二十一條 定款變更及ヒ解散ノ決議ハ總社員ノ三分ノ一

以上出席シタル總會ニ於テ爲スニ非サルハ之ヲ爲スコト

ヲ得ス
第二十二條 總會ノ決議ハ出席シタル社員ノ議決權ノ過半

數ヲ以テ之ヲ爲ス但定款ノ變更組合ノ解散其他理事ニ於

テ重要ト認ムル事項ノ決議ハ總社員ノ議決權ノ二分ノ一

以上タルコトヲ要ス
第二十三條 總會ニ出席セサル社員ハ代理人又ハ書面ヲ以

テ表決ヲ爲スコトヲ得
前項ノ代理人ハ本組合ノ社員並ニ當該社員ノ家族又ハ當

該社員ト同一ノ組合若クハ會社等ニ在ル者以外ノ者ヲ以

テ之ヲ充ツルコトヲ得
第四章 事業

第二十九條 本組合ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年

三月三十一日ニ終ル
第三十條 本組合ノ目的ヲ遂行スル方法及ヒ積立金ノ使用

方法ハ總會ニ於テ第二十二條但書ノ規定ニ準スル決議ヲ

以テ之ヲ定メ主務官廳ノ承認ヲ受ケルモノトス
第三十一條 特別出資金及ヒ之ヨリ生スル利息ヲ除ク外本

組合ノ餘裕金ハ之ヲ橫濱正金銀行又ハ產業組合中央金庫

ニ預入レ保管ヲ爲スモノトス但總會ノ決議ニ依リ保管ノ

方法ヲ變更スルコトヲ得
預金拂出ノ必要アルトキハ理事ノ協議ニ依リ監事ノ承認

ヲ經テ之ヲ爲スモノトス
第五章 損益

第三十二條 本組合ハ每事業年度ノ終ニ於テ通常出資金及

ヒ特別出資金ニ對シ各別ニ其收支ヲ決算シ剩餘金アルト

キハ總會ニ於テ定ムル方法ニ依リ其全部又ハ一部ヲ各社

員ノ通常出資及ヒ特別出資ニ加算シ缺損金アルトキハ總

會ニ於テ定ムル方法ニ依リ先ツ特別出資金及ヒ之ヨリ生

シタル利息以外ノ資産ヲ以テ之ヲ填補スルモノトス但特

別出資金ヲ主務官廳ノ承認ヲ得テ運用シ缺損金ヲ生シタ

ル場合ハ此限ニアラス

主要關係團體定款並諸規程

第六章 加入及脱退

第三十三條 本組合ニ入社セントスルモノハ申込書ヲ提出シ理事ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三十四條 社員ニシテ入社資格タル事業ヲ廢止シタルトキハ理事ノ承諾ヲ得テ本組合ヲ脱退スルコトヲ得社員ノ持分ハ前項ノ場合ニ限り其出資額ヲ限度トシテ拂戻ヲ爲スモノトス

第三十五條 社員ニシテ本組合ノ目的ニ反スル行爲アリタルトキ又ハ出資ノ義務ヲ怠リタルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名スルコトヲ得

第七章 解散

第三十六條 本組合解散シタルトキハ理事清算人トナル

附則

第三十七條 舊定款第十一條ノ規定ニ依リ大正十五年十一月三十日迄ニ社員方組合ニ對シテ貸付ケタル貸付金ハ同日現在額ヲ同年十二月一日ニ組合ニ出資シタルモノト看做ス

前項ニ該當スル貸付金ニ對スル利息ハ大正十六年度通常總會ニ於テ從前ノ例ニ依リテ計算シ出資ニ之ヲ加算スルモノトス

本定款變更ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

ノトス

五、取引所ノ封印生絲ニ付テハ封印ヲ爲ス場合ニ取引所

ハ定款第十一條第四項ノ出資金ヲ検査手数料ト共ニ取

立テ封印申請者ノ名義ヲ以テ拂込ヲ爲シ各申請者別金

額ヲ其申請者ニ報告スルモノトス

申請者ハ取引所ヨリ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ突合

セテ爲シ直ニ其總金額並ニ各荷主別金額ヲ本組合ニ報

告スルモノトス

第二條 特別出資金額ハ生絲検査所ノ生絲正量検査俵數ヲ

以テ引合セテ爲スモノトス

第三條 本組合ハ特別出資ノ實行ヲ期スル爲特別委員若干

名ヲ囑託スルモノトス

第四條 特別出資ニ關スル取扱細則ハ理事會ニ於テ之ヲ定

ム

本規程ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

社團 帝國蠶絲組合特別出資取扱細則

開始ノ時期並ニ計算ニ關スル事項

第一條 帝國蠶絲組合特別出資ハ生絲賣買契約時期ノ如何ニ拘ラス昭和四年一月一日以後ニ於テ輸出生絲検査法ニ

社團法人帝國蠶絲組合特別出資取扱細則

特別出資規程

第一條 特別出資ハ左ノ方法ニヨリ之ヲ爲スモノトス

一、輸出商(問屋ニ於テ直接生絲ヲ輸出スル場合ハ之ヲ輸出商ト看做ス)ハ買入レタル生絲代金中ヨリ定款第十一條第四項ノ出資金ヲ差引キ毎月十日迄ニ前月分ヲ問屋別ニ取纏メ當該問屋名義ヲ以テ拂込ヲ爲シ當該問屋ニ對シ其拂込金額ヲ報告スルモノトス

問屋ハ各輸出商ヨリ前項金額ノ報告ヲ受ケタルトキハ突合セテ爲シ直ニ其總金額並ニ各荷主別金額ヲ本組合ニ報告スルモノトス右ノ場合問屋及ヒ本組合ハ輸出商ノ名義ヲ絶對ニ發表セサルモノトス

二、輸出商ニシテ地元ニ於テ直接買入レタル生絲ニ對スル定款第十一條第四項ノ出資金ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ當該輸出商ニ於テ其名義ヲ以テ拂込ヲ爲スモノトス

三、輸出商ニ直接入荷シタル生絲ニ付テハ輸出商ハ生絲代金中ヨリ定款第十一條第四項ノ出資金ヲ差引キ毎月十日迄ニ前月分ヲ荷主名義ヲ以テ拂込ヲ爲スモノトス

四、直接輸出ヲ爲ス荷主ハ定款第十一條第四項ノ出資金ノ前月分ヲ毎月十日迄ニ荷主名義ヲ以テ拂込ヲ爲スモノトス

ヨル正量検査ノ完了シタルモノヨリ之ヲ爲スモノトス

取引所ノ封印附ナル場合ニ限り昭和四年七月一日以後ニ於テ同所ノ受渡準備検査ニ合格シタルモノトス但シ昭和四年産ノ繭ヲ以テ製産シタル生絲ニシテ昭和四年六月中ニ受渡準備検査ニ合格シタルモノニ付テハ特別出資ヲ爲スモノトス

第二條 特別出資金ハ左ノ方法ニヨリ算出スルモノトス

(一) 生絲検査所ニ於テ壹俵トシテ取扱ヒタルモノニ對シテハ其ノ斤量ニ拘ラス壹俵ニ付貳圓五拾錢ノ割合ヲ以テ計算スルモノトス

(二) 取引所ノ封印附生絲ニ對シテハ其ノ斤量カ取引所ニ於テ一荷口(千斤)トシテ受渡ヲ許容セル範圍内ナルトキハ斤量ニ拘ハラズ一荷口ニ付貳拾五圓ノ割合ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 特別出資ヲナシタル生絲ニ對シテハ既ニ特別出資ヲナシタルコトヲ證明シ得ル場合ニ限り之ヲ爲スノ必要ナキモノトス

左ノ各號ノ一ニ該當スル生絲ニ對シ更ニ正量検査ヲ受ケル場合ニ於テ之カ事實ヲ證明シ得ル場合ニ限り特別出資ヲナスノ必要ナキモノトス

主要關係團體定款並諸規程

1110

ルモノ
(一) 昭和三年産ノ繭ヲ以テ製産シタル生絲ニシテ昭和四年六月三十日以前ニ取引所ノ受渡準備検査ニ合格シタルモノ

第四條 輸出商、直接輸出ヲ爲ス生産者並ニ取引所ハ前條ノ規定ニヨリ特別出資ノ必要ナキモノアリタルトキハ第一號様式ニヨリ毎月十日迄ニ前月中(正量檢定證ノ日附ニヨル)ニ於ケル其ノ數量ヲ帝國蠶絲組合ニ報告スルモノトス

拂込並ニ之ニ關聯セル事項

第五條 輸出商ニ於テ問屋ヨリ買入レタル生絲代金中ヨリ特別出資金ヲ控除シタルトキハ其ノ時々第二號様式ノ代金内譯書ニ一定ノ證印ヲ捺捺シ之ヲ當該問屋ニ交付スルモノトス

前項ノ生絲代金内譯書ハ生絲代金受取ニ際シ問屋ニ於テ正副各壹通ヲ調製シ當該輸出商ニ提出スルモノトス

第六條 取引所ハ生絲ノ受渡準備検査申請者ニ検査證交付ノ際當該申請者ヨリ特別出資金ヲ徵收スルモノトス
取引所ハ前項特別出資金ノ徵收ヲ爲シタルトキハ第三號様式ノ領收書正副各壹通ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スルモノトス

員ニ對スル報告書ヲ調製シ當該問屋若ハ取引員ヲ經由シテ之ヲ當該社員ニ送付スルモノトス

第十三條 帝國蠶絲組合ハ輸出商ニ直接入荷シタルモノニ對スル特別出資ニ對シテハ第九條ニヨリ銀行ヨリ拂込ノ通知ニ接シタルトキハ其ノ時々第七號様式ニヨリ取扱輸出商別ニ各社員ニ對スル報告書ヲ調製シ當該輸出商ヲ經由シテ之ヲ社員ニ送付スルモノトス

出資督勵機關ニ關スル事項

第十四條 實行委員會ハ帝國蠶絲組合ヨリ囑託セラレタル委員ヲ以テ之ヲ組織スルモノトス

第十五條 實行委員會ハ特別出資ノ狀況ヲ調査シ且ツ之カ出資實行上ノ監督ノ任ニ當ルモノトス

第十六條 實行委員會ニ委員長壹名部長貳名ヲ置ク
委員長ハ實行委員會ヲ代表シ會務一切ヲ主宰シ部長ハ帝國蠶絲組合ノ横濱及神戸ニ於ケル會務ヲ處理スルモノトス

委員長及部長ハ實行委員ニ於テ互選スルモノトス

第十七條 實行委員會ニ補助員若干名ヲ置ク
前項ノ補助員ハ實行委員會ニ於テ之ヲ囑託スルモノトス
補助員ハ委員長又ハ部長ノ命ヲ受ケ會務ニ從事スルモノトス

社團法人帝國蠶絲組合特別出資取扱細則

第七條 取引所ノ封印生絲受渡ノ際渡方ハ各荷口ニ付前條ニヨル領收書副本壹通ヲ添付スルモノトス

第八條 輸出商、直接輸出ヲナス生産者並ニ取引所ハ毎月十日(當日休業日ナルトキハ翌日ニ繰下ケルモノトス)ニ前月分(正量檢定證ノ日附ニヨル)特別出資金ニ第四號甲様式ノ拂込傳票ヲ添へ帝國蠶絲組合指定ノ銀行ニ拂込ヲ爲スモノトス

第九條 前條ノ拂込ヲ受ケタル銀行ハ第五號様式ノ領收證ヲ拂込人ニ交付シ直ニ拂込人ノ提出ニ係ル拂込傳票ニ銀行經由ノ記號(出資金領收年月日アルモノ)ヲ附シ拂込人別計算表ヲ添付シ之ヲ帝國蠶絲組合ニ送付スルモノトス

第十條 輸出商並ニ取引所ハ特別出資金ノ拂込ヲ了シタルトキハ直ニ第四號乙様式ニヨリ當該相手方ニ其ノ金額並ニ拂込ヲ了シタル旨ヲ通知スルモノトス

第十一條 問屋並ニ取引員ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ第六號様式ニヨリ總金額並ニ各荷主別金額ヲ記載セル報告書ヲ調製シ之ヲ帝國蠶絲組合ニ提出スルモノトス

第十二條 帝國蠶絲組合ハ前條ノ報告書ヲ受ケタルトキハ其ノ時々第七號様式ニヨリ取扱問屋若ハ取引員別ニ各社員ニ對スル報告書ヲ調製シ當該問屋若ハ取引員ヲ經由シテ之ヲ當該社員ニ送付スルモノトス

第十三條 帝國蠶絲組合ハ毎月十日迄ニ生絲檢査所ヨリ第八號様式ニヨリ同所ニ於テ前月中(正量檢定證ノ日附ニヨル)ニ正量檢査ヲ爲シタル數量ノ回報ヲ受ケ其ノ數量ト各當業者ノ拂込ミ特別出資金額トヲ對比調査シ第九號様式ニヨリ其ノ狀況ヲ實行委員會ニ報告スルモノトス

第十四條 實行委員會ハ第三條及第十五條ニ規定ノ事項ニ關シ必要アリト認メタルトキハ當事者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第十五條 實行委員會ハ特別出資ニ關スル義務懈怠者アルトキハ之ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ期シ又ハ之ニ對シ戒告スルコトヲ得ルモノトス

第十六條 前項ノ戒告ヲ受ケタル者之カ趣旨ヲ肯セサルトキハ當業者一般ニ其ノ顛末ヲ報告シ且ツ適當ナル處置ヲ爲シ得ルモノトス

附 則

第二十一條 本細則中特別出資ノ取扱ニ關シ取引所トアルハ同所カ取引員組合ノ代行者タルコトノ意ニ於テ之ヲ使

用セルモノトス
第二十二條 特別出資金ノ取扱ニ要スル一切ノ費用ハ帝國蠶絲組合ニ於テ負擔スルモノトス
(様式省略)

主要關係團體定款並諸規程

參考事項

特別積立實行方法

昭和三年十一月一日中央會第三部會決議

第一條 正量検査ヲ受ケタル生絲ニ付テハ特別積立金トシテ千斤ニ付最低金貳拾五圓ノ割合ヲ以テ積立チナスモノトス

第二條 特別積立金ハ帝國蠶絲組合ニ從來ノ積立金ト區分シ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ積立ツルモノトス

第三條 積立期間ハ元利合計金參千萬圓ニ達スル迄トス但シ積立期間中ハ政府ノ承認ヲ經テ運用スルコトアルヘシ

第四條 特別積立金ハ左ノ方法ニ據リ積立ツルモノトス

一、輸出商(問屋ニ於テ直接生絲ヲ輸出スル場合ハ之ヲ輸出商ト見做ス)ハ購入シタル生絲代金中ヨリ第一條ノ積立金ヲ差引キ毎月十日迄二前月分ヲ問屋別ニ取纏メ當該問屋名義ヲ以テ拂込チナシ各問屋別拂込金額ヲ其ノ問屋ニ報告スルモノトス
問屋ハ各輸出商ヨリ前項ノ金額ノ報告ヲ受ケタルトキハ突合チナシ直ニ其總金額並ニ各荷主別金額ヲ帝國蠶絲組合ニ報告スルモノトス
此ノ場合問屋及ヒ帝國蠶絲組合ハ輸出商ノ名義ヲ絕對

ニ發表セサルモノトス

二、輸出商ニシテ地元ニ於テ直接買入レタル生絲ニ對スル積立金ハ當該輸出商ニ於テ積立チ爲スモノトス

三、輸出商ニ直接入荷シタル生絲ニ付テハ輸出商ハ生絲代金中ヨリ第一條ノ積立金ヲ差引キ毎月十日迄二前月分ヲ荷主名義ヲ以テ拂込ミチナスモノトス

四、直接輸出チナス荷主ハ第一條ノ積立金ノ前月分ヲ毎月十日迄ニ拂込ミチナスモノトス

五、取引所ノ封印生絲ニ付テハ封印チナス場合ニ取引所ハ第一條ノ積立金ヲ検査手数料ト共ニ取立テ封印申請者ノ名義ヲ以テ帝國蠶絲組合ニ拂込ミチナシ各申請者別金額ヲ其申請者ニ報告スルモノトス

申請者ハ取引所ヨリ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ突合セチナシ直ニ其ノ總金額並ニ各荷主別ノ金額ヲ帝國蠶絲組合ニ報告スルモノトス

第五條 特別積立金額ハ生絲検査所ノ正量検査俵數ヲ以テ引合セチナスモノトス

第六條 積立金ノ保管及拂戻其他ニ關シテハ帝國蠶絲組合ノ定款ノ規定ニヨルモノトス

附 則

第七條 本決議事項ノ實行ニ關スル一切ノ手續ハ帝國蠶絲

橫濱蠶絲貿易商同業組合
生絲輸出商同業會
橫濱外國人生絲屑絲商組合
神戸蠶絲貿易同業組合

帝國蠶絲倉庫株式會社定款

第一章 總 則

第一條 本會社ハ蠶絲並ニ絹物ノ輸出貿易ノ進展ヲ圖リ取引ノ圓滑ヲ期スル爲左ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス

一、生絲、絹物及蠶絲副産物ニ關ル倉庫業

二、所有建物ノ賃貸

三、第一號ニ掲ケル物品又ハ其ノ倉庫證券ヲ擔保トスル

四、債務(第一號ニ掲ケル物品又ハ其ノ倉庫證券ヲ擔保トスルモノニ限ル)ノ保證

五、第一號ニ掲ケル物品ノ船積及荷爲替ニ關スル代理並ニ媒介

六、前各號ニ關聯スル業務

第二條 本會社ハ帝國蠶絲倉庫株式會社ト稱ス

第三條 本會社ハ本店並ニ倉庫ヲ橫濱市ニ置ク

第四條 本會社ノ資本總額ハ金參百萬圓トス

組合ニ一任スルモノトス

帝國蠶絲組合ハ本決議ノ實行ヲ期スルタメ特別委員若干名ヲ囑託スルモノトス

第八條 特別積立ニ關スル第三部會ノ決議ハ蠶絲業同業組合中央會々長ヨリ生絲關係組織組合ニ通告シ組織組合ヲシテ總會又ハ組合會ヲ召集シ第三部會ノ決議ヲ報告セシムルモノトス

以上

社団法人帝國蠶絲組合特別出資金ニ付決議

昭和三年十一月一日蠶絲業同業組合中央會協議員參加ノ第三部會ハ帝國蠶絲組合特別出資ニ關シ別紙(特別積立實行方法ト同文ニ付別紙ハ省略)ノ通り決議セラレタリ

惟フニ右積立ノ目的ハ不況時ニ於ケル本邦絲價ノ安定ヲ計ルニアリテ其ノ效果ハ獨リ生産者ノミナラス延イテハ我蠶絲業ノ全般ニ及フヘキハ論ヲ俟タス故ニ是カ實施ニ當リテハ各當業者ノ自發的協力ヲ必要トスルト共ニ之カ徹底ヲ期スル上ニ於テ萬遺漏ナキヲ保セサルヘカラサルナリ
依テ該積立金ノ徵收並ニ之カ普遍的實行ノ手段ヲ委託セラレタル下記四團體全員ハ右積立ニ關スル義務ヲ履行セサル當業者ニ對シテハ一切ノ生絲取引ヲ拒否スルニトテ決議ス

昭和三年十一月二十日

帝國蠶絲倉庫株式會社定款

主要關係團體定款並諸規程

第五條 本會社ノ公告ハ橫濱市ニ於テ發行スル橫濱貿易新報ニ掲載スルモノトス

第二章 株 式

第六條 本會社ハ資本總額ヲ六萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス株券ハ記名式トシ壹株券拾株券及百株券トス

第七條 株金ノ第一回拂込ハ壹株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ第二回以後ノ拂込ハ取締役會ニ於テ之ヲ定ム

第八條 株金ノ拂込ヲ怠リタル株主ハ其ノ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄金百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ遲滯利息ヲ支拂ヒ尙ホ之力爲ニ生シタル損害及費用ヲ賠償スヘシ

第九條 株主ハ氏名、住所及印鑑ヲ本會社ニ届出ツルモノトス

株主カ其ノ法定代理人ニ依リテ代理セラルル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名、住所及印鑑ヲ届出ツルコトヲ要ス
其ノ變更シタルトキ亦同シ

第十條 株式ノ讓渡ヲ爲サントスル者ハ當事者双方連署シテ豫メ本會社取締役會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 株主總會

第十六條 定時株主總會ハ毎年四月及十月之ヲ召集シ臨時株主總會ハ必要アル毎ニ召集ス

第十七條 株主總會ノ議長ハ社長之ニ當リ社長事故アルトキハ社長ノ指名シタル取締役之ニ當リ其ノ取締役事故アルトキ又ハ商法第六十條及第八十二條ニ依リ召集シタル總會ノ議長ハ出席株主中ヨリ總會之ヲ選任ス

第十八條 株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ壹株ニ付壹個トス
但其ノ議決權ヲ行使スヘキ代理人ハ第九條ノ代理人ヲ除ク外本會社ノ株主タルコトヲ要ス

第十九條 總會ノ議決權ハ法律ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外出席株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十條 總會ニ於テ決議シタル事項ハ決議録ニ記載シ議長及出席株主貳名之ニ記名捺印シテ本會社ニ保存ス

第四章 取締役及監査役
第二十一條 本會社ニ取締役拾貳名以內監査役參名以內ヲ置ク

第二十二條 取締役並ニ監査役ハ參百株以上ヲ有スル株主タルコトヲ要ス

帝國蠶絲倉庫株式會社定款

ハ本會社所定ノ請求書ニ株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ
相續、遺贈其ノ他讓渡以外ノ事由ニ因リテ株式ヲ取得シ又ハ氏名ヲ改メ其ノ名義ノ書換ヲ請求スル場合ニハ前項請求書ニ其ノ事實ヲ證スル書面及株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十二條 株券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ新株券ノ交附ヲ請求スル者ハ本會社所定ノ請求書ニ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ且本會社ノ相當ト認ムル證人貳名以上ノ連帶保證書ヲ差出シ公告ニ要スル費用ヲ豫納スヘシ
此場合ニ於テ本會社ハ豫納ノ費用ヲ以テ公告ヲ爲シタル後三十日ヲ經テ他ヨリ異議ノ申出ナキ時ハ新株券ヲ交附ス

第十三條 株券ノ分合ノ爲又ハ其ノ汚損ニ因リ新株券ノ交附ヲ請求スル者ハ本會社所定ノ請求書ニ舊株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十四條 第十一條ノ場合ニ於テハ金貳拾錢第十二條、第十三條ノ場合ニ於テハ金五拾錢ヲ株券壹枚毎ニ請求者ヨリ申受クヘシ

第十五條 本會社ハ毎年四月一日及十月一日ヨリ各其ノ期定時株主總會終了ノ日迄及臨時株主總會召集ノ通知ヲ發シタル日ヨリ該總會終了ノ日迄株式名義ノ書換ヲ停止ス

第二十三條 取締役ノ任期ハ三年監査役ノ任期ハ二年トス但任期滿了ノ時其ノ任期中最終ノ決算期ニ關スル定時株主總會カ未タ終結セサルトキハ其ノ終結ニ至ル迄ノ任期ヲ伸長ス

第二十四條 取締役ハ在任中其ノ所有スル本會社株式貳百株ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス
但任期中退任シタル場合ニハ株主總會ニ於テ其ノ期ノ決算ノ承認ヲ經タル後ニアラサレハ還付ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

第二十五條 取締役及監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉ヲ行フ
但法定ノ人員ヲ缺クコトナク且業務ニ差支ナキ時ハ取締役會ノ決議ヲ以テ其ノ補缺選舉ヲ延期スルコトヲ得
補缺トシテ選任セラレタル取締役及監査役ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十六條 本會社ニ社長壹名及專務取締役壹名ヲ置ク
社長及專務取締役ハ各自會社ヲ代表シ業務ヲ執行ス
社長及專務取締役ハ取締役中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第二十七條 取締役及監査役ノ報酬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
第二十八條 取締役會ノ決議ニ依リ顧問及評議員若干名ヲ任ス

置クコトヲ得

第五章 計 算

第二十九條 本會社ハ一年ヲ二期ニ分チ四月一日ヨリ九月三十日迄ヲ上半期トシ十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ下半期トシ每期ノ終ニ於テ其ノ收支ヲ決算スルモノトス

第三十條 本會社ノ損益計算ハ每期總益金ヨリ總損金ヲ差引キタルモノヲ純益金トシ左ノ項目ニ分配ス

但總會ノ決議ニ依リ別途積立、後期繰越、其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一、法定積立金 純益金ノ百分ノ五以上
- 一、役員賞與金 純益金ノ百分ノ十以内
- 一、従業員退職手當積立金
- 一、株主配當金

第三十一條 株主ニ配當スヘキ額ハ一ケ年ヲ通シ年壹割ノ割合ヲ超ユルコトヲ得サルモノトシ毎決算期末現在ノ株主ニ配當ス

附 則

第三十二條 第壹回ノ決算ニ限り大正十五年九月末日之ヲ爲スモノトシ第一回定時株主總會ニ限り大正十五年十月廿二日開會スルモノトナス

第四條 當會社ノ公告ハ橫濱市ニ於テ發行スル橫濱貿易新報ヲ以テ之ヲ爲ス

營業ニ關スル通知又ハ催告ヲ關係者ニ對シテナスコト能ハサルカ若クハ之ヲナスニ著シキ困難アル場合ハ前項ノ新聞紙ニ其事項ヲ掲載シタルノミヲ以テ之ヲ了シタルモノトス

第五條 當會社構内ニ於テ貨物ノ出入、運搬其他ニ使役スル人夫ハ總テ當會社所屬ノモノ又ハ當會社ニ於テ承認シタルモノニ限ル

第六條 當會社ハ擔保、供託金其他業務上受取りタル金銭ニ對シテハ利息ヲ附セサルモノトス

第二章 貨物ノ受託

第七條 貨物ヲ寄託セントスルモノハ其種類、品質、數量、個數、申込當時ノ價格其他所事項ヲ記載シタル寄託申込書ヲ提出スヘシ但當會社ノ都合ニ依リテハ送り狀ヲ以テ其代用トシ又ハ口頭ノ申込ヲ受クルコトアルヘシ

第八條 保管又ハ取扱上特別ノ注意ヲ要スヘキ貨物ハ寄託ノ際特ニ其旨ヲ明示スヘシ

前項ノ明示ナカリシ爲ニ生シタル損害ニ付テハ當會社其責ニ任セズ

第九條 貨物ノ價格ヲ明示セサルカ若クハ其申込價格ヲ不

帝國蠶絲倉庫株式會社營業規則

第三十三條 創立費用ハ金五千圓以内トス

第三十四條 本會社發起人ノ氏名、住所左ノ如シ

(住所氏名略ス)

營業規則

第一章 總 則

第一條 當會社ノ營業課目ハ左ノ如シ

- 一、生絲、絹物及蠶絲副産物ニ關スル倉庫業
- 二、所有建物ノ賃貸
- 三、第一號ニ掲クル物品又ハ其ノ倉庫證券ヲ擔保トスル貸付
- 四、債務(第一號ニ掲クル物品又ハ其ノ倉庫證券ヲ擔保トスルモノニ限ル)ノ保證
- 五、第一號ニ掲クル物品ノ船積及荷爲替ニ關スル代理並ニ媒介
- 六、前各號ニ關聯スル業務

第二條 當會社ノ倉庫營業ニ關シテハ凡テ本營業規則ニ據ルモノトス

本營業規則ニ規定セサル事項ハ法令及慣習ニ據ル

第三條 當會社ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及定例ノ休日トス

但臨時休業ヲナスコトアルヘシ

營業時間ハ別ニ之ヲ定ム

相當ト認メタルトキハ當會社力相當ト認メタル所ヲ以テ其價格ト定ム

前項ノ認定ニ關シ寄託者ハ如何ナル理由ニ依ルモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十條 受寄物保管期間中ニ於テ寄託者又ハ證券所持人ヨリ理由ヲ付シテ受寄物ノ價格變更ノ要求アルトキハ當會社ハ之ニ應スルコトアルヘシ

第十一條 當會社力寄託ノ申込ヲ承諾シタルトキハ寄託者ハ指定ノ場所及日時ニ貨物ヲ送致スヘシ

寄託者力貨物ノ送致ヲ怠リタルトキハ當會社ハ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ當會社其承諾ヲ取消スコトヲ得

第十二條 寄託申込前ニ貨物ノ送致アリタル場合ト雖モ當會社ハ本營業規則ニ依リ保管ヲナシ追テ第七條ノ申込手續ヲナサシムルコトアルヘシ

第十三條 貨物ノ送致アリタル場合ニ於テハ當會社ハ其寄託ヲ拒絶スルトキト雖モ商法第二百七十二條ニ依リ一時其貨物ヲ保管スルトキハ其保管ニ關シテハ本營業規則ヲ準用スルモノトス

第十四條 當會社力寄託ノ申込ヲ承諾シタル後ト雖モ已ムヲ得サル事情アルトキハ之ヲ取消シ若クハ契約ヲ解除ス

ルコトアルヘシ何レノ場合ニ於テモ因リテ生シタル損害ニ付テ當會社其責ニ任セス

第十五條 當會社ニ於テ必要ト認メタルトキハ庫入ノ際又ハ受託後ニ於テ關係者ノ承諾ヲ經スシテ貨物ノ全部又ハ一部ニ付キ其内容ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ検査ニ因リテ生シタル損害ハ當會社其責ニ任セス

第三章 倉庫證券

第十六條 當會社ハ受寄物ニ對シ寄託者ノ請求ニヨリ預證券及質入證券、倉荷證券、貨物預證券又ハ保管貨物通帳ヲ交付スヘシ
讓渡禁止ノ旨ヲ記載シタル證券、證書及通帳ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十七條 受寄物ノ内容ヲ検査スルコト不適當ナルモノニ對シテハ倉庫證券、貨物預證券及保管貨物通帳ニ其種類、品質、數量ヲ記載スルモ當會社其責ニ任セス其貨物ノ内容ヲ検査セサル旨ノ記載ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十八條 倉庫證券ノ分割又ハ書換ノ請求アリタルトキハ當會社ハ所定ノ手数料ヲ申受クヘシ
第十九條 倉庫證券ヲ喪失又ハ滅失シタルトキハ公示催告申立後當會社ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ貨物ノ出庫又ハ更ニ證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但其擔保物件

已ムヲ得サル事故ニ因リ生シタル損害
三、火災保險者カ損害填補ノ責任ヲ有スル損害若クハ寄託者ノ申出ニヨリ火災保險ニ付セザリシ貨物ノ火災ニ因ル損害
四、直接ト間接トヲ問ハズ爆發ニ因ル損害

第二十四條 第十二條、第十三條及第二十一條ニヨリ保管セル貨物ニ對シ生シタル損害及當會社ヨリ返還又ハ處分ノ催告ヲ爲シタル後貨物ニ生シタル損害ニ對シテハ當會社一切其責ニ任セス

第二十五條 受寄物ノ損害ニ對スル當會社ノ賠償金額ハ受寄物ヲ當會社ニ於テ火災保險ニ付シタルトキハ第四十條所定ノ保險金額又ハ火災保險ニ付セザリシトキハ第七條、第九條及第十條ニ依ル價格ヲ以テ限度トシ損害當時ノ時價ニ依リ若シ損害發生ノ時期カ不明ナル時ハ損害發見當時ノ時價ニ依リ損害ノ程度ニ應シ之ヲ算定スルモノトス但時價カ前記保險金額又ハ價格ヲ超過スル時ハ該保險金額又ハ認定價格ニ依リ損害ノ程度ニ應シ算出スルモノトス

第二十六條 當會社カ損害貨物ニ對シ其價格全部ヲ支拂ヒタルトキハ寄託者又ハ證券所持人カ其損害貨物ニツキ有スル一切ノ權利ヲ取得スルモノトス
帝國蠶絲倉庫株式會社營業規則

ハ除權判決確定後ニアラサレハ之ヲ返戻セサルモノトス

第四章 受寄物ノ保管

第二十條 受寄物ノ保管期間ハ六ヶ月以内トス但滿期ニ至リ當會社ノ承認ヲ經テ之ヲ更新スルコトヲ得
保管期間滿了ノ際出庫又ハ期間更新ノ手續ヲ爲ササル時ハ滿期後ハ二倍ノ保管料ヲ申受クヘシ但第三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第二十一條 保管期間滿了後更新ノ手續ヲ爲ササル貨物ノ保管ニ關シテモ本營業規則ヲ準用スルモノトス

第二十二條 寄託者又ハ證券所持人ニ對シ當會社カ賠償ノ責ニ任スヘキ損害ハ當會社又ハ其使用人ノ故意又ハ重大ナル過失ニヨリテ直接ニ生シタルコト明瞭ナル場合ニ限ルモノトス
前項ノ場合ニ於テ當會社ニ對シ損害賠償ヲ請求セントスル者ハ其損害ノ原因ヲ證明スヘキモノトス

第二十三條 左ノ損害ニ對シテハ當會社其賠償ノ責ニ任セス
一、鼠害、虫害、天候、濕氣、防疫、自然ノ減量、貨物ノ性質若クハ瑕疵又ハ荷造ノ不完全ニ基キタル損害
二、直接ト間接トヲ問ハズ損耗スヘカラサル災厄若クハ

第二十七條 當會社ハ受寄物カ保管ニ適セサルモノト認メタルトキ又ハ已ムヲ得サル事情アルトキハ寄託者又ハ證券所持人ニ其處分ヲナスヘキコトヲ催告スヘシ受寄物カ倉庫又ハ他ノ貨物ニ損害ヲ及ボス虞アリト認メタルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ寄託者又ハ證券所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ直ニ其處分ヲナスコトヲ要ス但當會社ニ於テ切迫シタル事情アリト認ムルトキ又ハ寄託者若クハ證券所持人カ遲滞ナク前項ノ催告ニ應セザルトキハ當會社ハ任意ニ受寄物ノ處分ヲナスコトアルヘシ

本條ノ處分ニ因リテ生シタル損害ハ當會社其責ニ任セス
第二十八條 受寄物ノ變質損傷其他ノ原因ニヨリ倉庫又ハ他ノ貨物等ニ損害ヲ生シタルトキハ寄託者又ハ證券所持人ハ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ若シ賠償ノ請求ニ應セザルトキハ任意ニ受寄物ヲ處分シ其代金ヲ以テ賠償ニ允テ尙不足アルトキハ寄託者又ハ證券所持人ニ對シ其不足額ヲ請求スヘシ

第二十九條 當會社ハ寄託者又ハ證券所持人ノ承諾ヲ經スシテ受寄物ノ積換、保管場所ノ變更又ハ他ノ種類ノ貨物トノ混藏ヲ爲スコトアルヘシ
第三十條 受寄物ノ點檢、見本ノ摘出又ハ保存ニ必要ナル

處置ト雖モ已ムヲ得サル場合ニハ之ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第三十一條 寄託者又ハ證券所持人カ見本ノ摘出、受寄物ノ點檢又ハ保存ニ必要ナル處置ヲナス場合ニ於テ之カ爲荷造ヲ毀損セルトキ又ハ價格ニ影響ヲ及ボスモノト認ムルトキハ當會社ハ倉庫證券其他必要ノ書類ニ其旨ヲ記入スルカ若クハ當會社ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシムヘシ

第五章 受寄物ノ引渡

第三十二條 倉庫證券ニヨリ貨物ヲ出庫セントスル者ハ證券面指定ノ事項ヲ記入シ記名捺印ノ上當會社ニ提出スヘシ貨物預證書又ハ保管貨物通帳ニヨル貨物ノ出庫ニツキテハ前項ノ規定ヲ準用ス但此場合ニ於テハ當會社ハ別ニ貨物受取證ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ
證券又ハ證書ヲ發行セサル場合ニ於テハ貨物受取證ヲ作成シ當會社ニ提出スルコトヲ要ス

第三十三條 受寄物ニ對シ擔保權ヲ有スル者ト當會社トノ間ニ於テ貨物取扱ニ關シ特約アル場合ニ於テハ貨物ノ出庫ハ擔保權者ト當會社トノ特約ニ據リテナスモノトス
第三十四條 當會社ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ貨物ノ一部出庫ヲ謝絶スルコトアルヘシ

帝國蠶絲株式會社定款

第一章 總 則

第一條 本會社ハ絲價ノ安定ヲ期スル爲左ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス
一、生絲ノ買入レ及其ノ賣渡シ
二、生絲又ハ其ノ倉荷證券ヲ擔保トスル貸付
三、生絲又ハ其ノ倉荷證券ヲ擔保トスル債務ノ保證
四、生絲ノ問屋業
五、前各號ニ關聯スル業務
第二條 本會社ハ帝國蠶絲株式會社ト稱ス
第三條 本會社ハ本店ヲ橫濱市ニ置ク
但便宜ノ地ニ出張所ヲ設クルコトヲ得
第四條 本會社ノ資本總額ハ金五百萬圓トス
第五條 本會社ノ公告ハ橫濱市ニ於テ發行スル橫濱貿易新報ニ掲載スルモノトス
第二章 株 式
第六條 本會社ハ資本總額ヲ拾萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス株券ハ記名式トシ壹株券、拾株券、百株券トス
第七條 株金ノ第一回拂込ハ壹株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ第二回以後ノ拂込ハ取締役會ニ於テ決ス

物ノ火災保險金額トス
第四十一條 寄託者又ハ證券所持人カ保險契約ノ效力ニ關シ影響ヲ及ボスヘキ事項ヲ告知セサルニヨリ生シタル一切ノ損害ハ寄託者又ハ證券所持人ノ負擔トス
第四十二條 火災保險ニ付シタル受寄物ノ一部ヲ出庫シタルトキハ其割合ニ應シ保險金額モ亦減少スルモノトス
第四十三條 受寄物ノ火災保險ニ關スル事項ハ總テ當會社ト保險者トノ契約ニ據ルモノトス
第四十四條 火災保險金ハ當會社ヲ經由シテ其支拂ヲ受クルモノトス

第七章 建物ノ賃貸

第四十五條 建物ノ賃貸ニ關シテハ當會社ニ於テ別ニ定ムル所ニ據ル

第八章 保管料、立替金及其他ノ費用

第四十六條 受寄物ニ對スル保管料、手数料、立替金又ハ出入、運搬、檢査見本ノ摘出、荷造ノ修理、防疫其他處分、保存等ニ關スル費用ハ寄託者又ハ證券所持人ノ負擔トシ其料率計算法ハ別ニ定ムル所ニ據ル
前項ノ諸費用ハ當會社ノ都合ニヨリ隨時若クハ定時ニ之ヲ請求スヘシ

以上

第八條 株金ノ拂込ヲ怠リタル株主ハ其ノ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄金百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ遲滯利息ヲ支拂ヒ尙之カ爲ニ生シタル損害及費用ヲ賠償スヘシ

第九條 株主ハ氏名、住所及印鑑ヲ本會社ニ届出ツルモノトス

株主カ其ノ法定代理人ニ依リテ代理セラルル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名、住所及印鑑ヲ届出ツルコトヲ要ス其ノ變更シタルトキ亦同シ

第十條 株式ノ讓渡ヲ爲サントスル者ハ當事者雙方連署シテ豫メ本會社取締役會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條 株式ノ讓渡ニ因リ其ノ名義ノ書換ヲ請求スル者ハ本會社所定ノ請求書ニ株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

相續遺贈其ノ他讓渡以外ノ事項ニ因リテ株式ヲ取得シ又ハ氏名ヲ改メ其ノ名義ノ書換ヲ請求スル場合ニハ前項請求書ニ其ノ事實ヲ證スル書面及株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十二條 株券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ新株券ノ交付ヲ請求スル者ハ本會社所定ノ請求書ニ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ且本會社ノ相當ト認ムル證人貳名以上ノ連帶保證書ヲ差出シ公告ニ要スル費用ヲ豫納スヘシ

人ヲ除ク外本會社ノ株主タルコトヲ要ス

第十九條 總會ノ決議ハ法律ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外出席株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十條 總會ニ於テ決議シタル事項ハ決議録ニ記載シ議長及出席株主二名之ニ記名捺印シテ本會社ニ保存ス

第四章 取締役及監査役
第二十一條 本會社ニ取締役拾六名以内監査役八名以内ヲ置ク

第二十二條 取締役並ニ監査役ハ貳百株以上ヲ有スル株主タルコトヲ要ス

第二十三條 取締役ノ任期ハ三年監査役ノ任期ハ二年トス

但任期滿了ノ時ハ最終ノ決算期ニ關スル定時株主總會カ未タ終結セサルトキハ其ノ終結ニ至ル迄ノ任期ヲ伸長ス

第二十四條 取締役ハ在任中其ノ所有スル本會社株式壹百株ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

但任期中退任シタル場合ニハ株主總會ニ於テ其ノ期ノ決算ノ承認ヲ經タル後ニアラサレハ還付ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

第二十五條 取締役及監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺

此ノ場合ニ於テ本會社ハ豫納ノ費用ヲ以テ公告ヲ爲シタル後三十日ヲ經テ他ヨリ異議ノ申出ナキ時ハ新券ヲ交附ス

第十三條 株券ノ分合ノ爲又ハ其ノ汚損ニ因リ新株券ノ交附ヲ請求スル者ハ本會社所定ノ請求書ニ舊株券ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十四條 第十一條ノ場合ニ於テハ金貳拾錢第十二條、第十三條ノ場合ニ於テハ金五拾錢ヲ株券壹枚毎ニ請求者ヨリ申受クヘシ

第十五條 本會社ハ毎年七月一日ヨリ其ノ期定時株主總會終了ノ日迄及臨時株主總會招集ノ通知ヲ發シタル日ヨリ該總會終了ノ日迄株式名義ノ書換ヲ停止ス

第三章 株主總會
第十六條 定時株主總會ハ毎年七月之ヲ招集シ臨時株主總會ハ必要アル毎ニ招集ス

第十七條 株主總會ノ議長ハ社長之ニ當リ社長事故アルトキハ他ノ取締役之ニ當リ商法第六十條及第百八十二條ニ依リ招集シタル總會ノ議長ハ出席株主中ヨリ總會之ヲ選任ス

第十八條 株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ壹株ニ付壹個トス、但其ノ議決權ヲ行使スヘキ代理人ハ第九條ノ代理

選舉ヲ行フ

但法定ノ人員ヲ缺クコトナク且業務ニ差支ナキトキハ取締役會ノ決議ヲ以テ其ノ補缺選舉ヲ延期スルコトヲ得補缺トシテ選任セラレタル取締役及監査役ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十六條 本會社ニ社長壹名專務取締役若干名ヲ置ク社長及專務取締役ハ各自會社ヲ代表シ業務ヲ執行ス

社長及專務取締役ハ取締役中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第二十七條 取締役及監査役ノ報酬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十八條 取締役會ノ決議ニ依リ顧問及評議員若干名ヲ置クコトヲ得

第五章 計 算

第二十九條 本會社ノ營業年度ハ一年ヲ一期トシ毎年五月三十一日其ノ收支ヲ決算スルモノトス

第三十條 本會社ノ損益計算ハ每期總益金ヨリ總損金ヲ差引キタルモノヲ純益金トシ左ノ項目ニ分配ス

但總會ノ決議ニ依リ別途積立、後期繰越其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一、法定積立金 純益金ノ百分ノ五以上
- 一、役員賞與金 純益金ノ百分ノ十以内

一、從業員退職手當積立金
一、株主配當金

第三十一條 株主ニ配當スヘキ額ハ年壹割ノ割合ヲ超ユルコトヲ得サルモノトシ其ノ期末現在ノ株主ニ配當ス

附 則

第三十二條 創立費用ハ金壹萬圓以內トス

第三十三條 本會社發起人ノ氏名住所左ノ如シ

(住所氏名略ス)

有限責任大日本生絲販賣組合 聯合會定款

第一章 總 則

第一條 本會ハ所屬聯合會及所屬組合ノ委託ヲ受ケ其ノ賣却スル生絲ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ有限責任大日本生絲販賣組合聯合會ト稱ス

第三條 本會ノ組織ハ有限責任トス

第四條 本會ハ全國ヲ以テ區域トス

第五條 本會ノ事務所ハ之ヲ横濱市中區北仲通六丁目七十

七番地ニ置ク

第六條 聯合會原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出ハ毎年

二 事 務 所

三 存 立 時 期

四 出 資 一 口 ノ 金 額

五 出 資 ノ 總 口 數

六 拂 込 ミ タ ル 出 資 ノ 總 額

第二章 出資及積立金

第十一條 出資一口ノ金額ハ金千圓トス

第十二條 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金三百圓トス

第十三條 第一回後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂

込ニ充ツルモノノ外出資一口ニ付金百圓以內ニ於テ其ノ

拂込金額及期日ヲ定ム

前項ノ拂込金額及期日ハ理事之ヲ定メ一箇月前ニ所屬聯

合會及所屬組合ニ通知スルモノトス

第十四條 出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付拂

込ムヘキ金額ノ千分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴收ス

第十五條 本會ハ出資總額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金

ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス

第十六條 加入金、増口金、過怠金及拂戻ヲ爲ササル持分

ハ之ヲ準備金ニ組入ルルモノトス

第十七條 本會ハ剩餘金ヨリ別途積立金及役職員退職給與

有限責任大日本生絲販賣組合聯合會定款

六月三十日ニ取纏メ其ノ後二週間以內ニ之ヲ爲ス

第七條 產業組合法第四十條第二項ニ依ル公告ハ本會ノ揭示場ニ揭示シ且官報、中外商業新報及產業組合中央會ノ發行スル會報ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 本會ハ生絲販賣事業ヲ行フ產業組合聯合會及產業組合ヲ以テ之ヲ構成ス

第九條 本會ノ財産ニ對スル所屬聯合會及所屬組合ノ持分ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

一 出資金ニ對シテハ出資額ニ應シ之ヲ算定ス

二 準備金ニ對シテハ剩餘金ヲ生シタル事業年度内ニ於テ本會ニ支拂ヒタル販賣歩合金ニ應シ年度毎ニ算定

加算ス

三 其他ノ財産ニ對シテハ本會解散當時ノ所屬聯合會及所屬組合ニ限リ持分ヲ有シ其ノ權利ハ拂込濟出資額

ニ應スルモノトス

本會財産力出資額ヨリ減少シタルトキハ出資額ニ應シ持分ヲ算定ス

第十條 所屬聯合會及所屬組合ハ左ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ本會ニ通知スルコトヲ要ス但シ第五號及第六號ノ事項ハ每事業年度末毎ニ之ヲ報告スヘシ

積立金ヲ積立ツルコトヲ得
役職員退職給與積立金ハ役職員退職給與積立金支給規程ニ依リ處分スルモノトス
役職員退職給與積立金ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム
第十八條 準備金ハ損失填補ニ充ツルモノトス
第十九條 別途積立金ハ販賣生絲力不可抗力ニ依ル災害ノ爲多額ノ損害アリタル場合ニ於テ之ヲ力填補ニ充ツルノ外
第五十五條ニ依リ損失填補ニ充ツルモノトス
第二十條 準備金別途積立金及役職員退職給與積立金ハ產業組合中央金庫ニ又ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行ニ預ケ入レ又ハ之ヲ以テ產業債券、國債證券、地方債證券、貯蓄債券、勸業債券、日本興業銀行ノ債券、北海道拓殖銀行ノ債券若ハ農工債券其ノ他總會ノ決議ヲ經タル社債券ヲ買入ルルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ總會ノ承認ヲ經テ事業資金ニ融通スルコトヲ得

第三章 機 關

第二十一條 本會ニ理事十三名監事五名ヲ置ク

理事ハ會長一名、副會長二名、常務理事一名ヲ互選ス

會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ副會長ノ互選ニ依リ其ノ代理者一名ヲ定ム

會長副會長共ニ事故アルトキハ常務理事之ニ代リ會長副會長及常務理事共ニ事故アルトキハ理事ノ互選ニ依リ其ノ代理者一名ヲ定ム

常務理事ハ會長副會長ヲ補佐シ會務ヲ掌理ス

第二十二條 理事ノ任期ハ三箇年、監事ノ任期ハ二箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

會長副會長及常務理事ノ任期ハ理事ノ任期ニ從フ補闕選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事及監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十三條 辭任其ノ他ノ事由ニ依リ理事又ハ監事ニ關員ヲ生シタルトキハ通常總會ノ時期ヲ猶豫スルコト能ハサル場合ニ限り臨時總會ヲ召集シ補闕選舉ヲ爲スモノトス

總會カ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其ノ補闕選舉ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 理事及監事ニハ總會ノ決議ニ依リ報酬、手當又ハ賞與ヲ支給スルコトヲ得

理事及監事ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第二十五條 通常總會ハ毎年一回七月又ハ八月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

- 一 理事カ必要ト認メタルトキ
- 二 監事カ産業組合法第三十四條ニ依リ必要ト認メタルトキ
- 三 理事闕ケタルトキ
- 四 産業組合法第二十三條ニ依リ總會召集ノ請求アリタルトキ

第二十六條 總會ノ召集ハ少クトモ二週間前ニ書面ヲ以テ所屬聯合會及所屬組合ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ召集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十七條 所屬聯合會及所屬組合ハ總會ニ出席セシムル爲代表者一名ヲ定メ之ヲ本會ニ届出ツルコトヲ要ス其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十八條 總會ハ所屬聯合會及所屬組合ノ代表者半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス總會ノ決議ハ出席シタル代表者ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

理事若ハ監事ノ選任又ハ解任、定款ノ變更、所屬聯合會又ハ所屬組合ノ除名、解散及合併ノ決議ハ所屬聯合會及所屬組合ノ代表者半數以上出席シ其ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

總會ニ於テハ急速輕微ノ事項ニ限り豫メ通知ナキモノトス

第三十四條 本會ニ主事、主事補及書記若干名ヲ置キ會長之ヲ任免ス

主事ハ理事及監事ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理シ主事補及書記ハ理事、監事及主事ノ指揮ヲ承ケ會務ニ從事ス

第三十五條 本會ニ技師及技手若干名ヲ置キ會長之ヲ任免ス

技師及技手ハ理事及監事ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四章 事業ノ執行

第三十六條 本會ノ事業年度ハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ニ終ル

第三十七條 本會ニ於テ取扱フ物品ハ生絲トス

第三十八條 本會ニ於テ爲ス加工ノ種類左ノ如シ

- 一 生絲ノ場返シ
- 二 生絲ノ束裝又ハ荷造

第三十九條 所屬聯合會及所屬組合ハ理事ノ承諾ヲ經ルニ非レハ生絲ヲ他ニ賣却スルコトヲ得ス

第四十條 本會ハ適宜ノ時期ニ於テ所屬聯合會及所屬組合ニ對シ其ノ賣却スル生絲ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 本會ニ對スル所屬聯合會及所屬組合ヨリノ生絲ノ出荷ニ對シテハ本會ノ指示ニ從フコトヲ要ス

雖其ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 總會ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ副會長ノ一人之ニ當リ會長副會長共ニ事故アルトキハ理事ノ互選ニ依ル

監事ノ召集シタル總會ノ議長ハ總會ヲ召集シタル監事之ニ當ル其ノ多數ナル場合ニ於テハ其ノ互選ニ依ル

總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 總會ニ出席スル所屬聯合會及所屬組合ノ代表者ハ三名以上ヲ代理シテ決議權ヲ行フコトヲ得ス

第三十一條 總會ニ於テハ決議錄ヲ作り開會ノ日時、場所、會議ノ頭未及出席者ノ員數ヲ記載スルコトヲ要ス

決議錄ニハ議長及議長ノ指名シタル出席者二名以上之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第三十二條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第三十三條 本會ニ顧問及相談役ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總會ノ推薦ヲ經テ會長之ヲ囑託シ本會ノ事業ヲ援助ス

相談役ハ理事之ヲ推薦シ理事ノ諮問ニ答ヘ又ハ本會ノ事業ニ付キ理事ニ意見ヲ開陳スルモノトス

主要關係團體定款並諸規程

前項ノ出荷ニ付荷造費及運賃等ハ所屬聯合會及所屬組合ノ負擔トス

第四十二條 本會カ所屬聯合會及所屬組合ヨリ生絲ヲ受取リタル時ハ品等及數量ヲ査定シ理事之ヲ所屬聯合會及所屬組合ニ通知スルモノトス本會ニ於テ加工ヲ爲シタル場合加工後ノ生絲ニ付亦同シ
品等査定ノ方法標準及各等間ノ格差ハ豫メ總會ニ於テ之ヲ定ム

第四十三條 所屬聯合會及所屬組合ハ其ノ販賣生絲ニ付加工ノ方法、代價又ハ販賣ノ時期ヲ指定スルコトヲ得ス
第四十四條 所屬聯合會及所屬組合ハ本會ニ生絲ヲ引渡シタル後ハ何時ニテモ代金ノ假渡ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ額ハ時價ノ十分ノ八以内ニテ理事之ヲ定ム
前項ノ假渡金ニ對シテハ百圓ニ付日歩三錢以内ニ於テ理事ノ定メタル利息ヲ支拂フコトヲ要ス

第四十五條 所屬聯合會及所屬組合ニ配分スヘキ生絲代金ノ計算期ハ毎年總會ニ於テ之ヲ定ム
毎計算期間中ニ販賣シタル生絲ノ代金ハ毎計算期末各品等ニ付第四十二條ノ規定ニ依リ總會ニ於テ定メタル格差ヲ附シ之ヲ計算シ所屬聯合會及所屬組合カ委託シタル生絲ノ數量ニ應シテ之ヲ配分スルモノトス但シ計算期間中

前二項ノ配當ハ十圓未満ノ金額ニ對シテハ之ヲ爲ササルモノトス

定ム

第五十條 本會ニ於テ取扱フ生絲ハ品等ニ應シ各別ニ東裝、荷造ヲ爲シ本會ノ商標ヲ附シ販賣スルモノトス但一定數量以上ヲ出荷シ又ハ特種ノ取引アル所屬聯合會又ハ所屬組合ノ生絲ニ付テハ其商標毎ニ各別ニ之ヲ販賣スルコトアルヘシ

第五十一條 本會ニ餘裕金アルトキハ産業組合中央金庫ニ又ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行ニ之ヲ預入ルルモノトス

第五十二條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第五章 剩餘金處分並損失填補

第五十三條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツヘキ金額ヲ控除シ仍殘餘アルトキハ別途積立金、配當金、特別配當金、役員賞與金、役員退職給與積立金又ハ繰越金ト爲スモノトス

第五十四條 剩餘金ノ配當ハ其ノ剩餘金ヲ生シタル年度ノ終リニ於ケル所屬聯合會及所屬組合ノ拂込濟出資額ニ應シ其ノ率ハ年六分以下トス

剩餘金ノ特別配當ハ其ノ剩餘金ヲ生シタル事業年度内ニ於テ所屬聯合會及所屬組合カ本會ヲ通シ賣却シタル生絲ノ價額ニ應スルモノトス

有限責任大日本生絲販賣組合聯合會定款

ト雖代金ノ假配分ヲ爲スコトアルヘシ假配分ニ付テハ利息ハ之ヲ徴セス

第五十條 但書ノ場合ニ於テハ計算期間中ト雖代金ノ配分ヲ爲スモノトス
假渡ヲ受ケタル所屬聯合會及所屬組合ニ付テハ前項ノ場合ニ差引計算ヲ爲スモノトス

第四十六條 販賣代金ノ一計算期間中ニ受取リタル生絲ニシテ其ノ期間中ニ賣却スルコト能ハサリシモノニ付テハ其ノ後ニ賣却シタル同品等ノ代金中ヨリ先ツ其ノ代金ヲ配分スルモノトス

第四十七條 生絲検査ニ依リ生スル「デニール」絲及其他ノ殘絲ノ販賣代金ハ所屬聯合會及所屬組合ヨリ受入タル生絲ノ數量ニ應シ配分スルモノトス

第四十八條 本會ハ所屬聯合會及所屬組合ニ拂渡スヘキ代金ノ千分ノ七以内ニ於テ理事ノ定メタル歩合金ヲ徴シ代金配分ノトキ之ヲ差引クモノトス

第四十九條 委託生絲中本會ニ於テ揚返シ、東裝、荷造、其他特種ノ勞費ヲ要シタルモノニ付テハ別ニ手数料ヲ徴シ代金配分ノトキ之ヲ差引クモノトス生絲ノ運賃又ハ保險料等ノ立替金ニ付亦同シ
前項ノ手数料ハ總會ノ決議シタル範圍内ニ於テ理事之ヲ

前二項ノ配當ハ十圓未満ノ金額ニ對シテハ之ヲ爲ササルモノトス

第五十五條 損失ノ補填ハ準備金ヲ以テシ次ニ別途積立金ヲ以テス

第六章 加入、増口及脱退

第五十六條 本會ニ加入セムトスルトキハ申込書ニ加入金一圓及左ニ掲クル書類ヲ添付シテ理事ニ差出スコトヲ要ス但シ第一年度ニ於テハ加入金ヲ徴セス

一 定款ノ謄本
二 最近作製シタル貸借對照表及最近年度ノ事業報告書
三 最近三箇年間ニ於ケル輸出向生絲販賣高種類別數量

(格、色、織度別斤數及相數)、販賣委託先(問屋)別數量及賣込手数料(割戻ヲ差引タル正味)、一箇年中ニ於ケル資金借入先別金額及利率並ニ借入最高時期及其ノ時期ニ於ケル借入先別金額

四 産業組合法第七十八條ノ規定ニ依リ總會又ハ總會ノ決議ノ謄本
申込書ニハ設立許可ノ年月日並理事ノ氏名、住所ヲ附記スルコトヲ要ス

理事加入ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨申込者ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後所屬聯合會及所屬

組合名簿ニ記載スルコトヲ要ス
 加入ノ效力ハ第五十八條ノ場合ヲ除クノ外出資第一回ノ拂込ト同時ニ發生スルモノトス
 第五十七條 所屬聯合會及所屬組合カ出資ノ増口ヲ爲サムトスルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ前條第一項第一號乃至第四號ノ書類及同條第二項ノ附記ニ付テハ此限ニ在ラス
 前項ノ増口金ハ前條ノ加入金ト同額トス
 第五十八條 持分ヲ讓渡セムトスル場合ニ於テハ理事ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス
 持分ヲ讓受ケムトスル者カ所屬聯合會又ハ所屬組合ニ非サルトキハ出資ノ拂込ヲ爲サシメサルノ外第五十六條ノ規定ヲ準用ス
 第五十九條 所屬聯合會及所屬組合カ脱退セムトスルトキハ其ノ事業年度末十箇月前ニ其ノ旨理事ニ豫告スルコトヲ要ス
 第六十條 所屬聯合會及所屬組合ハ左ノ事由ノ一ニ當ルトキハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ除名ス
 一 出資ノ拂込又ハ過怠金ノ納付ヲ怠リ二箇月内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキ
 二 第三十九條ノ規定ニ違反シテ生絲ヲ賣却シタルトキ

三 本會ノ事業ヲ妨クル行爲アリタルトキ
 四 信用ヲ失ヒタルトキ
 第六十一條 所屬聯合會及所屬組合脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込濟出資額ノ半額ニ止ムルモノトス但シ除名ニ依ル場合ニ於テハ其ノ拂込濟出資額ノ四分ノ一ヲ解散、所屬聯合會及所屬組合タル資格ノ喪失其ノ他總會ニ於テ止ムコトヲ得サルモノト認メタル事由ニ依ル場合ニ於テハ其ノ拂込濟出資額ヲ拂戻スモノトス
 第七章 解 散
 第六十二條 本會解散シタルトキハ理事其ノ清算人トナル但シ總會ノ決議ニヨリ所屬聯合會及所屬組合ノ理事中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得
 第八章 附 則
 第六十三條 本會設立當時ノ理事及監事ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回通常總會ニ於テ之ヲ改選ス
 第一章 總 則
 第一條 本會ハ蠶絲ニ關スル學術ノ進歩普及ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第二條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

社團 日本蠶絲學會定款

一、學術講演會ノ開催
 二、會報ノ發行
 三、學術研究業績ノ表彰
 四、其ノ他本會ノ目的達成ニ必要ナル事業
 第三條 本會ハ社團法人日本蠶絲學會ト稱ス
 第四條 本會ノ事務所ハ之ヲ東京市赤坂區溜池町一番地(三會堂内)ニ置ク
 第五條 本定款ノ變更ハ總會ニ於テ決議ノ上主務官廳ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ事務所ノ位置ヲ東京府内ニ於テ變更スル場合ニ限り評議員會ノ決議ニ依ルコトヲ得
 第六條 本定款ノ施行ニ必要ナル細則ハ評議員會ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム
 第二章 會 員
 第七條 蠶絲ニ關シ學識又ハ經驗ヲ有スル者其ノ他本會ノ趣旨ヲ賛成スル者ハ本會々員タルコトヲ得
 第八條 入會セムトスル者ハ住所、氏名及職業ヲ記シ會費一ヶ年分以上ヲ添ヘテ本會ニ申込ムヘシ
 第九條 退會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ通知スヘシ此ノ場合會費ニ未納アルトキ之ヲ完納スルコトヲ要ス
 第十條 會員ハ會費トシテ一ヶ年金參圓ヲ前納スヘシ既納ノ會費ハ之ヲ返付セス

第十一條 會員ニシテ本會ノ定款ヲ遵守セス又ハ本會ノ名譽ヲ毀損スル行爲アリタルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ除名スルコトアルヘシ
 第三章 總會及評議員會
 第十二條 總會ハ通常總會及臨時總會ノ二種トシ會長之ヲ招集ス
 通常總會ハ毎年一回春期之ヲ開ク
 臨時總會ハ會長若クハ評議員會ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ監事若クハ會員五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求アリタルトキ之ヲ開ク
 第十三條 總會ノ招集ハ少クモ會期二週間前ニ會議ノ目的、場所及日時ヲ明示シ書面若クハ會報ヲ以テ之ヲ通知ス
 第十四條 總會ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ會長、副會長共ニ事故アルトキハ出席會員中ヨリ出席會員之ヲ選舉ス
 第十五條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ定款變更ノ決議ハ出席シタル會員三分ノ二以上、解散ノ決議ハ會員ノ三分ノ二以上出席シ其ノ出席會員四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

主要關係團體定款並諸規程

二五二

總會ニ出席セサル會員ハ書面ニ依リ又ハ本會々員ニ其權限ヲ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ得

第十六條 評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ役員ノ選舉ヲ爲シ經費ノ豫算、決算其他重要ナル事項ヲ議決ス

第十七條 評議員ハ其ノ定員ヲ三十名トシ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉ス

評議員ノ任期ハ二年トシ毎年其ノ半數ヲ改選ス

第十八條 評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ次ノ總會ニ於テ補缺選舉ヲ行フ

補選セラレタル評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十九條 評議員會ハ必要ニ依リ會長之ヲ招集ス

會長ハ監事又ハ評議員十名以上ヨリ請求アリタルトキハ遲滞ナク評議員會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二十條 第十四條及第十五條ノ規定ハ評議員會ニ準用ス

第二十一條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名
副會長 二名
理事 九名
監事 二名
會長、副會長ハ理事ヲ以テ之ニ充ツ

第二十八條 基本財産ハ評議員會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ出資シ又ハ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第二十九條 資産管理ニ關スル規定ハ評議員會ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第六章 會計

第三十條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十一條 本會ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入、會費、寄附金及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第三十二條 本會ノ收支ハ豫算ヲ以テ毎年度開始前評議員會ノ決議ヲ經ヘシ

第三十三條 前年度收支決算ハ年度末貸借對照表及財産目錄ト俱ニ監事ノ監査ヲ經テ總會ニ報告シ其ノ承認ヲ受ク

ハシ

附則

第三十四條 本會設立當時ノ評議員及役員ハ設立者之ヲ指名ス

第三十五條 本會設立當時ノ評議員及會長、副會長ニ非サル理事並監事ノ半數ハ抽籤ニヨリ昭和六年春期ニ之ヲ改選シ他ノ半數及會長、副會長ハ昭和七年春期ニ之ヲ改選ス

社團法人日本蠶絲學會定款

二五三

第二十二條 役員ハ會員中ヨリ評議員會ニ於テ之ヲ選舉ス

役員ノ任期ハ二年トシ會長、副會長ハ引續キ選任スルコトヲ得ス會長、副會長ニ非サル理事及監事ハ毎年其ノ半數ヲ改選ス

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スルニ至ル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

補選セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十三條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

會長、副會長ニ非サル理事ハ會務ヲ分掌ス

第二十四條 會長ハ前年度事業概要其ノ他必要ト認ムル事項ヲ總會ニ報告スヘシ

第二十五條 會長ニ於テ總會ニ提出スヘキ事項ハ評議員會ノ決議ヲ經ヘシ

第二十六條 監事ノ職務ハ民法ノ規定ニ依ル

第二十七條 左ノ資産ハ之ヲ基本財産トス

一、基本財産ニ編入ノ指定ヲ以テセラレタル寄附金

二、寄附金、剩餘金其ノ他ノ收入ニシテ評議員會ニ於テ基本財産ニ編入スルコトヲ決議シタルモノ

九 參考法規其ノ他參考事項

農林省官制抄

大正十四年三月三十一日勅令第六號
改正 昭和二年五月勅令第一二三號

第一條 農林大臣ハ農、林、水産、畜産及米穀法施行ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 農林省ニ左ノ五局ヲ置ク

- 農務局
- 山林局
- 水産局
- 畜産局
- 蠶絲局

第六條ノ二 蠶絲局ニ於テハ蠶絲ニ關スル事務ヲ掌ル

農林省分課規程抄

大正十四年四月一日農文第五號通牒
改正 昭和二年五月

第二十七條 蠶絲局ニ繭絲課及蠶業課ヲ置ク

第二十八條 繭絲課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 輸出生絲検査法ノ施行ニ關スル事項
- 二 生絲ニ關スル業務ノ改良、取締及調査ニ關スル事項
- 三 乾繭取引ノ獎勵ニ關スル事項
- 四 蠶絲業ノ團體ニ關スル事項
- 五 生絲検査所及地方生絲検査所ニ關スル事項
- 六 他課ノ主管ニ屬セザル事項

第二十九條 蠶業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 桑園ノ改良及増殖ニ關スル事項
- 二 原蠶種ノ改良整理ニ關スル事項
- 三 蠶病ノ豫防ニ關スル事項
- 四 蠶及繭ニ關スル業務ノ改良、取締及調査ニ關スル事項
- 五 栽桑、蠶種製造、養蠶又ハ桑苗、蠶種、繭ノ賣買、仲立若ハ保管ヲ業トスル者ノ團體ニ關スル事項
- 六 蠶業試験場及地方蠶業試験場ニ關スル事項

蠶絲委員會規則

內規 昭和二年五月二十七日決裁
昭和五年三月三十一日廢止

第一條 蠶絲業ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲農林省

內ニ蠶絲委員會ヲ置ク

第二條 蠶絲委員會ハ會長一名及委員三十名以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ左ニ掲ル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 農林省高等官中ヨリ農林大臣ノ命シタルモノ
- 二 關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ農林大臣ノ囑託シタルモノ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 蠶絲委員會ニ幹事若干名ヲ置キ關係各廳高等官中

ヨリ農林大臣之ヲ命シ又ハ囑託ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

蠶絲委員會規則 場所長委任事務規程

第六條 蠶絲委員會ニ書記若干名ヲ置キ農林省判任官中ヨリ農林大臣之ヲ命ズ

書記ハ會長及幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

場所長委任事務規程

大正八年九月二十六日文第一二五六號
全部改正 大正十四年四月農文第四號
改正 大正十五年五月文第二二二號
改正 昭和二年十一月文第五五〇號
改正 昭和四年四月文第一七七號

第一條 本規程ニ於テ場所長ト稱スルハ農事試驗場長、蠶業試驗場長、生絲検査所長、茶業試驗場長、園藝試驗場長、林業試驗場長、水産講習所長、水産試驗場長、畜産試驗場長、獸疫調査所長、種羊場長、種馬牧場長、種馬育成所長、種馬所長及種鶏場長トス

第二條 場所長ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ掲クル事項ヲ專行處理スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 委託試驗ニ關スル件
- 二 講習生、練習生又ハ見習生ニ關スル件
- 三 月俸又ハ日給三十日分八十五圓ヲ超エサル雇員ノ命免及賞與ニ關スル件

參考法規其ノ他參考事項

- 四 守衛、給仕、小使及常備人ノ傭罷及賞與ニ關スル件
- 五 十四日以内ノ内國出張及場所員ノ内國出張ニ關スル件
- 六 場所員ノ看護歸省、墓參、除服出仕、轉地療養、旅行願及受験願ニ關スル件
- 七 場所員ノ大正十一年閣令第六號ノ規定ニ依ル休暇ニ關スル件
- 八 療治料又ハ死傷手當等ノ給與ニ關スル件
- 九 五千圓ヲ超エサル工事、印刷物ノ調製、物件ノ賣買、貸借、運搬又ハ職工人夫ノ雇傭ニ關スル件
- 十 會計規則第百十五條及第百十六條ニ依ル隨意契約締結ニ關スル件
- 十一 工事及物件ノ賣買、貸借ニ關シ何濟ノ範圍内ニ於テ豫定價格指定ニ關スル件
- 十二 工事ノ竣功延期及物品納入延期ニ關スル件
- 十三 千圓ヲ超エサル翻譯料、保管料、手数料及謝金等ノ處理ニ關スル件
- 十四 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等五百圓以内ノ處理ニ關スル件
- 十五 價格五百圓以内ノ物品ノ亡失又ハ毀損ニ關スル件
但シ故意又ハ怠慢ニ因ルモノヲ除ク

二五六

- 十六 本省及本省所管各廳トノ間ニ於ケル物品ノ保管轉換ニ關スル件
- 十七 公共團體、學校又ハ展覽會等ニ參考品ノ貸與及出陳ニ關スル件
- 十八 圖書、印刷物又ハ標本等ノ配付及著作権ノ登録等ニ關スル件
- 第三條 場所長事故アルトキハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代決セシムルコトヲ得
- 第四條 場所長ハ主管ノ業務ニ關シ旅費ヲ負擔シ場所員ノ主張ヲ請フモノアルトキハ之ヲ許否スルコトヲ得
- 第五條 場所長ハ其專行事項ノ一部ヲ支場長、分場長又ハ出張所其ノ他之ニ準スヘキモノノ主任ニ委任スルコトヲ得

間接國稅犯則者處分法

明治三十三年三月十七日法律第六七號
改正 明治三十七年四月法律第一號
改正 明治四十一年三月法律第八號

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證據ヲ携帯スヘシ

第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ
前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所有

間接國稅犯則者處分法

者又ハ所持者ハ其ノ差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徴シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラズ許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十一條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅

務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス
稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署
收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタルトキハ各
發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所
轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差
押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區
域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅
務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問
又ハ差押ヲ爲スニ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス
稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要
トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ
得

第十三條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ
稅務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發ス
ヘシ

- 一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ
- 二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ
- 三 證憑湮滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ
犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒
ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アル
トキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ
前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ル
トキハ保管證ヲ以テ引繼ク爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管
者ニ通知スヘシ

第十九條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サル
トキハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキ
ハ之ヲ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所
ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町
村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用
ス

間接國稅犯則者處分法施行規則

明治三十三年三月二十三日勅令第五二號
改正 大正三年七月勅令第一五三號
改正 大正十五年三月勅令第四〇號

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ
間接國稅犯則者處分法施行規則

得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル
金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及
書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定
ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當ス
ル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スル
コトヲ得

犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前
項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中
斷ス

第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ
付訴ヲ受クルコトナシ
第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ
履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スル
トキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義
務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコ
トヲ得ス

第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履
行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七
日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラ
ス

左ノ國稅トス

- 一 酒造稅
 - 二 酒精及酒精含有飲料稅
 - 三 出港稅
 - 四 麥酒稅
 - 五 醬油稅(自家用醬油稅トモ)
 - 六 砂糖消費稅
 - 七 賣藥稅
 - 八 印紙稅
 - 九 骨牌稅
 - 十 織物消費稅
 - 十一 取引稅
 - 十二 清涼飲料稅
- 第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ
於テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキ
ハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニ
スヘシ
- 第三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名
稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏
名ヲ記載スヘシ
- 第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ

於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル願末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添附シ之

シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

工場法

明治四十四年三月二十八日法律第四六號

改正 大正十二年三月法律第三三號

改正 昭和四年三月法律第二一號

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

- 一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ
- 二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

工場法

チ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第十四條 本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附 則
本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制

明治三十三年三月十三日法律第五二號

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定

第二條 罰 則
第三條 工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十

一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 削 除

第六條 削 除

第七條 工業主ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ

一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就

業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亘ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限リ行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以上延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建築物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證據ヲ携帶スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上ノ傷シ、疾疾ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工場法

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、檢査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害物品又ハ爆發性、發火性若ハ引火性ノ物品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建築物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ヲキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故チ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故チ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第三條、第四條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得但シ第三條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ適用後二年以内同條ノ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ

之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

工場法施行令

大正五年八月二日勅令第一九三號
改正 大正十一年十一月勅令第四七一號
改正 大正十五年六月勅令第一五三號
改正 昭和四年六月勅令第二〇二號

第一章 通 則

第一條 左ニ掲グル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ穀ノ製造
 - 二 行李、籠、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、竹ノ皮、經木、蔓、莖又ハ藁ノ手工品ノ製造
 - 三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製
 - 四 「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製
 - 五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造
 - 六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造
 - 七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造
 - 八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
 - 九 手工ニ依ル組紐ノ編製
 - 一〇 刺繡、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローン」ウオーク」ノ業
- 第二條 鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス
- 第三條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス
- 一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
 - 二 動物ノ剥製
 - 三 水銀ヲ用フル計器ノ製造

工場法施行令

- 四 水銀唧筒ヲ用フル魔法鏡ノ製造
- 五 鉛ヲ用フル鍍ノ製造
- 六 珐瑯鐵器又ハ珐瑯藥ノ製造
- 七 塗料、顏料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
- 八 亞硫酸瓦斯、「クロー」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
- 九 硫黃ノ精製
- 一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
- 一一 「フアクチス」ノ製造
- 一二 脂肪油ノ精製
- 一三 「ボイル」油ノ製造
- 一四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
- 一五 溶劑ヲ用フル護膜製品ノ製造
- 一六 溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護膜製品ノ貼合
- 一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 一九 溶劑ヲ用フル野草莖ノ捺染
- 二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭ス)

ルモノヲ除ク)

- 二二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
- 二三 「タンニン」酸ノ製造
- 二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
- 二六 硝化綿ノ製造
- 二七 「コロザウム」ヲ用フル紙摺製品ノ製造
- 二八 「エーテル」ノ製造
- 二九 酒精ノ製造又ハ變性
- 三〇 「グイスコーズ」ノ製造
- 三一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三二 鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 三三 「アスファルト」ノ精製
- 三四 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三五 燐寸ノ製造
- 三六 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 四〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷

六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

- 第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
- 前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ
- 第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ
- 第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得
- 第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

工場法施行令

- 四一 動力ニ依ル製材
- 四二 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)
- 四三 電球ノ製造
- 四四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 四五 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨
- 四六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
- 四七 動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
- 四八 電氣用「カーボン」ノ製造
- 四九 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造
- 五〇 「カーバイト」ノ製造
- 五一 石灰ノ製造
- 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
- 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
- 五四 製綿
- 五五 麻ノ梳解
- 五六 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ縲縷類ノ選別
- 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
- 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
- 五九 毛髮又ハ羽毛ノ精製

一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ

賃金五百四十日分以上

二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ

賃金三百六十日分以上

三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ

賃金百八十日分以上

四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ

賃金四十日分以上

第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分(其ノ金額二十圓ニ滿チサルトキハ二十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス
 配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死
 亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系
 尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト
 親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ
 其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子チ
 先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子
 及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前二號ニ掲グル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ
 年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左
 ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工
 ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲ク
 ル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
- 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ
 在リタル者

始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工
 業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後
 本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ
 本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但
 シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付
 ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ
 限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル
 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷
 又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シ
 タル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スル
 トキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ
 各號ノ金額トス

- 一 職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同
 法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
- 二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テ
 ハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病
 ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ

三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者
 第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業
 扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ
 障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺
 族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘ
 シ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ
 數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號
 ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受
 クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要
 セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ
 ハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
 職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要
 シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲
 スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第
 六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ
 於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若
 ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法
 ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケル職工療養開
 即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締
 切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月
 間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケ
 ル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但
 シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ
 受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十チ下
 ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル
 期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項
 ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期
 間
 - 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業
 シタル期間
 - 三 試ノ雇傭期間
 - 四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間
- 第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラル
 ル手當ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス
 前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ
 賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定
 ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定メナキトキハ地方長官之
 チ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ
地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

第二十一條 工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ

ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 削 除

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル職工業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス
第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲クル期間ハ之ヲ算入セス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期

工場法施行令

之ヲ備付クヘシ
職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ
前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用ケルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト
二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラレル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主

間ハ此ノ限ニ在ラス

二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

- 一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項
- 二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

- 三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項
 - 四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項
 - 五 解雇ニ關スル事項
- 地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒 弟

- 第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
 - 二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト
 - 三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト
 - 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規定ニ依リ收容セララルルコト
- 第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
- 一 徒弟ノ員數
 - 二 徒弟ノ年齡
 - 三 指導者ノ資格
 - 四 教習ノ事項及期間

- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法
- 八 給與ノ方法
- 九 第三十條ノ規定ニ依リ設ケル規程
- 十 徒弟契約ノ條項

- 第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未満ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危険ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ
- 第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲ニ必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ
- 第五章 罰 則
- 第三十三條 工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規

定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 第三十四條 罰 除
- 第三十五條 罰 除
- 第三十六條 罰 除

附 則

- 第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス
- 賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得
- 第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月内ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
- 本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教

工場法施行令

- 科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間内ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス
- 第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ抵觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ
- 第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
- 附則(大正十五年六月勅令第五百十三號)
- 第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二條 從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ
- 第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主カ

參考法規其ノ他參考事項

本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク就學ニ關シ心要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以内ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間内ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

第五條 工場法第九條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連桿、聯桿、器、唧子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
 - 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シテ爲ス業務
 - 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
 - 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
 - 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
 - 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危険豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
 - 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務
- 第六條 工場法第十條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ
- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃燐、硫化燐、チア

工場法施行規則

工場法施行規則

大正五年八月三日農商務省令第十九號
改正 大正十五年六月内務省令第十三號
改正 昭和四年五月内務省令第十六號

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 水素酸、「チアアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務
 - 二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコホル」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
 - 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務
 - 四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務
 - 五 金屬、礦物、土石、骨、角、襍糞、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務
 - 六 砒素、水銀、黃燐、鉛、チアアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クローム」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
 - 七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務
- 第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲グル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス
- 第八條 工業主ハ左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セ

シムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、髓鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病

症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認

ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得

工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムル

疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ

同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與

二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ

契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃

金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間

之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場

外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿

ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條 職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎

ニ之ヲ備置クヘシ

工場法施行規則

コトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコト

ヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ

就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ

就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限リ其ノ生兒

ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業

主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ

病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依リ證票ハ様式第一號

ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周

知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ

各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及

計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述

シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場附屬建設物内ニ於テ負傷シ

前項ノ雇入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ

日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨ

リ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ

賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如

シ

一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトス

ルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出

スヘシ

第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官

ニ届出ツヘシ

一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任

シタルトキ

二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ

三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘ

キ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 削 除

第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於テ

二七七

參考法規其ノ他參考事項

ル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遅滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遅滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 火災又ハ爆發
- 二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂
- 三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂
- 四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損
- 五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒塌
- 六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十七條 削 除
附 則

第二十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則(大正十五年六月内務省令第十三號)
本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令(様式第二號)ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス
附則(昭和四年五月内務省令第十六號)
本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十七條第一項ノ工業主ハ本令施行後二年間ハ十六歳未滿ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時迄間延長スルコトヲ得

(様式第一號)

第 號	大 正 年 月 日	交付
社會局又ハ 廳府縣印 官 職 氏 名		
工場法第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ 工場法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス 豎八センチメートル横十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工場臨檢票」ト記ス		

工場法施行規則

(様式第二號)

雜	雇 解	入 雇	履 歴	住 所	男 氏 名		女 氏 名	
					本	籍	本	籍

参考法規其ノ他参考事項

(五)

瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ
死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ日時、生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日數トノ合算日數ヲ記入スヘシ

十二

災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害カ機械又ハ設備ニヨリテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ舉ケテ其ノ顛末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ第二十六條ニ規定セル事故ニ依リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ
動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中
名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ

十三

(一)

(二)

蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等)ヲ記入スヘシ
大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何種、幅何種、厚サ何種等)ヲ記入スヘシ

(三)

災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ

(四)

其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何種、厚サ何種等ヲ記入スヘシ

十四

危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何種ノ真鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル様爲シタル危険部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ

十五

災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

十六

災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

工場災害事故報告

(様式第五號)

工場名		工場所在地		工場主又ハ工場管理人		年 月 日 午前 午後 時 分	
事業ノ種類	職工數	男	女	計	事故發生日時	事故發生場所	計
災害ノ原因及發生狀況	被害者數	性	男	女	死	傷	計
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷	計	其ノ他ノ負傷者ノ計	損害見積金額	況狀設施防豫
被害ノ狀況	被害者數	死	傷</				

參考法規其ノ他參考事項

工場災害事故報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ二通差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設ケルヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依リ員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業室、原料煮熟罐室、鑄込場、脫水作業等)ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セラルル物品ヲ明示シ得ル名稱

稱(例ヘハ棉花倉庫、石油貯藏庫等)ヲ記入ヘシ

災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

(一) 火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル物品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火唧筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

(二)

爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル物品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口徑、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

十二 負傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三 災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ(例ヘハ木造二階建、石造平屋建、木骨亞鉛引鐵板張平屋建等)、坪數(延坪)及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ依ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四 豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消火防火ノ施設(例ヘハ自動撒水裝置、消火唧筒、消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造防火戸等)ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ

十五 避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六 災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其

工場法施行規則

- (三) 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ(直徑、厚サ等)常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- (四) 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分(鎖、索、梁又ハ支柱)ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- (五) 工場、附屬建築物、煙突、高架槽ノ倒壊ノ場合ニ於テハ倒壊ノ直接原因(風、地震等)被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- (六) 五人以上ノ負傷者(職工以外ヲ含ム)ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ從ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- 十一 前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

工場附屬寄宿舎規則

昭和二年四月六日内務省令第二十六號
改正 昭和四年八月内務省令第三十六號

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ附屬スル寄宿舎ニ之ヲ適用ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衛生上ノ害ヲ避ケル爲メ寄宿舎ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スベシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セズ

一 爆發性、發火性若ハ引火性材料又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二 窯爐ヲ使用スル作業場

三 瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命ジ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第三條 寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設ケルコトヲ得ズ但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

用セザルモノニ付テハ之ニ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難ノ用ニ供シ得ル様有效ニ保持スベシ

第四條 寄宿舎ノ廊下ヨリ屋外ニ通ズル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ

寄宿舎ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル様ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條 寢室、食堂、病室其ノ他職工(徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ)ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セザル様天井ヲ設ケベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 寢室及病室ノ外窓ニハ少クとも雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設ケベシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同シ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設ケル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窓ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設ケベシ

第八條 食堂及炊事場ノ床ハ土間(石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マズ)ト爲スコトヲ得ズ

工場附屬寄宿舎規則

第九條 寢室ハ收容人員一人ニ付室面積(押入及床ノ間ヲ除ク)〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラ

ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條ノ二 常時十五人以上ノ職工ガ二階以上ノ寢室ニ居住スル建物ニ在リテハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設ケベシ但シ二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人ニ滿チザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル避難斜面其ノ他適當ナル避難設備アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ建物ノ外壁ニ附セラレタル屋外階段ニ付テハ第五號及第八號ノ規定ヲ適用セズ

一 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト

三 高さ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高さ十二尺以内毎ニ踊場ヲ設ケルコト

四 踊場ハ長さ三尺五寸以上トナスコト

五 蹴込板又ハ裏板ヲ附スルコト

六 廻段ヲ設ケザルコト

七 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設ケルコト

八 幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

九 各段ヨリ高さ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト

前二項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタル建物ニシテ地方長官已ムコトヲ得ズト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セズ

第三條ノ三 階段並之ト連絡スル通路及出口ニシテ常時使

第十條 寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ掲グベシ

第十一條 交替就業ノ爲メ就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ズ但シ十六歳未滿ノ者及女子ヲ收容セザルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 寄宿舎ニハ職工毎ニ専用セシムル爲メ必要ナル寢具ヲ備附クベシ

寢具ハ少クとも其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フベシ

寢具ハ常ニ清潔ニ保チ時時之ヲ日光ニ曝シ且其白布及敷布ハ時々之ヲ洗濯スベシ

第十三條 食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備附クベシ

第十四條 寄宿舎ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ時時消毒スベシ

第十五條 寄宿舎ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條 寄宿舎ニ收容スル職工及寄宿舎ニ使用スル者ニ對シテハ少クとも一年ニ一回健康診斷ヲ施行スベシ

前項ノ健康診斷ニ關スル記録ハ其ノ施行後三年間之ヲ保

存スベシ
 第十七條 寄宿舎ニハ液體チ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スベシ
 唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非ザレバ之ヲ投棄スルコトヲ得ズ
 寄宿舎ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ吐出スルコトヲ得ズ
 第十八條 寄宿舎ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ズ
 「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ズ
 手洗水ハ流出装置ト爲スベシ

第十九條 工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號(流行性腦脊髄膜炎ヲ除ク)ノ患者ノ使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非ザレバ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同シ
 前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルベシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水(防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分)ヲ使用スベシ
 第二十條 寄宿舎ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所及洗面装置ヲ設クベシ
 地方長官前項ノ便所又ハ洗面装置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ増設ヲ命ズルコトヲ得
 第二十一條 寄宿舎ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

工場危害豫防及衛生規則

昭和四年六月二十日內務省令第二十四號

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
 第二十二條 本令並寄宿舎ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ
 第二十三條 本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第十六條ノ規定ハ當時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舎ニ之ヲ適用セズ
 附 則
 本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條、第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ
 第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ之ヲ爲スベシ
 附 則 (昭和四年八月內務省令第三十六號)
 本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第三條ノ二ノ規定ハ本令施行後二年間之ヲ適用セズ

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ之ヲ適用ス
 第二條 原動機及動力傳導裝置ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ被覆ヲ設クベシ
 第三條 動力傳導裝置ノ調帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使

用スルコトヲ得ズ但シ露出面ガ弧面ヲ爲シ危險ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ハ適當ナル柵圍若ハ被覆ニ依リ又ハ据付位置ノ關係上接觸ノ虞ナク且運轉中手ニテ取扱フコトナキ調帶又ハ動力弱小若ハ速度緩ニシテ危險ナキ調帶ニ付テハ之ヲ適用セズ
 第四條 動力傳導裝置ノ車軸接手、車軸留輪、聯軸器、諸車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セツトスクリュー」「ボールト」「ナット」及楔類ノ頭部ハ突出セザルモノヲ用フルコトヲ要ス但シ露出面ガ弧面ヲ爲シ危險ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ又ハ作業(掃除、注油、検査、修繕等ヲ含ム)若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第五條 遊車ヲ使用スルモノニ在リテハ遷帶裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムテ得ザルモノ又ハ危險ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ遷帶裝置ニハ調帶ガ不意ニ固定車ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スベシ
 第六條 調車ト隣接車輪、軸承、車軸接手等トノ間隔狭小ニシテ其ノ間ニ調帶ガ脱落シ危害ヲ生ズル虞アル場合又ハ車軸ノ運轉中調帶ヲ調車ヨリ時々取外シ置ク場合ニハ

適當ナル調帶受テ設クベシ
 第七條 注油ノ爲接近スルコト危險ナル動力傳導裝置ニハ安全ナル給油裝置ヲ設クベシ
 第八條 作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速ニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設クベシ但シ作業場所ヨリ原動機据付場所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ常置セル原動機室ニ通ズル應急停止ノ信號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第九條 原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工(徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ周知セシムル爲豫メ一定ノ合圖ヲ爲スベシ
 原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ掃除、注油、検査、修繕等ヲ爲シツツアル際他人ガ之ヲ運轉シ危害ヲ生ズル虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル裝置又ハ處置ヲ爲スベシ
 第十條 動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ已ムテ得ザル場合ヲ除クノ外柵圍、被覆其ノ他適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ
 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ廻轉ガ停止スルニ非ザレバ開クコト能ハザル裝置トナスベシ
 一 綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノ「ファン ドーア」

打綿機ノ「ピーター」カバー」及「ダートドア」梳綿機ノ「シリンドラー」ノ「フロント プレート」(但シ眞空掃除器ヲ使用スルモノヲ除ク)、練條機若ハ粗紡機ノ「ヘッド ストック」ノ「ギヤリング カバー」絹絲紡績機械ニ於ケル切綿機ノ「シリンドラー カバー」

三 其ノ他前二號ニ準ズベキモノ

第十二條 動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉ヲ停止シ得ル裝置ヲ設クベシ但シ連續セル一團ノ機械ニシテ共通ノ動力遮斷裝置ヲ有スルモノ又ハ危険ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 粘性物質ヲ煉捏スル「ローラー」ニシテ危害ヲ生ズル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者ガ直ニ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設クベシ

第十四條 運轉中ノ原動機、動力傳導裝置若ハ動力ニ依リ運轉スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ作業ニ從事スル爲頭髮又ハ被服力之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子又ハ作業服ヲ着用セシムベシ

職工ハ作業中前項ノ帽子又ハ作業服ヲ着用スルコトヲ要ス

第十五條 物品ノ揚卸口、槽、車軸道、階段其ノ他從業者

コトヲ得ズ但シ安全燈、電燈其ノ他危険ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場所ニハ喫煙其ノ他不必要ナル火氣使用禁止ノ旨ヲ揭示スベシ

第二十二條 油又ハ印刷用インキ類ニ依リ浸染シタル襪、紙屑等ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他適當ナル處理ヲ爲スベシ

第二十三條 爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ常時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナル二以上ノ出口ヲ設クベシ
常時十人以上ノ職工ガ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ
二階以上ニ於テ就業スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

(二) 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト

(三) 高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

ノ墜落シ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ柵圍、扶欄、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムテ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 作業用可搬梯子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ但シ床面其ノ他ノ關係上危険ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムテ得ザル場合ニ於テ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ同シ)ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 危険ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第十九條 職工ハ濫リニ危害豫防裝置ヲ取外シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條 地方長官ハ爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業場、貯藏倉庫、置場、貯槽類又ハ容器ニ付危害豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造、取扱若ハ貯藏ヲ爲ス場所、瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危険著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發センムル

(四) 幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

(五) 廻段ヲ設ケザルコト

(六) 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

(七) 各段ヨリ高サ五尺七寸以内ニ障礙物ナキコト

作業ノ性質、建設物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ付已ムテ得ザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ火災等ノ場合ニ於ケル避難ノ爲作業場ノ通路階段及出口ノ設置構造ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ依ル出口、前條ニ依リ設置ヲ命セラレタル出口及此ニ通ズル通路若ハ階段ニシテ常時使用セザルモノニハ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難シ得ル様有效ニ保持スベシ

第二十六條 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所又ハ爆發ノ虞アル場所ニハ之ガ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出密閉其ノ他適當ナル設備ヲナスベシ

第二十七條 左ニ掲グル場所ニハ必要アル者以外ノ者ノ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨揭示スベシ

- 一 爆發性、發火性又ハ引火性料品ノ製造、取扱又ハ貯藏ヲ爲ス場所
 - 二 毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所
 - 三 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所
 - 四 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所
- 前項ニ依リ禁止セラレタル場所ニハ職工ハ濫リニ立入ルコトヲ得ズ
- 地方長官ハ第一項ノ場所ニ於ケル作業ニ關シ他種ノ作業ノ禁止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
- 第二十八條 研磨機ニ依ル金屬研磨、炭酸含有清涼飲料水ノ攪詰其ノ他物體ノ飛來ノ虞アル作業、高熱物體又ハ毒劇藥、毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害ノ瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他有害ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ從事スル職工ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フベシ
- 職工ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス
- 第二十九條 衛生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ當該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設ケベシ但シ當該職工ガ工場内ニ於テ食事ヲ爲サザル場合ニ

ハ此ノ限ニ在ラズ

毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他ノ工場ニシテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面裝置ヲ設ケ必要品ヲ備フベシ

前二項ノ工場又ハ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ飲料水ノ供給又ハ食事ノ場所、更衣所、含嗽裝置若ハ浴場ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第三十條 織機ノ杼ガ杼通ノ爲緒ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ緒引出具ヲ備フベシ職工ハ杼通ノ爲緒ヲ吸出スベカラズ

第三十一條 地方長官ハ衛生又ハ危害豫防上必要ト認ムルトキハ工場及ビ附屬建設物ノ採光、換氣ノ爲窓面ノ増加又ハ照明裝置其ノ他適當ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 工場ニハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備フベシ但シ作業ノ性質上傷害ノ虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

救急用具及材料ノ備附場所及使用方法ハ之ヲ從業者ニ周知セシムベシ

第三十三條 食堂、炊事場及食器ハ常に清潔ニ保ツベシ食堂及炊事場ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ

工業勞働者最低年齡法

大正十二年三月二十九日法律第三十四號

- 羅レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第三十四條 更衣所及浴場ハ之ヲ男女用ニ區別スベシ
- 第三十五條 地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外工場及附屬建設物並設備ガ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命ズルコトヲ得
- 第三十六條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ其ノ他濫リニ火氣ヲ使用シタル者ハ科料ニ處ス
- 附 則
- 本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十六條、第二十八條第一項及第三十條ノ規定ハ本令施行後一年間、第八條、第二十三條第一項乃至第三項、第二十九條第二項及第三十四條ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後一年間、第二條、第三條第一項、第四條乃至第七條、第十條乃至第十三條、第十五條、第二十六條及第二十九條第一項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後二年間之ヲ適用セズ
- 本令施行前既ニ設ケタルモノニ付第二十三條第四項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本令施行後四月以内ニ其ノ申請ヲ爲スベシ

工業勞働者最低年齡法

- 第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ
- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
 - 二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）
 - 三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事
 - 四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク
 - 五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱
- 第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工場ニ關スル學校ニ於テ兒童

參考法規其ノ他參考事項

- ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス
- 第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ講製シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
- 第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規

工業労働者最低年齢法施行規則

大正十五年六月七日内務省令第十四號

- 定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス
- 第九條 使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
- 第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス
- 第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

(別記様式)

第 號 大正 年 月 日交付

官 職 氏 名	社會局、廳府縣 又ハ鑛山監督局 印
---------	-------------------------

工業労働者最低年齢法第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
 工業労働者最低年齢法第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

縦八センチメートル横十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工業臨檢票」ト記ス

- 同シ、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス
- 第二條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第三條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ
 前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

工業労働者最低年齢法施行規則

勞働者募集取締令

大正十三年十二月二十九日內務省令第三六號

- 第一條 本令ニ於テ募集主トハ募集シタル勞働者ノ雇主タルヘキ者ヲ謂ヒ募集従事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ラ雇傭セムカ爲勞働者ノ募集ニ従事スル者ヲ謂フ
- 第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外職工、鐵夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ノ募集ニ之ヲ適用ス
- 一 應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ
- 二 單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノミ募集ノ取扱ヲ爲ストキ
- 三 移民保護法ニ依ル募集ヲ爲ストキ
- 第三條 募集主ハ募集開始前左記事項ヲ記載シタル就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ應募者ノ就業場所所在地所轄地方長官ニ届出ツヘシ
- 一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名
- 二 應募者ノ就業場ノ名稱及所在地
- 三 短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了時期
- 四 應募者ノ就業スヘキ事業ノ種類

- 五 就業時間、休憩時間、休日及夜間作業ニ關スル事項
- 六 賃金ニ關スル事項
- 七 宿舍、食事ノ費用、往復旅費等ノ負擔ニ關スル事項
- 八 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項
- 九 雇傭期間及解雇ニ關スル事項
- 十 負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助救済ニ關スル事項
- 募集主前項ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ノ外募集ニ關シ配布スヘキ文書アルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ
- 前二項ノ規定ニ依リ届出テタル就業案内雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ
- 第四條 勞働者ノ募集ニ従事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞二葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所所在地所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名
- 二 募集従事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日
- 三 募集従事者ノ履歷
- 四 募集従事期間

五 募集従事區域

- 六 應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類
- 募集従事期間ハ三年以内トス
- 第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ従事セムトスルトキハ從來ノ募集主ノ承諾書ヲ添ヘ第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ申請スヘシ
- 第五條 地方長官前條ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ様式第一號ニ依ル募集従事者證ヲ交付スヘシ
- 募集従事者募集従事者證ヲ減失、紛失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ
- 募集従事者證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ募集従事者ハ遲滞ナク其ノ書換ヲ申請スヘシ
- 前二項ノ申請ハ募集従事者ノ寫眞二葉ヲ添ヘ許可ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 募集従事者ハ應募者若ハ應募セムトスル者又ハ本人ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ募集従事者證ヲ提示スヘシ
- 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集主ハ第四條ノ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ
- 一 募集主事業ヲ廢止シタルトキ

勞働者募集取締令

- 二 募集主募集従事者ニ對シ募集ノ委託ヲ解キタルトキ
- 第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集従事者ハ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滞ナク募集従事者證ヲ返納スヘシ
- 一 募集ニ従事スルコトヲ廢シタルトキ
- 二 募集従事期間満了シタルトキ
- 三 募集従事者ノ許可ヲ取消サレタルトキ
- 四 前條各號ノ一ニ該當スルトキ
- 募集従事者死亡シタルトキハ戶籍法第一百七條ノ届出義務者募集従事者證ヲ添付シ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滞ナク其ノ旨届出ツヘシ
- 第九條 募集従事者募集ニ著手セムトスルトキハ豫メ第三條ノ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ヲ添付シ左記事項ヲ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 募集従事者ノ住所、氏名
- 二 募集従事中ノ居所及事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地
- 三 當該警察官署管内ニ於ケル募集従事期間
- 四 當該警察官署管内ニ於テ募集セムトスル勞働者ノ男女別豫定人員

- 五 應募者ノ集合所ヲ定メタルトキハ其ノ所在地前項各號ノ事項又ハ前項ノ規定ニ依リ添付スヘキ文書ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ
- 第十條 募集従事者ハ應募セムトスル者ニ對シ第三條ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ交付シ其ノ主旨ヲ懇示スヘシ
- 第十一條 募集従事者ハ様式第二號ニ依リ應募者名簿ヲ調製シ、募集従事中之ヲ携帶シ又ハ第九條ノ規定ニ依リ届出テタル居所若ハ事務所ニ備付クヘシ
- 第十二條 募集従事者ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 募集従事者證ヲ他人ニ讓渡若ハ貸與シ又ハ募集ヲ他人ニ委託スルコト
 - 二 募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ誇大虛偽ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用キルコト
 - 三 應募ヲ強要スルコト
 - 四 應募シ又ハ應募セムトスル女子ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト
 - 五 應募者又ハ應募セムトスル者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ其ノ案内ヲ爲スコト
 - 六 濫ニ應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ケ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

- 七 濫ニ應募者ニ對シ其ノ所持品ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル所持品ノ返還ヲ拒ムコト
- 八 應募者ヲ募集従事者證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト
- 九 應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手数料、報酬等何等ノ名義ヲ問ハス金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト
- 十 當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ偽ルコト
- 第十三條 募集従事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ承諾ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條 募集従事者應募者ヲ引卒シテ出發セムトスルトキハ其ノ出發三日前途ニ左記事項ヲ記載シ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 應募者ノ住所、氏名及生年月日
 - 二 出發ヨリ就業場到着迄ノ旅行豫定
- 第十五條 募集従事者應募者ト共ニ汽車、汽船其ノ他ノ交

通機關以外ノ場所ニ於テ宿泊セムトスルトキハ豫メ宿泊所所在地所轄警察官署ニ左記事項ヲ届出ツヘシ

- 一 宿泊所
 - 二 應募者ノ男女別員數
 - 三 宿泊所到着及出發ノ日時
- 第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應募者ノ請求アリタルトキハ應募者就業場ニ到着前ニ於テハ募集従事者、到着後ニ於テハ募集主應募者ノ歸郷ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 一 就業案内又ハ雇傭契約書案ニ記載シタル事項カ事實ト相當相違シタルトキ
 - 二 募集主、募集従事者又ハ就業場ノ監督者應募者ヲ虐待シ又ハ凌辱シタルトキ
 - 三 考試、身體検査其ノ他募集主ノ都合ニ依リ應募者ヲ採用セサルトキ
 - 四 其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ歸郷ヲ必要トスルニ至リタルトキ
- 第十七條 當該官吏ハ募集従事者ニ對シ募集従事者證、應募者名簿其ノ他募集ニ關スル書類ノ提示ヲ命スルコトヲ得
- 第十八條 許可ヲ爲シタル地方長官募集従事者ヲ不適當ナ

勞働者募集取締令

- 一 募集主又ハ募集従事者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 一 第三條ノ規定ニ依リ届出テタル就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 二 第三條ノ規定ニ依リ届出ナキ募集案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ募集ニ關シ配布シタルトキ
- 三 第三條、第五條第三項、第七條、第九條乃至第十六條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 四 應募者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 五 第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハサルトキ
- 六 第十八條第二項ノ規定ニ依ル募集ノ停止中募集ニ從事シタルトキ

參考法規其ノ他參考事項

第二十一條 第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケス又ハ募集従事者證記載事項ノ範圍外ニ亘リ労働者ノ募集ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條 工場法第十八條ニ規定スル工場管理人又ハ鑛業法施行細則第五十四條ニ規定スル鑛業代理人ハ本令ノ適用ニ付募集主ト看做ス但シ第三條第一項第一號、第四條第一項第一號及様式第一號ノ記載ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 募集主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第二十四條 募集主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ募集主ニ關スル本令ノ規定ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

第二十五條 本令ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十六條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス
第三條及第十九條ノ就業場所在地所轄地方長官トアルハ

鑛業及砂鑛業ニ在リテハ就業場所在地所轄鑛山監督局長トス
第二十七條 應募者ノ就業場所在地又ハ募集従事者ノ住所カ本令施行區域外ニ在ル場合ニ於テハ第三條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル届出又ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ主タル募集地所轄地方長官ニ之ヲ爲スヘシ
第二十八條 本令施行ノ際労働者募集取締ニ關スル廳府縣ノ命令ニ依リ募集スルコトノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後二月間ハ許可ヲ爲シタル地方長官管轄區域内ニ限り本令第四條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

(様式第一號)

第 號	募 集 主			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 廳 府 募 集 從 事 者 證 縣 印 </div>			
募 集 區 域	募 集 從 事 期 間	事 業 ノ 種 類	就 業 場 ノ 位 置 及 名 稱	募 集 主

労働者募集取締令

裏

氏 名	寫 眞	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 廳 府 縣 印 </div>	
生 年 月 日		

參考法規其ノ他參考事項

(様式第二號)

備考	費	旅	前	就業場到着年月日	應募年月日	保護者氏名	住所	男	女
								氏名	生年月日
	辨當代其ノ他	宿泊料	汽車賃、汽船賃、馬賃等	渡金				本籍	

- 應募者名簿記載心得
- 一、應募者名簿ハ應募者毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備フヘシ
 - 二、本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
 - 三、住所欄ニハ應募者ノ應募當時ノ住所地ヲ記載スヘシ
 - 四、保護者氏名欄ニハ本令第十三條ノ規定ニ基キ承諾ヲ與ヘタル者ノ氏名ヲ記載スヘシ
 - 五、前渡金欄ニハ就業場到着前ニ於テ應募者、親權者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ交付シタル金額ヲ記載スヘシ但シ返還スルコトヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 六、旅費欄ニハ應募者ノ入場ニ要シタル費用ニシテ就業後之ヲ返還スルコトヲ要スヘキモノ(條件附ニテ返還ヲ要セサルモノヲ包含ス)ヲ汽車、汽船、車馬賃、宿泊料及辨當代其ノ他ノ別ニ依リ記載スヘシ

(様式第三號)

募集従事者員數	募集地別募集労働者數					區分	事業種類	就業場ノ位 置及名稱	募集主 住所氏名	自大正 至大正 年月 月
	計	其ノ他	、	、	、					

労働者ヲ記載スヘシ

- 一、募集従事者員數欄ニハ十二月三十一日現在ニ於テ本令ニ依リ認可ヲ受ケ募集従事者タル者ノ員數ヲ男女別ニ記載スヘシ

産業組合法

- 明治三十三年三月六日法律第三十四號
(同年勅令第三百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)
- 改正 明治三十九年四月法律第四十五號
 - 改正 明治四十二年四月法律第二十七號
 - 改正 大正六年七月法律第二十二號
 - 改正 大正十年四月法律第七十三號
 - 改正 大正十二年四月法律第四十四號
 - 改正 大正十五年四月法律第五十四號

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ
- 一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜得セシムルコト(信用組合)
 - 二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)

労働者募集年報記載心得

- 一、募集地別募集労働者數欄ニハ本令ニ依リ募集シ雇入レタル労働者ノ總數ヲ募集地別並男女別ニ記載スヘシ
- 其ノ他ノ欄ニハ朝鮮、臺灣、樺太等ニ於テ募集シタル労働者

産業組合法

三 産業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト(購賣組合)

四 組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト(利用組合)

信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ノ金額及出資一口ニ付定款ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムヘキ金額ノ合計額ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者、公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

市又ハ主務大臣ノ指定スル市街地力組合ノ區域ニ屬スル信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ産業若ハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ノ爲手形ノ割引ヲ爲シ又ハ前二項ノ貯金ノ外組合ノ區域内ニ居住スル組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル貯金ハ有限責任組合ニ在リテハ出資總額及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計、保證責任組合ニ在リテハ之ニ保證金額ヲ加ヘタル合計、無限責任組合ニ

在リテハ出資總額ノ五倍及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計ヲ超エ之ヲ受入ルルコトヲ得ス

第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ハ第一項第二號乃至第四號ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

利用組合ノ設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ限り組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

前項ノ設備ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ

三ノ二 區域

四 事務所

- 五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 六 第一回拂込ノ金額
- 七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定
- 八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 九 組合員タル資格ニ關スル規定
- 十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定
- 十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市町村ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 組織

産業組合法

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
- 二 設立許可ノ年月日
- 三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ノ記載ハ變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項及第四十八條ノ規定ハ期間ヲ除クノ外産業組合ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二 第十二條ノ拂込アリタルトキハ組合ハ二週間内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出テ同時ニ組合原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出及提出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主タル事務所所在地ノ登記所ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

四 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額

登記所ノ受理シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十四條第二項及第十五條ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ六 第十六條ノ三ノ規定ハ組合原簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

組合員ノ加入ノ場合ニ於テハ無限責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ加入ノ日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ提出シ地方長官ハ遲滞ナク之ヲ主タル事務所所在地ノ登記所ニ送付スヘシ
組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組合員ノ脱退又ハ保證金額ノ減少ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル

第三章 組合員ノ權利義務

第十七條 組合員ハ出資ノ一口以上ヲ有スヘシ

産業組合法

シ

第十六條ノ三 第十四條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ハ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ登記ノ事由カ地方長官ノ認可其ノ他ノ處分ニ因リテ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所所在地ノ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ前項但書ノ場合亦同シ

第十六條ノ四 組合ハ主タル事務所ノ移轉又ハ組織變更ノ登記ニ關スル届出ヲ爲スト同時ニ組合原簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
地方長官ハ主タル事務所所在地ノ登記所ニ前項ノ登記ヲ囑託スルト同時ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ五 組合原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 出資ノ總口數
- 二 拂込ミタル出資ノ總額
- 三 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ三十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五十口迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付キ相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ヲ取消シ地方長官ニ請求スルコト

ヲ得

第四章 管 理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半数以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條ノ二 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各組合員ノ氏名、住所
- 二 各組合員ノ出資口數

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十四條ノ二 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ

理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

第三十五條 組合力理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ議決ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

産業組合法

- 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
- 四 出資各口ノ取得ノ年月日

五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十一條ノ二 産業組合力其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル
前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合力出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合力組合員ノ保證

金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎トナルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十六條ノ二 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム

第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

産業組合法

拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第四十六條ノ三 有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辯済スルノ責ニ任ス

前項ノ規定ニ依ル理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存續ス

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ハサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トチ問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セサル限り之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及北海道支廳長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事又ハ清算人ヲシテ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

監督官廳ハ組合清算ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合ニ對シ其ノ財産ノ供託ヲ命スルコトヲ得
 第六十條ノ二 理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得
 第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲力定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
 二 總會ノ決議
 三 組合ノ合併
 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
 五 組合ノ破産
 第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合カ合併セムトスルトキ又ハ保證責任組合若ハ有限責任組合カ合併ニ因リテ組織變更ト同一ノ結果ヲ生スヘキトキハ其ノ合併ニ付總會員ノ同意アルコトヲ

續ス

第六十八條 組合ハ總會員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十三條ノ二 清算人タル者ナキ時又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任

産業組合法

第七十三條ノ二 清算人タル者ナキ時又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任

要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ
 第六十四條 第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ二 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス
 第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 總會ノ決議ニ因ル解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承

スルコトヲ得

第七十三條ノ三 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十四條 清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ二 清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十五條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會
 第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合聯合會)

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合聯合會)

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セスシテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト

ト(購買組合聯合會)
四 所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト
(利用組合聯合會)

産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之
ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會
ヲ以テ販賣組合聯合會及購買組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ
行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス
ルコトヲ得ス

第七十六條ノ二 信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興
業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金
庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲
スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ信用組合
聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債
權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 産業組合聯合會ハ社團法人トス
産業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種ト
ス

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證
責任ハ其ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
第七十八條 産業組合又ハ産業組合聯合會カ産業組合聯合

組合原簿ノ提出及送付並登記ノ囑託ニ關スル規定中地方
長官トアルハ合併後存續スル産業組合聯合會又ハ合併ニ
因リテ設立シタル産業組合聯合會ノ主タル事務所所在地
ヲ管轄スル地方長官トス

第八十二條 産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會
ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立スルコトヲ
得

産業組合中央會ハ社團法人トス
産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業
ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條 産業組合中央會ノ名稱中ニハ産業組合中央會
ナル文字ヲ用ウヘシ
産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會
タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第八十四條 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ
設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第八十五條 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會
ノ會員ト爲ルコトヲ得
前項以外ノ者ト雖定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會

會ニ加入シ又ハ脱退セムトスルトキハ總會ノ決議ニ依ル
ヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ特別ノ事由アル場合
ヲ除クノ外道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル二箇
以上ノ産業組合聯合會カ合併セムトスルトキハ主務大臣
ノ認可ヲ受クヘシ

區域カ道府縣ノ區域ヲ超ユル産業組合聯合會ノ監督其ノ
他ノ職務ハ其ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官之
ヲ行フ

第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬
組合又ハ所屬聯合會ノ理事及監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但
シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選
任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官
ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ
定ムヘシ

第八十一條 産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノヲ除
クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七十九條第
二項ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ登記スヘキ事項ノ届出、

ノ會員ト爲ルコトヲ得
第八十六條 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載ス
ヘシ

- 一 名稱
- 二 事務所
- 三 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 四 會員ノ權利義務ニ關スル規定
- 五 資産ニ關スル規定
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 會議ニ關スル規定
- 八 事業ノ執行ニ關スル規定
- 九 定款ノ變更ニ關スル規定
- 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期
又ハ事由
- 定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效
力ヲ生セス
- 第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主
タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ
- 登記スヘキ事項左ノ如シ
- 一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類
- 二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタ

- ル事項
- 三 資産ノ總額
- 四 設立許可ノ年月日
- 五 理事及監事ノ氏名、住所
- 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官トアルハ主務大臣トス
- 第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ
- 第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ
- 第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス
- 第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス
- 第九十二條 三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第

- 六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十五條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條ノ二及第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ノ二ニ於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス

第十章 罰則

- 第九十三條 組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第九十三條ノ二 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラレ
- 一 本法ニ定メタル届出若ハ組合原簿ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

- 三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
- 四 第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
- 六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ
- 七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ
- 十 第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併

産業組合法

- 十一 法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ
 - 第九十三條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラレ
 - 第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス
- 附 則
- 第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所、産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス
 - 第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ
 - 第九十八條 登記ノ囑託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 - 囑託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事務所
 - 二 登記ノ目的及事由
 - 三 年月日

四 登記所ノ表示

第九十九條 設立登記ノ囑託書ニハ定款及届書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ囑託書ニハ届出ニ因ル場合ニ於テハ届書ヲ添附スヘシ

第一百條 削 除

第一百一條 削 除

第一百二條 削 除

第一百三條 削 除

第一百四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 非訟事件手續法第三百三十八條、第三百三十九條ノ二、第四百一一條乃至第四百六條、第四百四十八條、第四百四十八條ノ二、第五百一一條乃至第五百五十一條ノ六、第五百五十四條乃至第五百五十八條、第六十五條及第六百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

附 則 (明治四十二年法律第二十七號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前産業組合力裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ組合原簿ト見做ス

豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金力現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ定スヘシ

第一條ノ二 利用組合ハ定款ヲ以テ定ムルニ非サレハ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用セシムルコトヲ得ス

第一條ノ三 産業組合法第一條第七項ニ組合員タルコトヲ得サル者ト稱スルハ法令若ハ定款ノ規定ニ依リ又ハ出資ノ能力ナキ爲組合ニ加入スルコトヲ得サル者ヲ謂フ

第一條ノ四 産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ノ設立ノ許可ヲ申請スル者ハ定款ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

一 申請ノ理由

二 設備ノ規模及其ノ能力

三 組合員ノ設備利用ノ程度

四 設備ニ關スル事業施行ノ方法

産業組合法施行規則

附 則 (大正六年法律第二十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ登記シタル産業組合及産業組合聯合會ニシテ定款ニ區域ノ定アルモノニ付テハ地方長官ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ區域ノ登記ヲ各事務所所在地ノ登記所ニ囑託スヘシ

附 則 (大正十年法律第七十三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ設立シタル生産組合又ハ生産組合聯合會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

附 則 (大正十五年法律第五十四號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第五十九條及第六百六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産業組合法施行規則

明治四十二年八月二十一日農商務省令第三十五號

改正 大正六年十月農商務省令第三十號

改正 大正十年七月農商務省令第二十四號

改正 大正十五年五月農林省令第九號

第一條 信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ

五 設 備

六 一事業年度ノ收支概算

七 組合員數、組合員戶數、區域内戶數及組合員タルコトヲ得サル者ニシテ設備ヲ利用シ得ルモノノ種類別數

組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用セシムル爲定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ認可申請書ニ前項第二號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

組合合併ノ際定款ヲ以テ前項ノ事業ヲ行フ旨ヲ定メムトスル場合ニ於テハ其ノ認可申請書ニ第一項各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第一條ノ五 産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ハ其ノ區域内ニ於ケル組合員タルコトヲ得ル者ノ三分ノ二以上ヲ組合員トスルモノニ限ル

第一條ノ六 組合員タルコトヲ得サル者ニシテ産業組合法第一條第八項ノ規定ニ依リ指定シタル設備ヲ利用シ得ルモノハ組合ノ區域内ニ居住スル者ニ限ル但シ左ノ各號ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 電氣設備ニ在リテハ組合ノ區域内ニ於テ家屋物件ヲ

所有シ使用シ又ハ占有シ之カ爲其ノ設備ヲ利用スル
必要アル者

二 其ノ他ノ設備ニ在リテハ前號ニ掲クル者及定款ヲ以
テ規定シタル者

第一條ノ七 組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ設備ヲ利用
セシムル場合ニ於ケル利用料ハ實費ヲ超ユルコトヲ得ス

第一條ノ八 産業組合法第六條ノ二ニ住宅ト稱スルハ主ト
シテ住居ノ用ニ供スル家屋及之ニ相應スル門、牆、塀、物

置、井戸其ノ他居住ノ爲必要ナル附屬設備ヲ謂フ

第一條ノ九 産業組合法第六條ノ二ノ規定ニ依リ地方税ノ
免除ヲ受クヘキ住宅又ハ住宅用地ハ左ノ制限ニ從フコト

ヲ要ス但シ産業組合ノ住宅ノ建設若ハ購入又ハ住宅用地
ノ取得ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 住宅ハ一組合員ニ付一戸ニ限ル
二 前號ノ住宅ハ一戸ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪
ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル
トキハ此ノ限ニ在ラス

三 住宅用地ハ住宅ニ相應スルモノナルコトヲ要ス

第二條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會
ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル
トキハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二 産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ
依ル貯金ノ受入及拂戻ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ
整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第九條ノ三 産業組合法第一條第七項ノ規定ニ依ル利用ニ
付テハ組合員ノ利用ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付ク
ヘシ

第九條ノ四 登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關
スル届書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

前項ノ届書ニハ受附ノ年月日ヲ記載スヘシ地方長官ニ於
テ受理シタル組合原簿及聯合會原簿ニ付亦同シ

第九條ノ五 地方長官ニ提出スル組合原簿、聯合會原簿又
ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更
ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏名又ハ住
所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ産業組合法第八十七條第二項第三號ノ事項
ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

第九條ノ六 登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關
スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第
二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ前ノ手續ヲ踐ミタルコ
トヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク

第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ
下ルコトヲ得ス

第四條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵
收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收ス
ルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル
組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻
スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第六條 總代會ハ組合ニ在リテハ五百人以上ノ組合員、聯
合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スル
ニ非サレハ之ヲ設ケルコトヲ得ス

總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及
選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第七條 産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之
ヲ選舉スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決
議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ
得ス

第九條 組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但
シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合又ハ聯
合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農林大臣
ニ差出スヘシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記
載スヘシ

一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異
動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合會ノ種類
別ノ數並出資口數ノ異動

二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタ
ルトキハ其ノ總額

三 損益ノ計算並借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利
率

三ノ二 準備金及各種ノ積立金

四 總會又ハ總代會ノ決議

五 事業ノ狀況

六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ
償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯
金額及貯金ヲ爲シタル組合又ハ所屬組合及所屬聯
合會ノ數並貯金及貸付金ノ利率、産業組合法第一條
第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者
ノ數及其ノ貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ

參考法規其ノ他參考事項

在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ買入若ハ生産又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、利用組合又ハ利用組合聯合會ニ在リテハ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

六ノ二 産業組合法第一條第三項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ニ在リテハ其ノ貯金者ノ種類別數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ノ利率

六ノ三 産業組合法第一條第四項ノ信用組合ニ在リテハ手形ノ種類別引枚數、金額及割引ノ歩合、組合員及組合員外ノ職業別及金額別ノ貯金者數及貯金額、受入又ハ拂戻シタル組合員外ノ貯金額及貯金ノ利率、預入先別預入又ハ引出シタル金額及預入金ノ利率並拂戻準備金ノ管理方法別ノ金額

六ノ四 信用組合聯合會ニ在リテハ産業組合法第七十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル保證ノ金額

七 産業組合法第一條第七項ノ事業ヲ行フ利用組合ニ在リテハ組合員タルコトヲ得サル者ノ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

八 處務ノ要件
前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十四條 剩餘金ノ配當ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量又ハ拂込ミタル出資額ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シ配當スヘキ剩餘金ニシテ出資ノ拂込ニ充テサルモノハ拂込ミタル出資額力出資總額ノ二分ノ一ニ滿タサル場合ニ限り配當スヘキ剩餘金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十四條ノ二 産業組合法第十六條ノ六第三項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十四條ノ三 産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十四條ノ四 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

産業組合法施行規則

第十二條 組合、聯合會又ハ中央會力借入金ヲ爲サムトスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付キ之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ中央會ニ在リテハ農林大臣ニ運滯ナク報告スヘシ

第十二條ノ二 定款變更ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第十二條ノ三 理事又ハ監事ノ變更ノ届書ニハ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議録、其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條ノ四 産業組合法第十六條ノ六第二項及第三項ノ規定ニ依リ無限責任組合ノ提出スル組合原簿ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十三條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十二條ノ二ニ掲ケタル書類ノ外財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十五條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存続スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款並産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ掲ケタル書類ノ外組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十六條 組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十六條ノ二 産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル定款變更ノ場合ニ於テ組合又ハ聯合會カ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ踐ミタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シ運滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十七條 組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脱退シタ

ルトキハ其ノ旨チ地方長官ニ届出ツヘシ
 第十七條ノ二 第十二條ノ三ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス
 第十七條ノ三 第十條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス
 第十七條ノ四 清算終了ノ届書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ
 第十八條 北海道支廳長カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ
 第十九條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スヘシ
 第二十條 本則中農林大臣トアルハ大正六年勅令第二百號ニ依リ農林大臣及大藏大臣ノ所管ニ係ルモノニ付テハ農林大臣及大藏大臣トス
 附 則
 本令ハ大正六年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則 (大正十五年農林省令第五號)
 本令ハ大正十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農業倉庫業法

大正六年七月二十一日法律第十五號
改正 大正十五年三月法律第三十二號

本令施行ノ際現ニ拂込ミタル出資額以外ノ持分ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ行フ旨チ定款ヲ以テ定メタル組合又ハ聯合會ノ剩餘金ノ配當ニ付テハ大正十五年十二月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ル
 前項ノ組合又ハ聯合會前項ノ期日迄ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ剩餘金ノ配當ニ付當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
 第一條 本法ニ於テ農業倉庫業者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ
 一 農業ヲ營ム者カ其ノ生産シタル穀物、繭其ノ他勅令ヲ以テ指定スル物品ヲ所有スル場合又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物其ノ他勅令ヲ以テ指定スル物品ヲ所有スル場合ニ於テ其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ之ヲ倉庫ニ保管スル者
 二 販賣組合又ハ販賣組合聯合會カ賣却スル繭其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ倉庫ニ保管スル者
 前項ニ規定スル寄託物ニ付所有權ノ移轉アリタルトキト

雖農業倉庫業者ハ其ノ寄託物ノ保管期間内ニ限り之ヲ保管スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ前二項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限り業務規程ノ定ムル所ニ依リ前二項ノ規定ニ依ラス物品ノ保管ヲ爲スコトヲ得

第二條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコトヲ得

- 一 受寄物ノ調製、改装又ハ荷造ヲ爲スコト
- 二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ仲立ヲ爲スコト
- 三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコト
- 四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

五 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シタル場合ニ於テ其ノ物品ノ聯合農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

六 他ノ農業倉庫業者カ擔保トシテ受取りタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

第三條 農業倉庫業者ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 産業組合、農會、農業ノ發達ヲ目的トスル公益法人並市町村及之ニ準スヘキモノニ非サレハ第一條第一項

農業倉庫業法

第一號ノ農業倉庫業者タルコトヲ得ス
 命令ヲ以テ指定スル産業組合聯合會ニ非サレハ第一條第一項第二號ノ農業倉庫業者タルコトヲ得ス
 第五條 農業倉庫業者タル産業組合又ハ産業組合聯合會ハ産業組合法ニ規定スルモノノ外第一條及第二條ニ規定スル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得
 前項ノ産業組合又ハ産業組合聯合會ハ組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附隨トシテ組合員又ハ所屬聯合會若ハ所屬聯合會ニ非サル者ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號乃至第六號ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人ハ第二條第四號乃至第六號ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス
 第六條 農業倉庫業者タラムトスル者ハ業務規程ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
 第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ種類及品位ノ同一ナル寄託物ヲ混合シテ保管スルコトヲ得
 第七條ノ二 農業倉庫業者ハ寄託者ノ請求ニ依リ寄託物ノ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ得
 商法第三百八十三條ノ二第二項及第三百八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ倉荷證券ニ之ヲ準用ス

第八條 農業倉庫業者ノ作成スル倉荷證券ニハ農業倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ要ス

農業倉庫業者ニ非サル者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ農業倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條 混合保管ノ場合ニ於テハ農業倉庫業者ハ農業倉庫證券ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六月以内トス
第一條第一項ニ規定スル寄託物ニ付テハ保管期間ヲ更新スルコトヲ得但シ寄託者ハ更新ノ際同條第一項ニ掲ケル者タルコトヲ要シ其ノ期間ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第一條第三項ニ規定スル寄託物ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限り保管期間ヲ更新スルコトヲ得其ノ期間ハ前項但書ニ同シ

第十一條 商法第三編第五章乃至第七章第三百七十五條乃至第三百七十八條及第三百八十一條乃至第三百八十三條ノ規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス

第十二條 商法第三百七十六條ノ規定ハ受寄物ノ調製、改装又ハ荷造ニ關シ農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス

第十三條 農業倉庫業者業務規程ヲ變更セムトスルトキハ

ノ科料ニ之ヲ準用ス

第十九條 本法ニ於テ聯合農業倉庫業者トハ農業倉庫業者カ第一條第一項及第二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ本法ニ依リ倉庫ニ保管スル者ヲ謂フ

聯合農業倉庫業者ハ他ノ聯合農業倉庫業者カ前項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ保管スルコトヲ得

聯合農業倉庫業者ハ前二項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限り業務規定ノ定ムル所ニ依リ農業倉庫業者カ第一條第三項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品又ハ販賣組合若ハ販賣組合聯合會カ賣却スル物品ヲ保管スルコトヲ得他ノ聯合農業倉庫業者カ本項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ニ付亦同シ

第二十條 産業組合聯合會ニ非サレハ聯合農業倉庫業者タルコトヲ得ス

第二十一條 聯合農業倉庫業者タル産業組合聯合會ハ産業組合法ニ規定スルモノノ外第二條(第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用)及第十九條ニ規定スル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ産業組合聯合會ハ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附隨トシテ所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯合會ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ

行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

第十四條ノ二 農業倉庫業者ノ農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十五條 行政官廳公益上必要ト認ムルトキハ農業倉庫業者ニ對シ其ノ指定スル穀物又ハ繭ノ寄託ヲ受ケ、受寄物ノ検査其ノ他ノ行爲ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十六條 行政官廳ハ農業倉庫業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 行政官廳農業倉庫業者ノ業務執行若ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ、農業倉庫業者ノ行爲カ法令若ハ業務規程ニ違反シタルトキ又ハ其ノ行爲カ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第十八條 農業倉庫業者タル法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者本法又ハ本法ニ基キテ爲ス命令又ハ處分ニ違反シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項

第二條第四號乃至第六號(第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用)ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 農業倉庫業者カ寄託者又ハ農業倉庫證券ノ所持人及受寄物ノ質權者アル場合ニ於テハ其ノ質權者ノ承諾ヲ得テ其ノ受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シタル場合ニ於テハ其ノ寄託ニ因リ生シタル農業倉庫業者ノ權利義務ハ當初ノ寄託者又ハ農業倉庫證券ノ所持人ニ移轉シ當初ノ寄託ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

第二十三條 農業倉庫業者カ其ノ受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託セムトスル場合ニ於テ其ノ受寄物ノ農業倉庫證券アルトキハ將來ニ向テ其ノ證券ノ裏書ヲ禁止スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ前項ノ證券ノ裏書ヲ禁止スルニ非サレハ受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託スルコトヲ得ス

第二十四條 聯合農業倉庫業者ハ其ノ受寄物ノ農業倉庫證券ナキ旨ノ農業倉庫業者ノ證明書又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ裏書ヲ禁止セラレタル證券ト引換ニ非サレハ其ノ受寄物ノ聯合農業倉庫證券ヲ交付スルコトヲ得ス

第二十五條 前三條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者カ其ノ受寄物ヲ他ノ聯合農業倉庫業者ニ寄託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第二條、第三條、第六條乃至第九條、第十條第一項及第十一條乃至第十八條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第二條第六號中農業倉庫業者トアルハ農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者、農業倉庫證券トアルハ農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券トシ第八條中農業倉庫證券トアルハ聯合農業倉庫證券トス

第十條第二項ノ規定ハ第十九條第一項又ハ第二項ニ規定スル寄託物ニ、同條第三項ノ規定ハ第十九條第三項ニ規定スル寄託物ニ之ヲ準用ス但シ聯合農業倉庫業者カ第十條第一項及第二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル第一條第二項ノ物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (大正十五年法律第三十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ農業倉庫業者カ從前ノ第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ存スル預證券及質入證券ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

農業倉庫業法施行規則

大正六年八月十五日農商務省令第十五號
改正 大正九年六月農商務省令第六號
改正 大正十五年七月農林省令第十九號

- 第一條 農業倉庫業ノ認可申請書ニハ業務規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
- 一 申請ノ理由
 - 二 倉庫ニ於テ取扱フヘキ物品ノ種類別數量ノ豫定
 - 三 倉庫ノ所在地
 - 四 倉庫ノ棟數、建坪、主要ナル構造又ハ工事及收容力並倉庫經營ニ要スル敷地ノ面積ニ關スル事項
 - 五 倉庫及敷地ハ申請者ノ所有ニ係ルモノナリヤ否ヤノ別及所有ニ係ラサルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項
 - 六 倉庫ハ既設ノモノナリヤ否ヤノ別並新ニ建築、改築又ハ修繕ヲ爲スモノニ付テハ其ノ竣工ノ豫定期日及既設ノモノニ付テハ建築ノ時期
 - 七 附屬ノ設備ニ關スル事項
 - 八 貸付事業ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付金總額ノ豫定及其ノ調達方法

- 九 起業費及一箇年ノ收支概算
 - 十 申請者タル法人ニ於テ農業倉庫業開始ノ決定ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ決定ヲ證スル書面
 - 十一 公益法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行爲及財産目錄
 - 十二 農業倉庫業法第一條第一項第二號ノ農業倉庫業者タラムトスル者ニ在リテハ其ノ區域内ニ於ケル販賣組合聯合會ノ賣却スル藪ノ數量
- 第二條 農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
- 一 事業ノ種類及農業倉庫業法第一條第三項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨
 - 二 保管スヘキ物品ノ名稱
 - 三 農業倉庫業法第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ順位並同條第一項及第二項ノ規定ニ依ル保管上必要アルトキハ何時ニテモ同條第三項ノ規定ニ依ル保管物ノ出庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位
 - 四 保管ノ方法及保管上特殊ノ作業ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ作業
 - 五 保管料ニ關スル規定
 - 六 保管期間ニ關スル規定
- 農業倉庫業法施行規則

- 七 聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業者ニ受寄物ノ寄託ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨及寄託スヘキ聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業者ノ名稱
- 八 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託スル場合ニ於ケル受寄物及農業倉庫證券ノ取扱並受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ引渡ス迄ノ間ニ於ケル危險ノ負擔ニ關スル規定
- 九 受寄物ノ入庫及出庫ニ關スル規定
- 十 證券發行ニ關スル規定
- 十一 保險ニ關スル規定アルモノニ付テハ之ニ關スル規定
- 十二 避クヘカラサル事由ニ依ル減量ノ負擔ニ關スル規定
- 十三 受寄物ノ検査ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 十四 農業倉庫業法第二條ノ規定ニ依ル事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 十五 産業組合又ハ産業組合聯合會ニ於テ組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ニ非サル者ノ爲ニ事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 十六 剩餘金又ハ損失金ニ關スル規定
- 第三條 混合保管ヲ爲スモノニ在リテハ前條ノ事項ノ外業

參考法規其ノ他參考事項

三三三

務規程中ニ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 混合保管ノ範圍

二 受寄物ノ返還ニ關スル規定

第四條 農業倉庫業法第四條第二項ノ規定ニ依リ農業倉庫

業者タルコトヲ得ル者ハ滿ノ販賣ヲ目的トスル販賣組合

聯合會ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 共同滿倉庫及共同乾滿裝置助成規則ニ依リ共同滿倉

庫ノ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交

付ヲ受ケタル倉庫ヲ有スル者

二 共同滿倉庫及共同乾滿裝置助成規則ニ依リ共同滿倉

庫ノ助成金ノ交付ヲ受ケル倉庫ニ準スヘキ規模及構

造ヲ具備スル倉庫ヲ有スル者

第五條 農業倉庫業者ニ非サレハ其ノ名稱中ニ農業倉庫ナ

ル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第六條 農業倉庫業者ハ農業倉庫業法第一條第三項ノ規定

ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定

ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付ク

ヘシ

第七條 農業倉庫業者倉庫ノ所在地、棟數、建坪又ハ收容

力ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 農業倉庫業者ハ事業年度終了後三月内ニ前年度ノ

ケル事項

三 農業倉庫業法第十九條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘ

キ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ順位並

同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管上必要アルト

キハ何時ニテモ同條第三項ノ規定ニ依リ保管物ノ出

庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位

四 農業倉庫業法第二條(同法第二十六條第一項ノ規定

ニ依リ準用)ノ規定ニ依ル事業ヲ爲スモノニ在リテ

ハ之ニ關スル規程

五 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯合會ノ

爲ニ事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定

六 聯合農業倉庫業者カ農業倉庫業法第二十四條ノ規定

ニ依リ聯合農業倉庫證券ト引換ニ受取りタル農業倉

庫證券又ハ聯合農業倉庫證券ノ取扱ニ關スル規定

第十三條 聯合農業倉庫業者ハ農業倉庫業法第十九條第三

項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二

號ノ規定ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿

ヲ備付クヘシ

第十四條 第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ハ聯

合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第五條中農業倉庫ナル

文字トアルハ聯合農業倉庫ナル文字トス

産業組合中央金庫法

收支計算書及事業報告書ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第九條 農業倉庫業者事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルト

キハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條 農業倉庫業者事業ヲ休止又ハ廢止シタルトキハ其

ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ休

止シタル事業ヲ開始シタルトキ亦同シ

第十一條 聯合農業倉庫業者ノ認可申請書ニハ業務規程ノ外

左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

一 第一條第一號乃至第十號ニ掲クル事項

二 申請者ノ所屬組合又ハ所屬聯合會ニシテ農業倉庫業

者又ハ聯合農業倉庫業者タルモノカ一年間ニ保管ス

ル物品ノ種類別數量及申請者ニ寄託スヘキ物品ノ種

類別數量ノ豫定

三 申請者ノ所屬販賣組合又ハ所屬販賣組合聯合會カ一

年間ニ賣却スル物品ノ種類別數量及申請者ニ寄託ス

ヘキ物品ノ種類別數量ノ豫定

第十二條 聯合農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規

定スヘシ

一 事業ノ種類及農業倉庫業法第十九條第三項ノ規定ニ

依リ保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨

二 第二條第二號、第四號乃至第十三號及第十六號ニ掲

第十五條 農業倉庫業法第六條及第十三條ノ行政官廳ハ地

方長官トシ同法第十五條乃至第十七條ノ行政官廳ハ農林

大臣及地方長官トス但シ同法第十六條ノ行政官廳ハ北海

道ニ於テ産業組合、産業組合聯合會、町村農會、郡農會

又ハ町村若ハ之ニ準スヘキモノカ農業倉庫業者又ハ聯合

農業倉庫業者タル場合ニ於テハ農林大臣、北海道廳長官

及北海道廳支廳長トス

附 則

本則ハ農業倉庫業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ公益法人ニ付地方長官ノ

行フヘキ處分ハ當分ノ内農林大臣之ヲ行フ

附 則 (大正十五年農林省令第一九號)

本令ハ大正十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産業組合中央金庫法

大正十二年四月五日法律第四十二號

第一章 總 則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ

東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス

三三三

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章 役員

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

參考法規其ノ他參考事項

附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十七條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第五章 計 算

第二十三條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十四條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章 監督及補助

第二十五條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十六條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サルハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十二條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ投資者總會其ノ他諸般ノ會議

ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後投資者ヲ募集ス

第三十八條 設立委員ハ投資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十九條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條 産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産業組合中央金庫法施行規則

大正十二年七月五日農商務省令第十六號

第一條 産業組合中央金庫ニ對シテ政府ノ有スル持分ハ拂込済資本金ニ對スル政府ノ拂込済出資額ノ割合ニ依ルモノトス

第二條 資本金増加ノ場合ニ於テ加入金及増口金ヲ徴收セムトスルトキハ産業組合中央金庫ハ農商務大臣及大藏大

ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條 産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰 則

第四十四條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第三十六條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫産業組合中央金庫法施行規則

臣ノ認可ヲ受クヘシ

加入金及増口金ハ準備金ニ組入ルヘシ

第三條 産業組合中央金庫ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

總代ハ道府縣毎ニ出資者之ヲ互選スヘシ

第四條 産業組合中央金庫ハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一所属産業組合聯合會又ハ一所属産業組合ニ對シテ爲ス産業組合中央金庫法第十三條及第十四條ノ規定ニ依ル貸付又ハ手形ノ割引ニ付其ノ金額ノ最高限度ヲ議決スヘシ
〔前項ノ規定ハ産業組合中央金庫法第十五條ノ規定ニ依ル貸付ニ付之ヲ準用ス〕

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 剩餘金ノ配當ハ拂込濟出資額又ハ所属産業組合聯合會及所属産業組合ニ對シ取扱ヒタル事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

拂込濟出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ準備金ノ額カ出資總額ノ四分ノ一二達シタルトキハ年八分迄之ヲ増加スルコトヲ得

第六條 産業組合中央金庫理事長、副理事長、理事及監事

ノ報酬又ハ賞與ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

前項役員ノ報酬ノ額ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 財産目錄、貸借對照表及事業報告書ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ産業組合中央金庫ハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ提出シ且定款ノ定ムル方法ニ從ヒ貸借對照表ヲ公告スヘシ

第八條 産業組合中央金庫ニ於テ事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部地方資金貸付規程

昭和三年十一月九日大藏省達第二號

第一章 總 則

第一條 預金部地方資金ノ貸付ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

第二條 預金部地方資金ハ之ヲ左ノ八種トス

一 公共團體普通事業資金

二 耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道、府、縣、市、町、村及市町村組合

四 産業組合事業資金ニ在リテハ

イ 産業組合

ロ 産業組合聯合會

五 森林組合事業資金ニ在リテハ

イ 森林組合

六 漁業組合事業資金ニ在リテハ

イ 漁業組合

ロ 漁業組合聯合會

七 畜産組合事業資金ニ在リテハ

イ 畜産組合

ロ 畜産組合聯合會

八 重要輸出品工業組合事業資金ニ在リテハ

イ 重要輸出品工業組合

ロ 重要輸出品工業組合聯合會

第四條 本資金ノ貸付ヲ受クル者ハ左記ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 財産ノ整理良好ナルコト

二 事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト

二 社會事業資金

三 耕地整理事業資金

四 産業組合事業資金

五 森林組合事業資金

六 漁業組合事業資金

七 畜産組合事業資金

八 重要輸出品工業組合事業資金

第二章 貸付先

第三條 本資金ハ左記ノ者ニ限リ之ヲ貸付クルコトヲ得

一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ

イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合

ロ 水利組合及北海道土功組合

二 社會事業資金ニ在リテハ

イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合

ロ 住宅組合

ハ 産業組合

ニ 營利ヲ目的トセサル法人

三 耕地整理事業資金ニ在リテハ

イ 耕地整理組合

ロ 耕地整理組合聯合會

ハ 耕地整理共同施行會

預金部地方資金貸付規程

産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、重要輸出品工業組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三事業年度ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 資金ノ用途

第五條 本資金ハ左記ノ用途ニ對シ之ヲ貸付クルモノトス

- 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ 灌溉、排水及水害豫防費
 - ロ 隔離病舎、結核療養所及傳染病院建設費
 - ハ 上水道及下水道費
 - ニ 墓地、汚物取扱場、火葬場及塵芥處分費
 - ホ 屠場費
 - ヘ 道路、河川及港灣修築並砂防ニ關スル負擔金
 - ト 道路及橋梁費
 - チ 河川及港灣費
 - リ 開墾及埋立事業費
 - ヌ 小學校建設費
 - ル 前各號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金
- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 住宅ノ建設費

- ロ 公益質屋費
- ハ 公益市場費
- ニ 簡易宿泊所費
- ホ 託兒所費
- ヘ 職業紹介所費
- ト 其ノ他ノ社會事業費

前各號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金

耕地整理ニ關スル事業費

前號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金

産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金及重要輸出品工業組合事業資金ニ在リテハ

當該組合及同聯合會ノ事業費

前號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金

第四章 資金ノ割當

第六條 地方資金借入ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ第二章及第三章ノ規定ニ該當スルヤ否ヲ調査シ特ニ本資金ヲ必要トスルモノヲ定メ毎年三月三十一日迄ニ其ノ翌年度内ニ借入ヲ要スヘキ金額ヲ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ内務大臣ニ、第二條第三號乃至第七號ノ

關ニ協議シ供給金額ヲ決定スヘシ

第九條 前條第一號ノ場合ニ於テハ内務大臣及大藏大臣ハ預金部資金供給ノ決定ヲ爲シ其ノ旨ヲ地方長官ニ通知スルモノトス但シ起債ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可アリタルコトヲ要ス

第十條 前條ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ道、府、縣又ハ六大都市ニ對シ貸付クル場合ヲ除クノ外稟請書副本ヲ添ヘ取扱銀行ニ通知スルモノトス

第十一條 地方長官ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ヲ爲シタルトキハ其ノ都度第二條第二號ニ關スルモノハ内務大臣及大藏大臣ニ、第二條第三號乃至第七號ニ關スルモノハ農林大臣及大藏大臣ニ、第二條第八號ニ關スルモノハ商工大臣及大藏大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 地方長官ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ヲ爲シタル後之カ變更ヲ爲サムトスルトキハ第八條第二號及前條ノ規定ヲ準用ス

第五章 貸付

第一節 總則

第十三條 道、府、縣及六大都市ニ對スル貸付ハ直接預金

ノ資金ニ在リテハ農林大臣ニ、第二條第八號ノ資金ニ在リテハ商工大臣ニ申出ツヘシ但シ爾後借入ノ必要ヲ生シタルモノニ付テハ期日經過後ト雖申出ヲ爲スコトヲ得

第七條 前條ノ規定ニ依リ地方長官ノ申出アリタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ之ヲ調査シ大藏大臣ニ協議ノ上割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ割當額ヲ決定シタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ直チニ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス

第八條 地方長官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ預金部資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 資金ノ供給ヲ受ケムトスルモノノ公共團體ナルトキハ預金部資金供給稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達スルモノトス但シ起債ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ付テハ起債許可稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達シ之ニ代フルコトヲ得
二 資金ノ供給ヲ受ケムトスルモノノ公共團體以外ノモノナルトキハ其ノ資金借入手續ニ付法令其ノ他ノ規定ニ違反スルコトナキヤ及借入金ノ償還能力確實ナリヤ否ヤヲ調査シ適當ト認メタルトキハ銀行其ノ他ノ經由機

預金部地方資金貸付規程

部ニ於テ當該地方債引受ノ方法ニ依ルモノトス
前項以外ノモノニ對スル貸付ハ北海道ニ於テハ北海道拓殖債券府、縣ニ於テハ勸業債券及農工債券引受ノ方法ニ依ルモノトス
産業組合及産業組合聯合會ニ對スル貸付ハ前項ノ債券ノ外産業債券引受、重要輸出品工業組合及重要輸出品工業組合聯合會ニ對スル貸付ハ前項ノ債券ノ外興業債券引受ノ方法ニ依ルモノトス

第十四條 前條ノ規定ニ依リ引受クヘキ地方債及債券ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要ナル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ノ預金部資金貸付ハ定期又ハ年賦トシ産業組合中央金庫及日本興業銀行ノ預金部資金貸付ハ定期又ハ手形割引トス
前項ノ定期貸付ノ償還期限ハ五年以内トシ年賦貸付ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要ナル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトヲ得

日本興業銀行及産業組合中央金庫ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定アリタルトキハ貸付資金ノ交付ヲ受クル爲大藏省預金部ニ對シ債券ノ引受ヲ申請スヘシ

第二十一條 大藏省預金部ニ於テ前條ノ規定ニ依リ債券引受ノ申請ヲ受ケタルトキハ第十七條乃至第十九條ノ例ニ依リ之カ引受ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ前二條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スヘシ

第二十三條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行及産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且ツ左記事項ヲ規定スヘシ
一 債務者カ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ互リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セサルトキハ之ヲ返還スルコト

二 大藏省預金部ハ債務者ニ就キ臨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトアルヘキコト
第二十四條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、

預金部地方資金貸付規程

第二節 地方債ノ引受

第十六條 道、府、縣及六大都市ニ於テ預金部資金供給決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方債引受請求書ニ償還年次表ヲ添ヘ大藏省預金部ニ提出スヘシ但シ證券發行情日ハ引受請求書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條 大藏省預金部ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ地方債ノ引受ニ關スル命令ヲ日本銀行ニ發スヘシ

第十八條 日本銀行ニ於テ前條ノ命令ヲ受ケタルトキハ地方債ノ引受ヲ爲スヘキ旨ヲ道、府、縣又ハ六大都市ニ通知シ證券發行情日ニ道、府、縣市金庫(又ハ市收入役)ニ對シ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 日本銀行ハ前條ノ規定ニ依リ拂込金ニ對シ證券ヲ受領シ之カ保管ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節 勸業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券及産業債券引受

第二十條 日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定アリタルトキ及第十條ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ貸付資金ノ交付ヲ受クル爲大藏省預金部ニ對シ債券ノ引受ヲ申請スヘシ

日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ勸業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券又ハ産業債券ノ拂込ヲ受ケタル金額中貸付不用ニ歸シタルモノアルトキハ直ニ其ノ金額ニ相當スル債券ノ償還ヲ爲スヘシ但シ券面額ニ充タサル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十五條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲナシタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スヘシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號ニ關スルモノハ内務大臣、大藏大臣及地方長官ニ、第二條第三號乃至第七號ニ關スルモノハ農林大臣、大藏大臣及地方長官ニ、第二條第八號ニ關スルモノハ商工大臣、大藏大臣及地方長官ニ提出スヘシ

第二十六條 道、府、縣及六大都市ニシテノ地方債發行ニ依リ交付ヲ受ケタル預金部資金ヲ轉貸スル場合ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用シ貸付報告書ハ内務大臣、大藏大臣及地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第六章 償還及利子拂

第二十七條 道、府、縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央

金庫ニ於テ預金部引受ニ係ル債券ノ元利金ノ支拂ヲ爲サ
ムトスルトキハ日本銀行本店ニ對シ元利金内譯書ヲ添ヘ
テ送金シ大藏省預金部ニハ之ニ關スル元利金支拂計算書
ヲ送付スヘシ

第二十八條 大藏省預金部ニ於テ前條元利金ノ受入ヲ爲サ
ムトスルトキハ其ノ納入ニ關スル命令書ヲ日本銀行ニ發
スヘシ日本銀行ニ於テ前項ノ命令ヲ受ケタルトキハ之カ
納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第七章 雜則

第二十九條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、
日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ニ於ケル預金部資金
ノ勘定ハ別ニ帳簿ヲ設ケ他ノ勘定ト區別スヘシ

第三十條 道、府、縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀
行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金
庫ハ毎年十二月末日現在ヲ以テ預金部資金ノ使用又ハ貸
付狀況ヲ翌年二月末日迄ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第三十一條 本規程ハ昭和三年十一月七日ヨリ之ヲ施行ス
第三十二條 地方貸付資金取扱順序、耕地整理事業及產業
組合資金取扱順序、森林組合資金取扱順序、漁業組合資
金取扱順序、畜産組合資金取扱順序ハ之ヲ廢止ス
第三十三條 従前ノ取扱順序ニ依リ供給シタル低利資金ノ

輸出組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字
ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 同一又ハ重複スル地區ニ於テ二個以上ノ同種ノ輸
出組合ヲ設立スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ
ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部
ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第七條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對
シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ主
務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ
得

第九條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキ
ハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸出組合ノ組合員ニ
非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格
ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依
ラシムルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之
ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタ
ル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ

輸出組合法

取扱ニ付テハ本規程ヲ準用ス

輸出組合法

大正十四年三月二十八日法律第二十七號

第一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同
一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ其ノ輸出
貿易ノ振興ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ輸出組
合ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 輸出組合ハ法人トス

第三條 輸出組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、
選別、包裝、荷造其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施
設

二 組合員ノ營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ナル取締又
ハ事業經營ニ對スル制限

三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的ヲ
達スルニ必要ナル施設

第四條 輸出組合ハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字ヲ用フ
ヘシ

登記スヘキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其
ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條 輸出組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定
メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數
ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ
定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル
場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ召集スル
コトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意
者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ
議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人
タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定

- 六 組合員ノ加入脱退ニ關スル規定
- 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
- 九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
- 十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 十二 役員ニ關スル規定
- 十三 會議ニ關スル規定
- 十四 會計ニ關スル規定
- 十五 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 第十六條 輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ
登記スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項
 - 二 事務所
 - 三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
 - 四 設立認可ノ年月日
 - 五 理事及監事ノ氏名及住所

ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ
組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ノ責任ハ第六條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ
理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ

- 選任ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
- 第二十一條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超ユサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
- 第二十二條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ
前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者輸出組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得
組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

第二十五條 検査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス
 出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對ス辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 第三十一條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
 申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事力清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス
 輸出組合カ命令ニ因リテ解散シタル時ハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ
 第三十二條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
 第三十三條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第

三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第三百三十八條、第三百三十八條ノ二、第三百四十一條乃至第三百五十一條ノ六、第三百五十四條乃至第三百五十八條、第三百六十五條、第三百七十五條、第三百七十六條、第三百七十八條並產業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條（第一項第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第四百條ノ規定ハ輸出組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ產業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ主務大臣トス

第三十四條 主務大臣ハ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ輸出組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

十四 組合員ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

第三十六條 第九條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

五 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

第三十七條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第三十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

第三十九條 輸出組合ノ證券若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

八 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ實權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

第四十條 輸出組合ノ理事、監事又ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ

相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ
全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ
追徴ス

第四十一條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、
提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下
ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又
ハ免除スルコトヲ得

第四十二條 第三十九條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例
ニ、第四十條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸出組合法施行規則

大正十四年八月二十八日商工省令第九號

第一條 輸出組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タルヘキ
者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員
タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ
一 地區

二 組合員タル資格

三 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

四 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦セムトスル組合ニ在リテ
ハ其ノ分賦收入方法

五 事業計畫概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之
ヲ爲スヘシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滞ナク之ヲ商
工大臣ニ届出ツヘシ

第二條 輸出組合法第十二條第二項ノ規定ニ依ル創立總會
招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一 特別ノ事由ヲ記載シタル書面

二 組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證ス
ル書面

第三條 輸出組合法第十二條第一項ノ同意者アリタルトキ
又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人
ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クとも二週間前ニ會議ノ目的
タル事項、日時及場所ヲ設立同意者ニ通知スヘシ

第四條 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創
立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク法定
ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總
會ノ決議録ノ謄本及左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ
添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 事業計畫

二 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法

三 引受アリタル出資ノ總口數

四 理事及監事ノ氏名及住所

五 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ
經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第六條 輸出組合法第二十條第三項ノ規定ニ依ル理事選任
ノ認可申請書ニハ履歷書、總會又ハ創立總會ノ決議録ノ
謄本及其ノ選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七條 役員又ハ清算人ノ受クヘキ給與ハ定款又ハ總會若
ハ創立總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第八條 定款變更ノ認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ
添附スヘシ

定款ノ變更カ出資一口ノ金額ノ減少ニ關スルモノナルト
キハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲ケタル書面ノ外財産目
録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第九條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經
費

輸出組合法施行規則

費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ遲
滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第十條 財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分
案ニ付總會ノ承認アリタルトキハ組合ハ其ノ決議録ノ謄
本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒ
タル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲
スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ
超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ム
ル所ニ依リ年一割迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ
新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ
其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員ニ
對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタル場合ニ
於テ其ノ殘額ニ付亦同シ

第十三條 組合員ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メムトスルトキハ
定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫
告ヲ爲スヘシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 検査員ノ選任認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘ
キ

第十五條 検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

検査員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他懲戒ヲ爲サムトスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本、財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十七條 合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本、財産目録、貸借對照表、合併契約ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スヘシ

第十八條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

一 定款ノ施行ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 事業經營ニ對スル制限ヲ實施シ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

三 事務所、理事、監事、清算人、定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散又ハ清算終了ノ登記ヲ爲シタルトキ

第十九條 輸出組合法第九條ノ規定ニ依ル命令ハ組合及其ノ依ラシムヘキ事項ヲ指定シ豫メ之ヲ通知ス其ノ命令ヲ

變更又ハ廢止セムトスルトキ亦同シ

商工大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ組合ニ通知ス

第二十條 前條第二項ノ通知アリタル後組合ニ於テ當該事項ヲ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

本則ハ輸出組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸出組合法ノ規定ニ依ル重要輸出品指定告示

大正十四年八月二十八日商工省告示第七號
改正昭和四年一月商工省告示第四二號
改正昭和四年二月商工省告示第五一號

輸出組合法第一條第二項ノ規定ニ依リ重要輸出品ヲ左ノ通指定ス

綿織物(交織物ヲ含ム) 同製品及綿織絲
絹織物(交織物ヲ含ム) 同製品及紡績絹織絲
毛織物(交織物ヲ含ム)
莫大小及同製品 綿縫絲及レース絲
時計 陶磁器
珐瑯 鐵器 硝子製品
セルロイド製品 漆 磁器

護 護 製 品 紙 染料、顔料、塗料及工業藥品

化 粧 品 漆 器

賣 田 玩 具

眞 鈕 釦 刷 子

洋 傘 帽 子

革 及 同 製 品 木竹類製品

扇子及團扇 文房具

花 薺、野 草 薺 其 他 敷 物 水産物(製造物ヲ含ム)

乾 物 罐 頭 詰 食 物

果 實 百 合 根

除 蟲 菊 及 同 製 品 自 轉 車

蔬 菜 豆 類

人 造 眞 珠 類

重要輸出品工業組合法

大正十四年三月二十八日法律第二十八號

第一條 重要輸出品ノ製造ニ關スル工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 工業組合ハ法人トス

第三條 工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ製品、其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル検査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限

二 共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三 組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合員ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲スコトヲ得

第四條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フヘシ

工業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ検査其ノ他ノ施設ヲ命スルコト

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第九條 工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物産同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セス又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得

第十條 本法ニヨリ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ

第十二條 工業組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ召集スルコトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ工業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ三ノ二分以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第十五條 工業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
- 九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

第十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定

第十二 役員ニ關スル規定

第十三 會議ニ關スル規定

第十四 會計ニ關スル規定

第十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

一 前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第十八條 組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

理事力正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間内ニ總會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ召集スルコトヲ得

第二十條 工業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十一條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但

シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十二條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ加入セシトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ工業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 検査ヲ行フ工業組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 工業組合ニ關スル規定ハ第三十八條ノ規定ニヨリ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第三十四條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議錄、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニヨル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタ

重要輸出品工業組合法

第二十六條 工業組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規定ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 行政官廳必要ト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 行政官廳必要ト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ハ法人トス

第三十條 工業組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十二條 工業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但

ル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定セル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事力清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

工業組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十七條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十八條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十

一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ二、第百四十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條並産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ二乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條（第一項第四號ヲ除ク）第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十八條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合法中主務大臣、地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ工業組合ノ理事、監事又ハ

清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
- 二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
- 三 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
- 五 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ
- 六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
- 七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ
- 八 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
- 九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ
- 十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合ノ財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十條 第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 工業組合ノ證券若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 工業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ

重要輸出品工業組合法施行規則

全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十五條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十六條 第四十三條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十四條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

重要輸出品工業組合施行法規則

大正十四年八月二十八日商工省令第七號

第一條 工業組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タルヘキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

- 一 地區
- 二 組合員タル資格

- 三 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
 - 四 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦セムトスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
 - 五 事業計畫概要
- 設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スヘシ
- 發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滞ナク之ヲ主タル事務所設置豫定地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二條 重要輸出品工業組合法第十二條第二項ノ規定ニ依ル創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ
- 一 特別ノ事由ヲ記載シタル書面
 - 二 組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面
 - 二種以上ノ工業者ヲ以テ組合ヲ設立セムトスルトキハ前項第二號ノ書面ハ工業ノ種類別ニ之ヲ記載スヘシ
- 第三條 重要輸出品工業組合法第十二條第一項ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ
- 創立總會ヲ招集スルニハ少クとも二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ設立同意者ニ通知スヘシ

- 第四條 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ
 - 第五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本及左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ
- 一 事業計畫
 - 二 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法
 - 三 引受アリタル出資ノ總口數
 - 四 理事及監事ノ氏名及住所
 - 五 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法
- 第六條 總代會ハ組合員百人以上ノ組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
- 總代會ハ組合員中ヨリ選舉シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス
- 總代ノ定數、任期及選舉ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

- 第七條 重要輸出品工業組合法第二十條第三項ノ規定ニ依ル理事選任ノ認可申請書ニハ履歴書、總會又ハ創立總會若ハ總代會ノ決議録ノ謄本及其ノ選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第八條 役員又ハ清算人ノ受クヘキ給與ハ定款又ハ總會、創立總會若ハ總代會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ムヘシ
- 第九條 定款變更ノ認可申請書ニハ總會又ハ總代會ノ決議録ノ謄本ヲ添附スヘシ
- 定款ノ變更ハ出資一口ノ金額ノ減少ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲ケタル書面ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ
- 第十條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十一條 財産目録、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ組合ハ其ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

- 第十二條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス
- 持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ増加スルコトヲ得
- 第十三條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同シ
- 第十四條 組合員組合ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫告ヲ爲スヘシ
- 前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十五條 検査員ノ選任認可申請書ニハ履歴書ヲ添附スヘシ
- 第十六條 検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲

戒ニ關スル規定ヲ設ケヘシ
検査員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他懲戒ヲ爲サムト
スルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十七條 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ
決議録ノ謄本、財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十八條 合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本、財
産目録、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存続ス
ル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スヘ
シ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官
ニ届出ツヘシ

一 定款ノ施行ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタル
トキ

二 事業經營ニ對スル制限ヲ實施シ又ハ之ヲ改廢シタル
トキ

三 事務所、理事、監事、清算人、定款ニ定メタル事由
ノ發生ニ因ル解散又ハ清算終了ノ登記ヲ爲シタルト
キ

第二十條 重要輸出品工業組合法第八條ノ規定ニ依リ組合
ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有シ組合員ニ非サル者
ヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシメムトス

五 經費ノ一部ヲ所屬ノ組合及聯合會ニ分賦スル聯合會
ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方
法

第二十五條 組合ニ關スル規定ハ第一條乃至第三條、第五
條及第六條ノ規定ヲ除クノ外聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ
地方長官トアルハ地區カ道府縣ノ區域ヲ超ユル聯合會ニ
關スル場合ニ在リテハ商工大臣トス

第二十六條 重要輸出品工業組合法第七條、第十二條第二
項及第三十六條第四項並第三十八條ノ規定ニ依リ準用シ
タル産業組合法第六十五條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ商
工大臣トス

重要輸出品工業組合法第十九條、第二十條、第二十五條
乃至第二十八條及第三十二條並第三十八條ノ規定ニ依リ
準用シタル民法第五十九條、産業組合法第二十四條、第
三十九條、第六十條第二項、第六十條ノ二、第六十一條
第七十三條ノ二及第七十三條ノ三ニ於テ行政官廳又ハ主
務官廳ト稱スルハ地方長官（解散ニ付テハ商工大臣）ト
ス但シ地區カ道府縣ノ區域ヲ超ユル聯合會ニ關スル場合
ニ在リテハ商工大臣トス

重要輸出品工業組合法第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタ
ル産業組合法第六十條第一項ニ於テ行政官廳ト稱スルハ

重要輸出品工業組合法ノ規定ニ依ル重要輸出品指定告示

ル場合ニ於テハ商工大臣ハ豫メ組合、其ノ依ラシムヘキ
事項及組合ノ取締又ハ制限ニ從フヘキ者ノ資格ヲ指定シ
之ヲ告示ス

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ指定セラレタル資格ヲ有ス
ル者ハ其ノ指定ニ從ヒ組合ノ取締又ハ制限ニ依ルコトヲ
要ス但シ特別ノ事由ニ因リ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル者
ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 第二十條ノ指定アリタル後組合ニ於テ指定セ
ラレタル事項ニ關スル定款ノ施行規則ヲ變更セムトスル
トキハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十三條 聯合會ヲ設立セムトスルトキハ所屬ノ各組合
及聯合會ノ理事及監事中ヨリ創立委員二名ヲ選任スヘシ

第二十四條 創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定
款、創立委員會ノ決議録ノ謄本、聯合會設立ニ關スル所
屬ノ組合及聯合會ノ總會又ハ總代会ノ決議録ノ謄本並左
ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ聯合
會ノ設立認可申請書ヲ差出スヘシ

- 一 事業計畫
- 二 聯合會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法
- 三 引受アリタル出資ノ總口數
- 四 理事及監事ノ氏名及住所

商工大臣及組合又ハ聯合會ノ地區ヲ管轄スル地方長官ト
ス

第二十七條 本則中地方長官ト稱スルハ別段ノ定アル場合
ヲ除クノ外主タル事務所所在地ノ地方長官トス

附 則

本則ハ重要輸出品工業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品工業組合法ノ規定ニ

依ル重要輸出品指定告示

大正十四年八月二十八日商工省告示第六號
改正大正十五年十一月商工省告示第三一號

重要輸出品工業組合法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要輸出
品ヲ左ノ通指定ス

綿織物(交織物ヲ含ム)	絹織物(交織物ヲ含ム)
毛織物(交織物ヲ含ム)	布帛製 品
莫大小及同製品	時 計
金屬製 品	陶 磁 器

珉	硝子製品
瑯	硝子製品
鐵	硝子製品
器	硝子製品
セルロイド製品	燐寸
護	漆器
謨	漆器
製	漆器
品	漆器
眞	田
鈕	刷
子	子
帽	鉛筆
人造眞珠	花莖及野草莖
白轉車	

社團又ハ財團法人設立ノ件

明治三十二年一月農商務省令第一號

第一條 農商務省ノ主管ニ屬スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ノ規定ニ依リ法人トシテ設立スルノ許可ヲ得ントスルモノハ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第二條 前條ノ手續ヲ經テ設立シタル法人ヨリ農商務大臣ニ願出又ハ届出ヲナストキハ總テ其ノ主タル事務所所在地

地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

道府縣手数料令

明治四十三年五月四日勅令第二一九號
改正昭和二年三月勅令第四一號

第一條 道府縣ハ左ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得但シ東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一 賣藥部外品ニ關スル各種ノ免許手数料並同免許鑑札名義書換及再渡手数料

一 鐵術炎術按摩術「マツサージ」術柔道整復術免許試驗手数料、同免許手数料及同免許鑑札再渡手数料

一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受ケルモノヲ除ク)免許試驗手数料、同免許手数料及同免狀再渡手数料

一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品検査手数料同検査證明手数料

一 重要物産検査手数料及同検査證明手数料

第二條 検査ヲ行フ重要物産ノ種類並前條ノ手数料額及手

敷料ノ免除ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

明治四十三年五月十八日農商務省令第六號
改正 昭和四年七月農林商工省令

第一條 明治四十三年勅令第二百十九號第二條ニ依ル重要物産ノ種類ヲ左ノ通指定ス

米、雜穀、砂糖、蠶工品、織物、青莖、花莖、原料藓、木炭、阿且葉帽子、紙摺帽子、燐寸、硝子製品、珉瑯鐵器、製帽用眞田、莫大小製品、澱粉、鉛筆及鉛筆心、果樹苗木、桑苗木、果樹砧木、觀賞植物、縫針、罐詰、亞麻莖、除蟲菊、薄荷取卸油、苹果、西瓜、菌製墨表

第二條 検査手数料ハ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

米	一俵一袋又ハ一叭ニ付	金 十 錢
雜穀	同 上	金 七 錢
砂糖	一樽、一俵又ハ一袋ニ付	金 七 錢
織物	一匹又ハ一本ニ付	金 二 錢

但シ輸出向ニ非サル小幅絹織物ニ在リテハ一匹ニ付金

道府縣手数料令 重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

青莖	一束ニ付	金 三 錢
花莖	但シ十枚ヲ以テ一束トス十枚未滿亦同シ	金 三 錢
原料藓	但シ二十間ヲ以テ一卷トス二十間未滿亦同シ	金 二 錢
木炭	但シ重量五貫ヲ以テ一丸トス五貫未滿亦同シ	金 二 錢
阿且葉帽子	一箇ニ付	金 一 錢
紙摺帽子	噸箱一箇ニ付	金 十 錢
燐寸	四十才一箱ニ付	金 十 錢
硝子製品	同 上	金 十 錢
珉瑯鐵器	一段ニ付	金 五 厘 五 毛
製帽用眞田	一打ニ付	金 七 錢
莫大小製品	一袋又ハ一箱ニ付	金 九 錢
澱粉	一哥ニ付	金 十 五 錢
鉛筆及鉛筆心	十哥ニ付	金 十 錢
鉛筆心	一本ニ付	金 二 厘
果樹苗木	十本ニ付	金 三 厘
桑苗木又ハ果樹砧木	一本又ハ一株ニ付	金 六 厘

觀賞植物	十塊又ハ十球ニ付	金五厘
縫針	一萬本ニ付	金四厘
罐詰	一箱ニ付	金八錢
亞麻莖	一貫ニ付	金三厘
除蟲菊	一貫ニ付	金一錢
薄荷取卸油	一斤ニ付	金八錢
苹果	一貫ニ付	金五厘
西瓜	一箇ニ付	金四厘
蘭製墨表	一枚ニ付	金一錢
米、雜穀又ハ澱粉ニ付生産検査、移出検査又ハ輸出検査等二種以上ノ検査ヲ行フ場合ニ在リテハ其ノ各検査手数料ノ額ハ前項ノ制限ニ依ルノ外之ヲ合セテ米又ハ澱粉ニ付テハ金十五錢、雜穀ニ付テハ金十二錢ヲ超ユルコトヲ得ス		

第三條

道府縣ニ於テ重要物産ノ検査ヲ行ハムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 検査ヲ行フ重要物産ノ種類

一 検査ニ關スル規程

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ検査手数料ノ額並其ノ徴收ヲ免除セムトスルトキハ其ノ場合及事由ヲ記載シタ

ル書面ヲ添附スヘシ其ノ記載事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨主務大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要物産ノ検査ニ關スル取扱方

ノ件

明治四十三年五月二十四日農第八一八六號次官通牒
改正 明治四十四年四月農第七一二一號

五月十八日農商務省令第六號發令相成候ニ付テハ同第三條ニ依リ認可申請ノ際ハ左記ノ事項詳細御報相成度

追テ同第一條ニ該當スル重要物産ニシテ從來検査施行相成居候モノハ此ノ際至急認可申請相成度但シ左記事項ハ既ニ報告済ノモノハ此ノ際報告ヲ要セス

依命右通牒ス

一 検査ヲ必要トスル事由及検査施行ニ對スル當業者ノ意向

一 検査ニ要スル經費ノ豫算又ハ概算

一 一箇年間ニ検査ヲ行フ見込數量

一 米穀検査ニ在リテハ地主ト小作人トノ利益分配ヲ

公平ナラシムル爲地主ヨリ小作人ニ對シ補給米金交付ニ關スル施設並地主ノ意向

一 府縣ニ於テ新ニ米又ハ雜穀ノ検査ヲ開始スル場合ニ於テ從來同業組合又ハ同業組合聯合會力既ニ其ノ検査ヲ施行セルトキハ從前ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ノ検査事業ヲ存續セシムルヤ否ヤ及之ヲ存續セシムルモノトセハ府縣ノ検査事業トノ關係ニ關スル意見

昇汞水及格魯兒石灰水ヲ蠶室及

蠶具ノ消毒ニ使用スル場合ニ於

ケル注意ノ件

大正四年一月十六日附農第二八六號農務局長通牒

今回時局ノ影響ニ依リ蠶種製造者ノ使用スヘキ「フォルマリオン」ノ價格自然騰貴ヲ來シ營業上不利尠ナカラスト被認候ニ付蠶絲業法施行規則第十九條ヲ改正シ昇汞水及格魯兒石灰水ヲ以テ蠶室又ハ蠶具ノ消毒ヲ爲シ得ルノ途啓カレ候ニ付テハ當業者力之ヲ使用スル場合ニ於テ遺憾ナカラシムル爲左記事項ヲ普ク示達相成度依命此段及通牒候也

記

重要物産ノ検査ニ關スル取扱方ノ件
昇汞水及格魯兒石灰水ヲ蠶室及蠶具ノ消毒ニ使用スル場合ニ於ケル注意ノ件

一 昇汞水ハ無色無臭ニシテ猛毒ヲ有スル爲人體ニ危険ヲ及ボス虞アルニ依リ之ヲ使用ノ際特ニ注意ヲ拂フヘキハ勿論之ヲ貯藏スルニハ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ一見識別ニ容易ナラシメ且之ヲ取扱ハ炊事場、飲食物貯藏場又ハ飲料水ニ滲透スヘキ場所等ニ於テ行フヘカラサルコト

一 昇汞水ハ日光ノ照射ニ依リ變質シ消毒ノ效力ヲ減耗スルヲ以テ成ルヘク使用ノ都度之ヲ調製シ日光ノ直射セサル場所ヲ選ヒテ消毒ヲ行フヘシ又其ノ殘液ハ溝渠河川等ニ流棄スヘカラサルコト

一 昇汞水ヲ以テ消毒スルニハ成ルヘク長ク濕潤ノ状態ニ在ラシムルヲ可トスルヲ以テ蠶具ノ如キハ堆積シ置キタル後洗滌若ハ乾燥ヲ爲スヘキコト

一 昇汞水ハ金屬ヲ侵蝕スルノ性アルヲ以テ之ヲ貯藏ニ金屬製容器ヲ用ヒサルハ勿論消毒ノ際使用シタル金屬製器具ハ直ニ淨水ヲ以テ洗滌スヘキコト

一 格魯兒石灰水ハ甚シク有機色素ヲ脱色セシムル性質アルヲ以テ衣類等ニ接觸セサル様注意シ又木材ヲモ漂白シ殊ニ水滴ヲ形成スル場合ニ於テハ其ノ部分ノミ永ク漂白作用ヲ受ケ外觀ヲ損スルコト甚シキコトアルヲ以テ撒布後ハ時々注意シ水滴ヲ生シタルトキハ之ヲ散セ

- シメ三十分ヲ經タル後淨水ヲ以テ洗滌スルコト
- 一 格魯兒石灰水ハ金屬及獸皮ヲ侵蝕スルノ性アルヲ以テ噴霧器ヲ用キル場合ニ在リテハ唧子ニ附著セル獸皮ハ豫メ油類ニ浸漬シ尙使用後ニ於テハ充分各部ヲ洗滌スルコト

昇汞及鹽酸販賣ニ關スル件

群馬縣知事ヨリ大正四年二月三日附衛第四五六號ヲ以テ衛生局長ニ宛照會シタル昇汞及鹽酸販賣ニ關シ藥品營業並藥品取扱規則適用ニ關スル件ハ左ノ意味ヲ以テ決定シ地方官ニ之ヲ通牒シタル旨同年二月八日附衛群第一七號ヲ以テ衛生局長ヨリ農務局長ニ通牒シ來レリ

- 一 藥品營業者ハ蠶種製造者ニ對シ蠶病豫防心得中ニ規定セラレタル昇汞水溶液ハ勿論ナルモ昇汞及鹽酸ヲモ藥律第三十條ニ依リ職業上必要ナルモノト認メ販賣シ差支ナシ
- 二 從來蠶種製造者ニアラサル養蠶業者カ蠶病豫防ノ爲「フォルマリン」ノ使用ニ關シテハ之又職業上必要ナルモノト認メタリシカ昇汞ノ使用ニ付テモ同様ニ解釋シ差支ナシ

五 地方ニ於ケル原蠶種ノ製造配付ハ當省蠶業試驗場ノ事務ニ關係チ及ホスコトアルニ依リ之カ計畫ニ付テハ其ノ設定變更共ニ各管轄地ノ蠶業試驗場支場ト打合セテ爲スコト

六 原蠶種製造所費ニ對スル國庫補助ハ原蠶種ノ製造配付ニ關スル費用ノミニ交付スヘキモノナルニ依リ試驗、調査、講習等ヲ併セ行フトキハ蠶絲業改良獎勵費交付規則第五條ニ依リ添付スヘキ豫算書ヲ原蠶種製造配付ニ要スル費用ト其ノ他ノ費用トニ區別シ記載スルコト

蠶絲業改良獎勵費國庫補助ニ關スル件

大正十二年八月二十日附農第八六六一號農務局長依命通牒

蠶絲業改良獎勵費交付規則中繭質改良整理ニ關スル國庫補助ノ件ニ就テハ大正五年八月三日附農第八〇七九號ヲ以テ通牒置候處大正十三年度ヨリ場長又ハ專任擔當者ノ俸給ニ對スル補助率ヲ支給豫定額ノ三分ノ一ニ變更シ尙原蠶種ノ製造配付ニ關係アル試驗ノ經費ニ對シテハ特ニ補助可相成

昇汞及鹽酸販賣ニ關スル件 繭質改良獎勵費國庫補助ノ件
蠶絲業改良獎勵費國庫補助ニ關スル件
文部省直轄學校ヨリ配付スヘキ蠶種ノ件

繭質改良獎勵費國庫補助ノ件

大正五年八月三日附農第八〇七九號農務局長通牒

明治四十四年農商務省令第二十一號蠶絲業改良獎勵費交付規則中繭質改良整理ニ關スル國庫補助ニ就テハ自今左記事項御承知置キ相成度依命此段及通牒候也

記

- 一 原蠶種製造所長トシテ專ラ其ノ任ニ當ル者ノ適否ハ此ノ事業ノ成敗ニ多大ナル關係ヲ有スルニ依リ豫メ當省ト打合セテ經タル者ナルトキハ其ノ俸給年額ノ半額ヲ補助スルコト
- 二 所長他ニ本務ヲ有シ原蠶種製造所長ヲ兼ヌルモノナルトキハ他ノ專任擔當者ニ前號ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルコト
- 三 第一號ノ規定ニ依ル打合セテ爲サムトスルトキハ其ノ氏名、俸給年額ヲ記載シタル申請書ニ履歷書ヲ添付シ差出スコト
- 四 蠶絲業改良獎勵費交付規則第五條ニ依リ差出スヘキ申請書中ニハ第一號ノ規定ニ依リ打合セテ經タル者ノ氏名及現ニ受クル所ノ俸給額ヲ記載スルコト

候ニ付右御了知相成度此段及通牒候也

文部省直轄學校ヨリ配付スヘキ蠶種ノ件

大正七年三月九日附農第二六七二號文部大臣宛農商務大臣通牒

貴省直轄農蠶ニ關スル學校ニシテ學術研究ノ爲蠶種ノ製造配付ヲ爲サムトスル場合又ハ蠶絲業法第四條第一項ノ費用ヲ免レムトスル場合ニハ從來許可ノ手續ヲ要シ候處今回蠶絲業法ノ改正ニ伴ヒ同法施行規則ヲ改正シ總テ之ヲ要セサルコトニ相定メ又其ノ配付蠶種ハ同法施行規則第七十一條ノ規定ニ依リ之ヲ原蠶種又ハ普通蠶種ト指定致シ候ニ就テハ之カ製造及検査ノ方法ハ原蠶種ト爲スヘキモノニ在リテハ同法施行規則中蠶種ニ關スル規定ニ、普通蠶種ト爲スヘキモノニ在リテハ普通蠶種ニ關スル規定ニ準據セシメ且之ニ押捺スヘキ證印ハ原蠶種ハ様式第十九號、普通蠶種ハ様式第二十號ニ準セシメラレ候様訓令相成尙配付蠶種ニ關シ前年ニ於ケル事項ヲ左記様式ニ依リ毎年三月三十一日迄ニ本大臣ニ報告セシメラレ度此段及通牒候也

記

蠶業取締所設備費ニ對スル國庫補助ノ件

大正八年七月八日附農第一〇八九號農務局長通牒

優良蠶種ノ生産ハ蠶絲業改良發達上最肝要ノコトタルニ依リ蠶絲業法中ニ之レカ検査ノ方法ヲ規定シ多年實施セラレル次第ニ有之候處蠶業取締所ニ於ケル鏡檢室及検査用具ノ設備尙未タ完タカラサルモ多ク爲ニ鏡檢、洗滌等ノ作業ニ尠ナカラス不便ヲ感スルノミナラス往々事務ノ滯滞ヲ來シ處理上錯誤ヲ招クノ事實ヲ生シ延テ立法ノ趣旨ヲ貫徹シ難キ憂有之候ニ付テハ之カ完備ヲ期スル爲大正九年度ヨリ地方蠶病豫防ニ關スル經費トシテ蠶業取締所ノ設備費ヲ計上セラレタル場合ニハ之ニ對シテモ相當補助セラルル筈ニ有之候條明年度事業計畫ノ御參考迄ニ特ニ御承知置キ相成度依命此段及通牒候也

蠶絲業法施行ニ關スル吏員設置ノ件

大正九年八月十七日附農局第一三二七號

從來蠶病豫防事務ノ爲地方ニ配置セラレタル技師又ハ技師ハ蠶業取締所規程改正ノ結果産業技師又ハ産業技師ト爲スニ非サレハ蠶業取締所長ト爲スヲ得サルヤノ件ニ付問合セノ向モ有之候處右國庫支辨ノ官吏ハ當然蠶業取締所長又ハ

蠶病豫防事務ノ爲地方ニ配置シタル技師及技師ノ件

大正九年八月十九日附農局第一三五五號

從來蠶病豫防事務ノ爲地方ニ配置セラレタル技師又ハ技師ハ蠶業取締所規程改正ノ結果産業技師又ハ産業技師ト爲スニ非サレハ蠶業取締所長ト爲スヲ得サルヤノ件ニ付問合セノ向モ有之候處右國庫支辨ノ官吏ハ當然蠶業取締所長又ハ

其ノ職員ト爲スヲ得ル義ニ有之候條御承知相成度爲念此段及通牒候也

蠶蛆ノ豫防驅除ニ關スル件

昭和三年十月三十一日附三蠶局第三一一號農林省蠶絲局長通牒

本年晚秋期ニ於テ三重、愛知、岐阜其ノ他ノ府縣ニ一種ノ多化性蠶蛆多數發生シ之カ寄生ヲ受ケタル蠶兒ハ結繭不能ニ陥ルモノ多ク營繭スルモ薄皮繭又ハ死繭繭トナリ其ノ被害尠ナカラス候處其ノ種類、經過、習性等ニ關シテハ尙今後研究ヲ要スヘキモノ有之候ヘ共既往ノ調査ニ據レハ此ノ種ノ蠶蛆ハ野外ニ棲息スル野蠶、桑尺蠖類其ノ他蝸蠃類ヲ寄主トスルモノニシテ廣ク各地方ニ分布シ居ルモノノ如ク本年春蠶期桑樹凍害後ニ於テ多數發生セル前記害蟲類ニ寄生繁殖シ延テ蠶兒ニ被害ヲ與ヘラレタルモノト認メラレ明年モ亦之ヲ繰リ返スヤ否ヤハ固ヨリ豫測ノ限リニ無之候モ將來之カ蔓延ヲ見ルカ如キコト有之候テハ蠶業上由々敷大事ト被存候ニ付差當リ之レカ豫防策トシテ冬期間ニ於テ桑園ノ害蟲驅除ヲ一層勵行シ明年ニ於ケル該蠶蛆ノ繁殖蔓延ヲ防除スル様洽ク貴管下當業者ニ周知セシメ右督勵方特ニ御配慮相成度此段及通牒候也

蠶業取締所設備費ニ對スル國庫補助ノ件 蠶絲業法施行ニ關スル吏員設置ノ件 蠶病豫防事務ノ爲地方ニ配置シタル技師及技師ノ件 蠶絲業法施行手續標準 道府縣蠶絲業法施行手續標準

道府縣蠶絲業法施行手續標準

昭和四年十二月十四日附四蠶局第三五六號

- 第一條 蠶絲業法施行規則第一條ノ規定ニ依ル蠶種製造ノ免許願書ハ様式第一號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ
- 前項ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
 - 一 履歷書及蠶絲業法施行規則第二條第一項第四號ノ規定ニ該當セザル旨ノ市町村長ノ證明書
 - 二 蠶種製造ノ管理者ヲ置ク場合ニ於テハ管理者ニ付前號ノ書類
 - 三 蠶種製造又ハ蠶兒飼育ノ用ニ供スル建物ノ平面圖
 - 四 出願者法人ナルトキハ其ノ定款
- 蠶種製造ノ免許ヲ爲シタルトキハ様式第二號ニ依ル蠶種製造免許證ヲ交付ス
- 第二條 蠶種製造者死亡シ、業務ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ遲滞ナク蠶種製造免許證ヲ返納スベシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人、戶主又ハ家族ヨリ之ヲ返納スベシ
- 第三條 蠶絲業法施行規則第五條ノ規定ニ依ル蠶種製造届ハ何月何日迄ニ様式第三號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ

シ
前項ノ期日以後ニ於テ蠶種製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク前項ノ届書ヲ提出スベシ
第四條 蠶絲業法施行規則第六條ノ規定ニ依ル生繭取扱届ハ毎年何月何日迄ニ様式第四號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ但シ生繭取扱場所ヲ豫定スルコトヲ得ザル者ニ在リテハ生繭取扱開始ノ日ヨリ少クトモ何日前迄ニ之ヲ提出スベシ
毎年同一ノ場所ニ於テ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ニシテ其ノ旨ヲ前項ノ届書ニ附記シタルモノハ前項ノ届書ハ毎年之ヲ提出スルコトヲ要セズ
第五條 蠶絲業法施行規則第六條、第十二條及第十三條ノ規定ハ毎年何月何日以後(何地ニ又ハ何地以外ノ地ニ)之ヲ適用セズ
第六條 蠶絲業法施行規則第八條ノ規定ニ依ル業務承繼ノ許可ヲ受ケントスル者ハ家督相續又ハ遺產相續ノ別ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本並ニ第一條第二項第一號及第二號ノ書類ヲ添附シ知事ニ之ヲ提出スベシ
業務承繼ノ許可アリタルトキハ蠶種製造免許證ノ書換ヲ申請スベシ
第七條 蠶絲業法施行規則第十五條ノ規定ニ依ル蠶室及蠶

具ノ消毒ハ蠶兒ノ飼育又ハ蠶種ノ製造ヲ爲ス毎ニ其ノ前ニ於テ之ヲ行フベシ
第八條 蠶絲業法施行規則第十六條ノ掃立届ハ蠶種製造用蠶兒ノ掃立後遲滞ナク様式第五號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ
第九條 蠶絲業法施行規則第十八條第二項ノ規定ニ依リ掃立口ヲ合併シ又ハ分割シタルトキハ其ノ旨ヲ蠶種製造者ニ通知ス
第十條 蠶絲業法施行規則第二十條ノ規定ニ依ル蠶兒讓渡届ハ様式第六號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ
第十一條 蠶絲業法施行規則第二十一條ノ繭検査請求書ハ様式第七號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ
第十二條 蠶絲業法施行規則第二十二條第二項但書ノ許可ヲ受ケ蠶種製造用繭ヲ蠶兒飼育場所以外ニ搬出セントスル者ハ掃立届ト同時ニ様式第八號ニ依ル申請書ヲ知事ニ提出スベシ
第十三條 蠶絲業法施行規則第二十四條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ繭検査合格證又ハ種繭證明書ノ裏書ヲ申請セントスル者ハ様式第九號ニ依ル申請書ヲ知事ニ、同條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ種繭證明書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ様式第十號ニ依ル申請書ヲ讓渡人ノ所轄蠶

業取締所ヲ經由シ知事ニ提出スベシ
第十四條 蠶絲業法施行規則第二十五條第一項ノ規定ニ依ル蠶種製造廢止届ハ様式第十一號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ
蠶絲業法施行規則第二十三條ノ繭検査合格證又ハ同則第二十四條ノ種繭證明書アル種繭ニ依ル蠶種ノ製造ヲ廢止シタルトキハ全部ノ廢止ニ在リテハ其ノ繭検査合格證又ハ種繭證明書ヲ返納シ、一部ノ廢止ニ在リテハ様式第九號ニ依ル裏書申請書ヲ知事ニ提出スベシ
第十五條 蠶絲業法施行規則第二十七條第三項ノ符號ハ數字ヲ用ヒ、同則第三十條第一項第一號ノ記號ハ平假名ヲ用フベシ
第十六條 蠶絲業法施行規則第三十條第一項ノ規定ニ依リ蠶種ノ臺紙又ハ容器ニ記載スベキ品種名ハ交雜ニ依リ製造シタル蠶種ニ在リテハ雌蛾ヲ右ニ雄蛾ヲ左ニ記載スベシ
第十七條 蠶種ノ臺紙又ハ容器ニハ蠶絲業法施行規則第三十條、第四十七條第二項、第四十八條、第六十四條第三項又ハ第六十五條ノ規定ニ依リ記載スベキ文字ノ外文字若ハ圖形等ヲ記載シ又ハ著色スルコトヲ得ズ但シ知事ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ知事ニ提出スベシ
一 文字、圖形等及色合
二 許可ヲ受ケントスル理由
第十八條 蠶絲業法施行規則第三十一條第一項但書ノ許可ヲ受ケ新ニ化性又ハ品種名ヲ用ヒントスル者ハ蠶兒ノ掃立前ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ知事ニ提出スベシ
一 化性及品種名
二 品種ノ沿革
三 品種ノ特性
四 新ニ用ヒントスル化性又ハ品種名
五 許可ヲ受ケントスル理由
六 蠶種製造額豫定數
前項ノ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原蠶種ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
第十九條 蠶絲業法施行規則第三十二條第一項但書ノ承認ヲ受ケ蠶種ノ臺紙又ハ容器ニ記載シタル文字ノ訂正、増加又ハ抹消ヲ爲サントスル者ハ其ノ蠶種ヲ蠶種製造場所所在地ヲ管轄スル蠶業取締所ニ提出シ承認ノ申請ヲ爲スベシ

第二十條 蠶絲業法施行規則第三十三條但書ノ許可ヲ受ケ
交雜ニ依ル原蠶種ノ製造ヲ爲サントスル者ハ繭検査終了
後遲滞ナク様式第十二號ニ依ル申請書ヲ知事ニ提出ス
ベシ

第二十一條 蠶絲業法施行規則第三十四條ノ原蠶種検査請
求書ハ様式第十三號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ請求書ニハ繭検査合格證又ハ種繭證明書ヲ添附ス
ベシ

第二十二條 蠶絲業法施行規則第三十五條ノ普通蠶種歩合
検査請求書ハ様式第十四號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベ
シ

前項ノ請求書ニハ繭検査合格證又ハ種繭證明書ヲ添附ス
ベシ

第二十三條 蠶絲業法施行規則第三十六條第一項ノ普通蠶
種再検査請求書ハ歩合検査ニ不合格ト爲リタル旨ノ通知
ヲ受ケタル後何日以内ニ様式第十五號ニ依リ知事ニ之ヲ
提出スベシ

第二十四條 蠶絲業法施行規則第五十條ノ許可ヲ受ケタル
者ノ行フ繭ノ検査ニ合格シタル種繭ヲ用ヒテ製造シタル
蠶種ニ付同則第三十七條但書ノ許可ヲ受ケ同則第三十四
條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ蠶種ノ検査ヲ請求セント

二 鏡檢ノ方法

三 合格又ハ不合格ノ決定方法

第二十九條 蠶絲業法施行規則第五十九條第二項ノ規定ニ
依ル原蠶種検査届ハ検査開始ノ日ヨリ少クトモ何日前迄
ニ様式第十九號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ

第三十條 蠶絲業法施行規則第六十八條第二項ノ規定ニ依
ル原蠶種検査成績報告ハ検査終了後何日以内ニ様式第二
十號ニ依リ知事ニ之ヲ提出スベシ

第三十一條 蠶絲業法施行規則第六十九條ノ規定ニ依ル繭
検査済届ハ繭ノ検査終了後遲滞ナク様式第二十一號ニ依
リ知事ニ之ヲ提出スベシ

第三十二條 蠶絲業法施行規則第八十二條ノ規定ニ依ル桑
苗生産届ハ何月何日迄ニ様式第二十二號ニ依リ知事ニ之
ヲ提出スベシ

第三十三條 蠶絲業法施行規則第八十四條但書ノ許可ヲ受
ケ桑苗ヲ讓渡サントスル者ハ様式第二十三號ニ依ル申請
書ヲ知事ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ讓受人連署スベシ

第三十四條 蠶絲業法施行規則第八十五條ノ免許ヲ受ケン
トスル者ハ様式第二十四號ニ依ル願書ヲ知事ニ提出スベ
シ

スル者ハ様式第十六號ニ依ル申請書ヲ知事ニ提出スベ
シ

第二十五條 蠶絲業法施行規則第三十八條ノ移入又ハ輸入
蠶種検査請求書ハ様式第十七號ニ依リ知事ニ之ヲ提出ス
ベシ

第二十六條 蠶絲業法施行規則第四十七條第一項ノ規定ニ
依リ蠶種ノ容器ニ検査合格證印ノ押捺、封緘證印ノ押捺
又ハ封緘證紙ノ貼附ヲ受ケントスル者ハ様式第十八號ニ
依ル請求書及其ノ容器ヲ所轄蠶業取締所ニ提出スベシ

前項ノ請求書ニハ舊容器及已ムテ得ザル事由ヲ證スルニ
足ル書類又ハ臺紙ヲ添附スベシ

第二十七條 蠶絲業法施行規則第三十九條第二項ノ規定ニ
依リ蠶種ノ検査ヲ拒ミタルトキ又ハ同則第四十七條第三
項ノ規定ニ依リ検査合格證印ノ押捺、封緘證印ノ押捺若
ハ封緘證紙ノ貼附ヲ拒ミタルトキハ其ノ旨ヲ蠶種製造者
ニ通知ス

第二十八條 蠶絲業法施行規則第五十一條ノ許可ヲ受ケン
トスル者同則第五十六條ノ規定ニ依リ検査ニ關スル方法
ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請
書ヲ知事ニ提出スベシ
一 標本調製ノ方法

前項ノ願書ニハ履歷書及寫眞ノ外蠶絲業法施行規則第八
十六條第一項第二號ニ該當セザル旨ノ市町村長ノ證明書
ヲ添附スベシ寫眞ハ名刺形トシ出願前六ヶ月以内ニ帽ヲ
著ケズ半身ニテ撮影シ臺紙ニ貼附セザルモノニシテ裏面
ニ撮影年月日及氏名ヲ記載スベシ

第三十五條 蠶絲業法施行規則第八十五條ノ免許ヲ受ケタ
ル者死亡シ、業務ヲ廢止シ若ハ免許ヲ取消サレタルトキ
又ハ免許ノ期間滿了シタルトキハ遲滞ナク免許證ヲ返納
スベシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人、戸主、家族
又ハ雇主ヨリ之ヲ返納スベシ

第三十六條 蠶絲業法施行規則第八十五條第三項ノ規定ニ
依リ免許期間ノ更新ヲ申請セントスル者ハ様式第二十五
號ニ依ル申請書ヲ知事ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ寫眞ノ提出ヲ
命ズルコトアルベシ

第三十七條 蠶絲業法施行規則第八十七條ノ鑑札ノ交付ヲ
受ケントスル者ハ様式第二十六號ニ依ル申請書ヲ知事ニ
提出スベシ

鑑札ノ有効期間ハ交付ノ日ヨリ何年トス但シ其ノ期間ハ
申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

參考法規其ノ他參考事項

前項但書ノ申請ヲ爲サントスル者ハ様式第二十五號ニ依
ル申請書ヲ知事ニ提出スベシ
第三十八條 第三十五條ノ規定ハ蠶絲業法施行規則第八十
七條ノ鑑札ノ交付ヲ受ケタル者死亡シ若ハ業務ヲ廢止シ
又ハ鑑札ノ有効期間満了シタル場合ニ付之ヲ準用ス
第三十九條 蠶種製造免許證、蠶絲業法施行規則第八十五
條ノ免許證又ハ同則第八十七條ノ鑑札ヲ亡失シ若ハ毀損
シ又ハ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク再交付
又ハ書換ヲ知事ニ申請スベシ
第四十條 第二條、第十四條第二項、第十七條、第三十五
條若ハ第三十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第十八條若
ハ第二十條ノ申請書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓
以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第四十一條 本令ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ所轄蠶業
取締所ヲ經由スベシ
第四十二條 蠶業取締所及其ノ支所ノ名稱、位置及管轄區
域左ノ通定ム

名	稱	位	置	管	轄	區	域

蠶業取締所又ハ其ノ支所ノ出張所ヲ設ケタルトキハ其ノ
名稱、位置、管轄區域及開閉期日ハ之ヲ告示ス

附 則

本令ハ昭和四年法律第十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

第一號

蠶種製造免許願

住 所

名(名稱)印

蠶種製造場所									
管理者ノ氏 名及住所									
蠶種製造ノ用ニ供 スル建物ノ棟數									
蠶數									
室 面積									
概 蠶種製造額									
蠶兒飼育場所									
擔當者ノ氏名									
蠶兒飼育ノ用ニ供 スル建物ノ棟數									
蠶數									
室 面積									
掃立蟻量概定數									

右免許相成度此段相願候也

知 事 宛

氏

名(名稱)印

道府縣蠶絲業法施行手續標準

第二號

第 號

蠶種製造免許證

住 所

氏

名(名稱)

蠶絲業法第五條ニ依リ蠶
種製造者タルコトヲ免許
ス

年 月 日

道 府 縣 印

參考法規其ノ他參考事項

第三號

蠶種製造屆

蠶種製造場所	蠶種製造場所	計	豫普通蠶種製造額	豫蠶種製造額	原蠶種製造額	春蠶期		夏秋蠶期	
						越年不越計	越年不越計		
						蛾	蛾	蛾	蛾

右及屆出候也

年月日 住所 氏名(名稱)印

知事宛

第五號

蠶兒掃立屆

掃立口	蠶兒飼育場所	化性品名	原蠶種製造者(氏名)	掃立月日	掃立蟻量

右及屆出候也

年月日 住所 氏名(名稱)印

知事宛

道府縣蠶絲業法施行手續標準

第四號

生繭取扱屆

取扱場所	取扱豫定期間		取扱豫定數量	管理者ノ氏名及住所
	開始月日	終了月日		

右及屆出候也

年月日 住所 業種 氏名(名稱)印

備考

業種「生絲製造業」、「繭賣買業」、「繭乾燥業」等ト記載スベシ

第六號

蠶兒讓渡屆

掃立口ノ記號	讓渡前ノ蠶兒飼育場所	化性品名	原蠶種製造者(氏名)	掃立月日	掃立蟻量	讓渡後ノ蠶兒飼育場所	讓渡人ノ氏名(名稱)及住所	讓渡月日

右及屆出候也

年月日 住所 氏名(名稱)印

知事宛

參考法規其ノ他參考事項

第七號

繭檢查請求書

繭立口 ノ記號	蠶兒飼 育場所	化性 品種名	系統	始期	上簇ノ時期	豫收繭 月日
				終期		

右及請求候也

年月日 住所

氏 名(名稱)印

知事宛

第八號

繭搬出許可申請書

繭立口 ノ記號	蠶兒飼 場所	化性 品種名	系統	豫收繭 月日	豫收繭 數量	豫搬出 月日	豫搬出 數量	豫搬出 場所

右何ノ事由ニ因リ許可相成度此段及申請候也

年月日 住所

氏 名(名稱)印

知事宛

第九號

繭檢查合格證(種繭證明書)裏書申請書

繭立口 ノ記號	化性 品種名	種繭 數量	讓渡 (廢止)	讓受人ノ氏 名(名稱)及 住所
			讓渡 (廢止)	

右及申請候也

年月日 住所

氏 名(名稱)印

知事宛

道府縣蠶絲業法施行手續標準

第十號

種繭證明書交付申請書

繭立口 ノ記號	蠶兒飼 育場所	化性 品種名	系統	種繭 數量	讓渡人 氏名(名稱) 及住所	讓受 月日	蠶種製 造場所

右及申請候也

年月日 住所

氏 名(名稱)印

知事宛

三八三

三八二